

スルモ一般的ニ之ヲ爲サヌ治安ノ完全ニ維持セラレ居ル事ヲ條件トシ局地的課稅ヲ許ス事ニ邦商ニ對スル課稅ハ凡テ日系官吏ヲ使用スル事ニ既述ノ通煙酒稅統稅及出產稅等ハナルヘク包稅ノ方法ニ依リ此間手續ノ省略ト稅額ノ減少ヲ圖ル事等ヲ考慮ニ入ルヲ要ス

(三)現在ノ滿洲國ノ稅制ハ尙ホ固陋ナル舊套ヲ脫シ得ス例へハ海關通過ノ貨物ニ對シ所謂放行單ヲ發給シ之カ内地輸送ニ際シ地方稅局ニ於テ一々之ヲ検査シ而モ放行單ナキモノニ對シテハ内地稅ノ賦課ヲ爲ス如キ他ノ文

明國ニ見サル原始的方法ニシテ之力爲メ貿易ノ圓滑ヲ阻碍スル事不鮮少クトモ一旦内地ニ入りタルモノニ對シテハ特ニ脫稅ノ疑アルモノヲ除ク外ハ凡テ自由交易ヲ認ムルコトシ度シ尤モ他面從來比較「ルーズ」ナリトノ批難アル稅關當局ニ於テ一層嚴格ニ徵稅ヲ爲ス事ハ已ムヲ得サルヘシ又附屬地内ニ於テ生產セラル工場製品ニ對シテハ民國內租界工場製品課稅ニ關スル例モアリ條約及情理上必シモ不當ト認メ難キモノアルニ付キ前掲包納等ニ依ル出產稅及統稅ノ納付ヲ認ムル事トシ附屬地境界路ニ現ニ見ル如キ徵稅機關ヲ設ケ

一々檢貨ヲ爲ス如キ不體裁ト煩瑣トハ速ニ之ヲ廢止セシムルヲ要ス

(四)前掲鹽魚ニ對スル二重課稅ノ如キ條約上ヨリ云フモ情

理上ヨリ云フモ明ニ不當課稅ニ屬スルモノ及窃カニ消費者及小賣商ヨリ一重課稅ヲ爲シ居ルカ如キモノハ斷然之ヲ撤廢セシムルト共ニ將來課稅ヲ豫想セラルト満蒙毛織製品並「ゴム」靴等原料ニ對シテ既ニ關稅ヲ納付シアルモノニ付キテハ出產稅ノ免除又ハ輕減ヲ爲サシムル事ヲ要ス

(五)現ニ滿洲國側ニ於テ徵稅ヲ希望シ居ル稅目ニ營業稅アリ本稅ハ相當大ナル稅源ニシテ且ツ邦人内地居住營業ノ事實ヨリ不遠具体的要求アルヘク豫想セラルトコロカカル場合全然之ヲ拒絕スル事ハ情理上其理由ニ乏シカルヘク或程度ノ納稅ハ已ムヲ得サルモノト認メラル但シ營業稅ハ其性質直接稅ニシテ現ニ居留民カ負擔シツツアル民會費ノ稅源ニハ營業收益モ含マレ居ル次第ナルニ付假令之ヲ認ムル場合ト雖モ民會費ト重複セサル様手加減ヲ加フル事ヲ要ス

(了)

二 東北治安狀況および居留民保護問題

141

昭和七年一月六日 在安東米沢領事より

犬養外務大臣宛

避難民の朝鮮流入引止め方朝鮮總督府より依

頼について

(1月11日接受)

普通第一三號

昭和七年一月六日 在安東

領事 米澤 菊二〔印〕

外務大臣 犬養 肅殿
歸還鮮人ノ引止方ニ關スル件

二 東北治安狀況および居留民保護問題

(欄外記入)

今次ノ事變ニ因リ在滿鮮人中當地ニ避難シ來リタル者ハ頭初殆ト全部他管内ヨリノ避難民ナリシ關係上當館トシテハ右ハ何レモ鮮内ヘ歸還ノ目的ヲ以テ來レルモノト認メ嚴重調査ノ上鮮内ニ身ヲ寄スヘキ親戚故舊等アル者ニ付テハ出來得ル限り歸鮮セシムル方針ヲ執リ以テ一面鴨綠江一重ニテ朝鮮ニ接スル當地ニ之ヲ收容シテ無用ノ經費ヲ費消スル

コトヲ避クルト共ニ他面管下各地方ヨリノ避難ヲ誘致スルカ如キ結果ニ陷ルコトナキ様最善ノ注意ヲ拂ヒタル義ナル處昨今鮮内歸還者日々増加ノ傾向アルニ鑑ミ之ヲ此儘放任スルニ於テハ延テハ朝鮮統治上由々シキ影響ヲ及ホスノ虞アル趣ヲ以テ此等避難者ノ鮮内歸還引止方ニ關シ今般別紙寫ノ通朝鮮總督府ヨリ依頼越ノ次第アリ右ハ將來在滿鮮人安定ノ爲相當徹底セル施設行ハル限リ極メテ道理アル要求ト思料セラルニ付テハ今後他管内ヨリノ避難民ト雖モ本春農耕期ニ於テ原住地ヘ歸農スヘキ希望ヲ有スル者ニ付テハ必スシモ強テ鮮内ヘノ歸郷ヲ勸說セサルコトトスヘク他方客年十二月中旬以降急激ナル避難民ノ增加ハ一二安奉沿線附近一帶ニ於ケル匪賊ノ跳梁ニ因ルモノニシテ此等ハ固ヨリ匪賊ノ脅威ニシテ終熄スルト共ニ原住地ニ歸還スキモノナルヲ以テ鮮内ヘ送還スヘキ筋合ノモノニアラス旁々目下收容中ノ者本月五日現在九百十一名(內他管内ヨリノ避難者百三十二名)ハ當分當地ニ收容保護ヲ加フルノ

二 東北治安状況および居留民保護問題

洮南	五二八
鄭家屯	三七〇
長春	八七一
公主嶺	六一五
四平街	六七八
遼陽	七一七
開原	七一
鐵嶺	七
新台子	三五
奉天	九一一
撫順	九八五
本溪湖	七六
海龍	一、二九七
安東	九一
牛莊	四四三
遼陽	一、七三四
開原	一、七三四
鐵嶺	七一七
新台子	七一
公主嶺	四平街
長春	四平街
鄭家屯	長春
洮南	公主嶺

避難鮮人ノ數ハ其後漸次増加シ一月七日現在別表ノ通りニ付右御参考迄報告申進ス

本信發送先 外務大臣、朝鮮外事課長

避 難 鮮 人 調 (昭和七年一月七日現在)

吉林	二八八
哈爾賓	六七
齊々哈爾	五四
計	一一、一三五

143 昭和7年1月16日

芳沢外務大臣より
在安東米澤領事宛(電報)

鶴綠江下流地方における朝鮮人迫害問題につ
き輯安縣長に嚴重抗議方訓令

本省 1月16日後8時発

第二號

一月六日附機密第七號及同七日付普通第一八號貴信ニ依レ
ハ鶴綠江下流一帶及上流輯安縣方面居住鮮人ニ對シ支那官
民ハ我方ノ警備力及ハサルニ乗シテ漸次不當ノ迫害ヲ加フ
ルニ至リタルモノノ如クナル處貴館警察ノ手不足ナル此際
殊ニ輯安方面ニ現地保護ヲ加フルノ餘力無キハ甚々遺憾ト
スル所ナルカ此保ニ放任セムカ貴地ヘノ避難者モ益々增加
シ春耕期ニ於ケル現地帰還モ覚束無ク其結果極メテ憂フヘ
キモノアルヤニ思考セラレ旁々此際相當ノ威嚇ヲ加ヘテ支

外ナキモノト思料セラルニ付右様御了知相成度尙此等避
難民ニ對シテハ出來得ル限り勞務ノ機會ヲ與ヘ墮眠ニ陥ル
コトナキ様留意ヲ要スル處之カ應急對策トシテハ差當り授
產場ノ增築及授產作業ノ開始等目下夫々準備中ナリ
右報告申進ス

本信寫送付先 奉天

(別紙)

昭和六年十二月十八日

朝鮮總督官房外事課長

安東

米澤領事殿

歸還鮮人ノ引止ニ關スル件

今次事變發生以來在滿移住鮮人中鮮内ニ避難スヘク歸還ス
ル者日々増加ノ傾向ニアリテ延テハ朝鮮統治上ニモ影響ス
ル所甚夕多シ貴官ニ於テモ已ニ此ノ點ヨリ御洞察ノ上出來
得ル限り彼等ヲ鮮内ニ歸還セシメサル様努メ居ラルコト
トハ存シ居ル次第ナルモ目下本府ハ勿論中央政府ニ於テモ
今後ニ在滿鮮人ノ安定策ニ就テハ種々講究シ居ル事ナレハ明

春以後ハ彼等ヲ安定セシムル爲ノ諸種ノ施設從前ニ倍スル
モノアルヘキヲ信スルニ付此際避難鮮人ニ對シテハ勿論奥地在住鮮人ニ對シテモ一層手厚キ保護及救濟ノ方法ヲ講セラレ且ヨク彼等ヲ慰撫シ鮮内ニ歸還セントスル者ヲ引止ム
ヘク最善ノ御配慮相煩度シ

(欄外記入)

朝鮮トシテハ尤ノ希望ナルヘシ、但シ之ヲ對岸新義州ニ置ク

ト幾何ノ差アリヤ(相場理事官印)

142 昭和7年1月8日 在奉天森島總領事代理より
大養外務大臣宛

普通第一一號

昭和七年一月八日

在奉天

外務大臣 大養 穀殿

避難鮮人增加ノ件

總領事代理 森島 守人〔印〕

(1月12日接受)

滿州各地における朝鮮人避難者数について

昭和七年一月八日

在奉天

外務大臣 大養 穀殿

避難鮮人增加ノ件

總領事代理 森島 守人〔印〕

那側官憲ノ反省ヲ促スノ必要アリト認メラル、ヲ以テ輯安

縣長ニ対シ若シ支那側カ鮮人壓迫ノ態度ヲ改メサルニ於テ

ハ好マシキコトニハアラサルモ我方トシテモ実力保護ヲ加

フルノ已ムナキニ至ルヘキコト嚴重警告シ置カレ度ク又渾

水泡方面ニ対シテハ関東廳發拓務省宛電報ニ依レハ十四日

貴館警察ヨリ警察官ヲ派遣シ支那公安隊ト協力匪賊討伐ニ

出動セシメラレタル趣ニモアリ今後モ機会アラハ成ルヘク

度々出動セシメ一般支那人ニ対シテモ我現地保護ノ威力ヲ

示シ置カル、コト肝要ナルヘシ尚韓安縣ノ如キハ場合ニ依

リテハ對岸朝鮮側ニ於テ警察ノ示威的行動(濫リニ越境ス

ルカ如キハ萬已ムヲ得サル限り差控フヘキハ勿論)ヲ必要

トスルヤモ知レサルニ付要スレハ貴官限リノ發意トシテ豫

メ朝鮮側ノ諒解ヲ求メ置カル様致シ度尚ホ冒頭貴信ハ参考ノ爲朝鮮總督府ヘ通報シ置カレタシ

奉天ヘ轉電アリタン

144 昭和7年1月16日 在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

避難民帰還には警察力充実を要する旨意見具申

官派駐方意見具申

安 東 1月18日後発
本 省 1月18日後着

第一五號(部外秘) 貴電第二號ニ關シ

ノ際甚タシク重要ナル問題ニアラス)支那側巡警協力ノ下ニ鮮農部落ノ安全ヲ保障スルコト必要ナリ當館管内トシテハ此ノ目的ノ爲少クトモ現在ノ事態ニ鑑ミ鳳城縣大堡(附近一圓ノ鮮農八百五十人)安東縣渾水堡(五百四十人)ニ夫々警部補一、巡查二十、巡補二十、莊河縣大孤山、鳳城縣黃旗街(何レモ日下卅人ナルモ將來ノ大移住ヲ見込ム)ニ夫々警部補一、巡查十五、巡補廿、安東縣大東溝(四百四十人)ニ警部補一、巡查十、巡補一(脱)安東縣雪裡樹(二百五十人)ニ部長一、巡查五、巡補一(脱)ノ配置ヲ必要トシ之カ實現ニシテ不可能ナル限り現在當地及鳳城縣(最近四、五百人ノ避難民押寄セ來リ之カ救濟方法目下考究中)ニ於ケル避難民ハ原地歸還ノ機會ヲ失フヘク自然之等ニ對シ不定期ニ亘リ收容救護ヲ加ヘサル可カラサルヘシ就テハ右至急御考慮相煩ラハシ度奉天、關東長官ヘ轉電セリ

安 東 1月16日前發 本 省 1月16日後着

各地ニ於ケル避難民ノ救護ハ無期限ニ繼續シ得ヘキニアラ

サルハ勿論ニシテ農耕期ノ切迫ト共ニ此ノ際速ニ之カ處置ニ付考慮ヲ要スヘキ處差當リノ問題トシテ考究ヲ要スルハ匪賊ニ依ル不安ノ爲附屬地ヘ避難シ來レル鮮農ニ對シ原住地歸還ヲ可能ナラシムル爲警察力ヲ以テ保護スルヲ必要トスル程度及地域ナルヘク當館トシテハ現在ノ避難民中約八割ハ最近ニ於ケル安奉沿線及鴨綠江下流地方ノ脅威ニ基ク避難民ニシテ此等ハ此ノ方面ニ於ケル治安ノ恢復ト共ニ一刻モ速ニ原地ヘ歸農センコトヲ希望シ居ルモノナリ從テ此等地方匪賊ノ剿滅ハ此ノ際最モ重要ニシテ特ニ農耕期ヲ前ニ控ヘ之力急速實現ヲ緊切トスル次第ナル處全般的且ツ安全ナル剿滅ハ現在ノ軍隊ノ力ヲ以テシテハ到底早急ニ之力効果ヲ期待シ得ヘキニアラス結局ハ支那警察隊ヲシテ我カ指導監督ノ下ニ之ヲ行ハシムルノ外ナシト思考スルモ差當リ本春農耕ニ間ニ合ハス爲ニハ早キニ臨ミ其ノ可能ナル範圍ニ於テ我カ警察力ヲ充實シ(此等警察官ノ歸屬系統ハ此

對シ嚴重申入ヲ爲シ居ル次第ナルモ同地方ハ何分事變直後一般ニ危惧シタル朝鮮側ヨリノ軍隊又ハ警察官ノ出動モ遂ニ其事ナクシテ終リ今日トナリテハ格別我方ノ出方ニ恐ヲ爲スノ要ナシトノ安心ヲ抱クニ至レルモノノ如ク實力保護ノ手段ニ依ル威嚇ヲ加フルノ要アルヘキ處對岸朝鮮側警察ノ助力ヲ求ムル事トスルモ越境セサル限り示威運動ノ效果少ナカルヘク左リトテ越境ハ猥リニ之ヲ爲スヘキニアラサルヲ以テ此ノ際寧口通溝ニ外務省警察官數名ヲ駐在セシメ支那側ノ遣口ヲ監視セシムル事最モ實際ノ目的ニ適スヘク將來ハ帽兒山分館ノ設置ヲ待チテ同分館ノ出張所トスル事然ルヘキト存ス就テハ客年往電第二一〇號稟請ト併セ篤ト

御考慮相煩ハシタシ

支、北平、奉天へ轉電セリ

~~~~~

146 昭和7年1月27日

高橋(貫二)ハルビン日本居留民会会长より  
芳沢外務大臣宛(電報)

李杜・丁超軍のハルビン進出に対し出兵方請

願について

ハルビン 1月27日後発

本省 1月28日前着

(至急)

哈爾賓居留民刻々危急ニ瀕シ現地保護ノ爲急速出兵アラン  
コトヲ本日懇請ニ及ヒ置キタル處其後當地支那軍隊ハ反日  
的態度ヲ露骨ニシ郊外不時着陸シタル日本飛行將校ヲ銃殺  
シ或ハ避難途上ニアル邦人及鮮人ヲ迫害シ鮮人數名虐殺セ  
ラル尙夜ニ入りテ日本人經營大北新聞社ヲ掠奪シ形勢益々  
悪化最早寸毫ノ猶豫ヲ許サス人心極度ニ不安トナル就テハ  
即時出兵現地保護ノ御取計アランコトヲ重ネテ懇請ス

往電第二六號藏省長ト會談ノ序ヲ以テ本官ヨリ管内輯安及  
桓仁兩縣ニ於ケル支那官憲ノ移住鮮農ニ對スル保護今尙十  
分ナラサル次第ヲ最近ノ實例ヲ舉ケテ説明シタル上此際省  
政府ヨリ右兩縣當局ニ對シ鮮人保護方ニ付適當ノ措置ヲ講  
セラレ度キ旨申入レタル處藏省長ハ奉天省各縣ニ對シ去ル  
三十日附ヲ以テ正式ニ縣長ヲ任命從前ノ縣長又ハ現執行  
委員長ヲ任命シ自治執行委員長ヲ兼ネシムシタル矢先ナ  
レハ幸此機會ニ一般的ニ今後ノ日支關係カ從前ノ其ト全然  
趣ヲ異ニスル次第ヲ諭シ移住鮮農ニ對シテハ十分誠意ヲ以  
テ保護ヲ加フヘキ旨ノ訓令ヲ發スヘク若シ該兩縣ニ於テ尙  
鮮農ニ對スル態度ヲ改メサルニ於テハ當局者ヲ免職スルハ  
勿論相當處罰ヲ爲スヘキ旨言明セリ

奉天、長春、牛莊、遼陽、鐵嶺、鄭家屯、關東廳長官、朝

147 昭和7年2月2日 在安東米沢領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

奉天省長に朝鮮人農民保護方申入れについて

安東 2月2日後発  
本省 2月2日後着

第二七號

(藏カ)

往電第二六號藏省長ト會談ノ序ヲ以テ本官ヨリ管内輯安及  
桓仁兩縣ニ於ケル支那官憲ノ移住鮮農ニ對スル保護今尙十  
分ナラサル次第ヲ最近ノ實例ヲ舉ケテ説明シタル上此際省

政府ヨリ右兩縣當局ニ對シ鮮人保護方ニ付適當ノ措置ヲ講  
セラレ度キ旨申入レタル處藏省長ハ奉天省各縣ニ對シ去ル  
三十日附ヲ以テ正式ニ縣長ヲ任命從前ノ縣長又ハ現執行

委員長ヲ任命シ自治執行委員長ヲ兼ネシムシタル矢先ナ  
レハ幸此機會ニ一般的ニ今後ノ日支關係カ從前ノ其ト全然  
趣ヲ異ニスル次第ヲ諭シ移住鮮農ニ對シテハ十分誠意ヲ以  
テ保護ヲ加フヘキ旨ノ訓令ヲ發スヘク若シ該兩縣ニ於テ尙  
鮮農ニ對スル態度ヲ改メサルニ於テハ當局者ヲ免職スルハ  
勿論相當處罰ヲ爲スヘキ旨言明セリ

奉天、長春、牛莊、遼陽、鐵嶺、鄭家屯、關東廳長官、朝

鮮總督ニ轉電セリ  
奉天ヨリ通化、海龍、新民府へ轉報アリタシ  
長春ヨリ農安へ轉報アリタシ  
鐵嶺ヨリ掏鹿へ轉報アリタシ

148 昭和7年2月8日 在奉天森島總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

救済金給与の風聞による避難者増加の傾向に  
対し右打消し方を満各領事に依頼について

奉天 2月8日後発  
本省 2月8日後着

第二〇一號  
本官發在滿各領事宛電報

合第一二七號

(欄外記入)

穗積外事課長目下奉天へ出張中ニテ打合ノ結果第二段ノ措置

ヲ為ス下心ニテ本電ヲ發シタルモノト思ハル、

時節柄適切ナル電牒ナリ

合會ノ名ニ於テ關係方面へ提出セラレタル陳情書ノ一端カ  
誤解セラレタルモノニ依ルモト思考セラル  
合會ノ名ニ於テ關係方面へ提出セラレタル陳情書ノ一端カ  
誤解セラレタルモノニ依ルモト思考セラル

149 昭和7年2月8日 在ハルビン大橋總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍ハルビン進出後における中東鉄道沿線の居留民保護方張景惠に依頼について

ハルビン 2月8日後発

本省 2月8日後着

外務大臣 芳澤 謙吉殿 領事 荒川 充雄〔印〕  
錦縣在住者二閥スル件

第一三三號

我軍入哈後敗殘兵横行ノ爲奥地邦人ノ安否氣遣ハレタルヲ以テ七日在寧古塔趙芷香及同縣知事ニ對シ充分保護スル様直接電報スルト共ニ張景惠ヲシテ東支沿線各地官憲ニ對シ保護手配方電報セシメ置キタル處其後各地居留民會ヨリノ來電ニ依レハ現在迄ノ處南部線ハ勿論西部線並ニ東部線各地共ニ大体平穩ニシテ異狀ナキモノノ如シ

公使、奉天、吉林、長春、滿洲里、齊々哈爾ニ轉電セリ

地、奉天、吉林、長春、滿洲里、齊々哈爾ニ轉電セリ

公使、奉天、吉林、長春、滿洲里、齊々哈爾ニ轉電セリ

飲食店 八戸(鮮人經營一戸)

但シ目下數戸ニ就キ詮議中ノ外十數戸ヲ不許可トス尚右ノ如ク多數ノ内鮮人一時ニ入り込ミタル爲家屋ノノ拂底ヲ來シ内ニハ支那人居住ノ家屋ヲ強制的ニ立退カシメタルモノアル模様ニテ後日問題トナル懸念モアル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先 北平

~~~~~

151 昭和7年2月10日 在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人避難民の帰還対策について

安東 2月10日後發

本省 2月10日後着

第三三號

被害鮮人ノ歸農問題ハ農耕期ノ切迫ト共ニ差迫リ之カ解決

ヲ要スル處昨今一部ニ傳ヘラルルカ如キ全般的現地歸農ヲ可能ナラシムル爲ニハ奥地一帶ニ亘ル治安ノ回復ヲ先決問

題トス可ク右ニシテ現下ノ實情上早急之ヲ期待シ得ヘカラ

サル以上差當リ可能ナル範圍ニ於テ最大數ノ避難民ヲ處置

スルノ方法ヲ講スルノ外ナシト思考セラル當館トシテハ目下安東及鳳凰城ニケ所ニ於ケル鮮人中原住地歸還ヲ希望スル者(鳳凰城奥地一帶ヨリノ避難者ハ殆ト之ニ屬シ兩收容所ヲ通シ約二百六十戸一千三百名)ニハ其ノ希望達成ニ對シ極力援助ヲ與ヘ(往電第一二號警察官派駐要求ハ此ノ趣旨ニ出ツ)昨今徐文海一味ノ歸順問題ニ付關係方面ト協議ヲ進メ居ルモ右ノ目的ニ外ナラサル次第ナル處之ニ反シ原住地歸還ヲ欲セサル者ニ付テハ治安ノ維持ト生活ノ安定トノ兩方面ヲ考慮シ比較的手近ナル地域ニ相當面積ノ農耕地ヲ選ヒ之ヲ買收又ハ商租シ所謂集團移民ヲ行ヒ一面相當數ノ警察官ヲ常駐シ支那側公安隊又ハ自警團ヲ指導シテ治安ノ維持ニ任セシムルト共ニ他面移住者ヲ以テ組合ヲ組織シ日本人監督ノ下ニ土地ノ相互共濟ヲ行フ外金融組合ヲ活用シ農耕資金ノ融通ヲ行ハシメ追テ再ヒ從前ノ農奴的境遇ニ陥ル事ヲ防クノ方法ヲ肝要ト認メ差向キ之カ候補地トシテ安東縣大東溝及寛甸縣孤狼子ノ二ヶ處ヲ選定シ目下夫々必要ナル具体的調査ヲ進メ居レリ

朝鮮人避難民の原地帰還問題に關し應急策と
して警官配備と自衛のほかにつき必要警

官數等查報方在満各領事宛依頼について

別電 二月十七日着在奉天森島總領事代理より芳沢

外務大臣宛第三三八號

原地帰還不能の避難民に対する移住候補地回

報方在満各領事宛依頼について

奉天 2月16日後発

本省 2月17日後着

第二三七號

本官發長春、遼陽、牛莊、鐵嶺、安東、海龍、通化、農安、
新民府、撫鹿宛電報

合第一四八號

目下各地ニ收容中ノ鮮人避難民ハ農耕期ノ切迫ニ伴ヒ最近
ノ機會ニ原住地ニ歸還セシムル様スヘク朝鮮總督府側ト協
議ノ結果大体別電申進ノ方針ニ依リ進ミ度キ意嚮ノ處右ニ
關聯シ治安維持ノ爲適當ノ措置ヲ講スルニ非サレハ鮮人ノ

歸還モ所詮實行困難トナルヘキ處鮮カラス曩ニ本省ニ於テ
各館ヨリ警官派出所新設案ヲ徵セラレ又關東廳ニ於テ目下
中央ト警官增員方協議ヲ遂ケツツアルハ要スルニ滿蒙ニ於
ケル内鮮人發展ノ爲治安ノ維持ヲ確保スルノ趣旨ニ出ツル
モノニシテ又軍ニ於テハ軍事行動ニ依ル匪賊討伐ノ外支那
公安隊ノ充實等ノ手段ニ依リ支那側自身ヲシテ匪賊討伐ニ
銳意努力セシメ居ル實狀ナルモ外務省側ニ於ケル派出所新
設案又ハ關東廳ノ警官增員案ノ實現迄ニハ猶相當ノ時日ア
ルモノト認メサルヲ得サルヘシ從テ歸還鮮農ニ對スル現地
保護ノ爲ニハ本省ヨリ電訓アリタル警察官歸屬ニ關スル根
本問題トハ別個ニ過渡的應急策ヲ講スルコト目前ノ急務ニ
シテ之力爲ニハ必要ノ個所ニ臨時のニ警官ヲ配置スルト共
ニ相當ノ武器ヲ備付ケシメ必要ノ場合鮮農ニ貸與シ警官指
導ノ下ニ鮮農ヲシテ自衛的措置ニ出テシムルノ外無シト信
ス而シテ之力實行案トシテハ沿線各地警察ヨリ必要數ノ警
官ヲ鮮農居住地ノ爲ニ割キ右ニ依ル警備力ノ缺陷ハ朝鮮總
督府ヨリ適當數ノ應援ヲ仰キ之ヲ補充スルコト最モ實行性
アルヘク必要ニ應シ當館ニ於テ關東廳並ニ總督府ト協議ヲ
遂ケ度キ所存ニ付貴館内ニ於テ避難民歸還ノ爲警官配置ヲ

必要トル個所、必要警官數及武器ノ數量(最少限度)ノ見積
リ)至急電報アリ度シ

長春ヨリ農安ヘ、鐵嶺ヨリ撫鹿ヘ夫々轉報アリ度シ

大臣、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ヘ轉電セリ

(別電)

奉天 発
本省 2月17日前着

第一三八號

本官發在満各領事宛電報

合第一四九號

歸還不能ノ避難民ヲ集團的ニ移住セシムヘキ土地ノ選定ニ
付テハ折角御努力中ノコトト思考セラル處右ニ關シ當館

ニ於テ目下來奉中ノ穗積外事課長ト打合セノ結果有望ナル
移住候補地ニハ至急適當ナル技師ヲ派遣シ實地調査ヲ行ハ
シムルコトトナリタルニ付貴館管内ニ於ケル移住候補地

(便宜上既報ノ分ヲモ合セテ)其位置、面積、收容見積數其
他必要事項至急取纏メ御回報煩ハシ度シ

本電宛先満洲里ヲ除ク在満各館

二 東北治安状況および居留民保護問題

(1) 耕地ノ選定ニハ各地領事館及東亞勸業之ニ當ル
(2) 有望ナル候補地ニ付テハ朝鮮總督府ヨリ適當ナル技術者ヲ派遣シ實地調査ヲ行ハシム

三 原住地歸還鮮農ノ保護ニ付テハ往電合第一四八號(大臣宛往電第二三七號)及大臣宛往電第一四〇號參照

四 避難民歸還ニ際シテハ旅費食費等ヲ支給スルコトトシ義捐金及外務省支出ノ救濟費ヲ以テ支辨ス(金額ニ付テハ各

種事情攻究ノ上追電ス)

五 避難民及原地ニ在リテ農耕資金ニ窮スルモノニ付テハ貸付ノ方法ニ依リ適宜金融ノ途ヲ講ス

原則トシテ避難民ニ對スル農耕資金ハ義捐金并外務省支出救濟費ノ殘額ヲ以テ支辨シ其ノ他ノモノニ對シテハ朝鮮總督府ニ於テ追加豫算ニ計上要求中ノ金圓ヨリ支出ス

(右ノ場合兩者ノ間ニ不公平ナキヲ期シ金額ハ攻究ノ上追電ス)

六 農耕資金ノ貸與、歸還不能者ノ移植等ノ實行方法ニ付テハ引續キ攻究ス

本電宛先

大臣及滿洲里ヲ除ク在滿各領事

しての留意点について

154 昭和7年2月21日 在ハルビン長岡總領事代理より

芳沢外務大臣宛(電報)

丁超軍の一一面坡入りに關し同地居留民保護方

丁超宛依頼電報發出について

ハルビン 発

本省 2月21日後着

第一七七號(至急)
往電第一七六號ニ關シ

今廿一日早朝丁超軍一面坡ニ入り市中混亂在留民ハ爲ス所ヲ知ラサル旨同地民會長ヨリ電話アリ通話不充分ニテ狀況詳カラサルモ不敢同地丁超宛トシ本官ヨリ保護方依頼電ヲ發シ置キタリ

尙當地長官公署トモ打合ノ上最善ノ方法ヲ執ル所存ナリ前電ノ通轉電セリ

155 昭和7年2月22日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮人避難民帰還實行案および同案作成に際

奉天 2月22日後発

本省 2月22日後着

第二七二號

往電第二四三號ニ關シ

一、避難民歸還實行案ハ大体左ノ諸點ヲ考慮ノ上決定セリ

(一) 避難民歸還ノ爲使用シ得ル資金トシテハ朝鮮總督府保管

ノ義捐金二十五萬圓、外務省救護費殘額約十五萬圓(既出約三萬圓義捐金立替約四萬圓)計約四十萬圓ト見込ミタリ但シ右兩者ハ便宜上一括使用スルモ內面的ノ經理ハ全然別個ニ取扱フモノトス

(二) 現在避難民總數ハ相當ノ増加ヲ見込ミ一萬八千即約三千六百戸ヲ計算ノ基礎トセリ

(三) 避難民原地歸還ニ當リテモ歸還時期ノ如何ヲ問ハス本年度内(三月末)ノ救護費ヲ支給スル要アルハ勿論事變後ハ前

年ト事情ヲ異ニシ支那人地主等ヨリ生活費借入ノ途ナキモノ多數アルヘキニ付本年度末ヲ以テ救護ヲ打切ルトキハ從來ノ救護ヲシテ無意義ナラシムルニ止マラス鮮農ヲシテ去就ニ迷ハシムル結果トナルヲ以テ本年秋收穫期迄ノ生活費

ニ付テモ考慮ヲ加へタリ

三、歸還不能者ニシテ適當ノ耕地ニ集團的ニ移住セシムルモ

ノモ原則トシテ歸還者同様ニ取扱フコトトス但シ年租料ハ個々ニ支給セス一括年租セシムルコトアルヘシ
四、避難民ハ今尙増加ノ虞アルニ付農具費家屋建築費等ハ地方ノ状況ニ依リ減額シ又食費ノ如キモ事情ニ依リ給與期間ヲ打切ル等出來得ル限り節約ノ方針ヲ執リ萬一ノ不足ニ備フル意向ナリ

「バラフレーズ」ノ上在満各館へ郵送セリ

156 昭和7年2月24日 在ハルビン長岡總領事代理より 芳沢外務大臣宛(電報)

一面坡以外には引揚げ勧告を発出しない方針

について

ハルビン 2月24日後発
本省 2月24日後着

第一九〇號
露宛往電第五二號ニ關シ

一、二十四日午前當地「ソ」聯領事ニ申入レタリ同官ニ於テ必要ノ措置ヲ執リタル筈ナリ

一、右ニテ一應在留民避難ニ關スル手配ヲ了シタル次第ナル

カ各地民會ヨリノ來電ニ依レハ何レモ我軍ノ出動ニ依ル現地保護ヲ希望シ居ルモノノ如キ一方軍到着迄ノ危険ハ充分豫想シ得ラルモ小數ノ内地人ノミナラハ兎ニ角當然多數ノ鮮人ニモ及ホササルヘカラサル引揚ノ勸告又ハ命令ヲ此際當館ヨリ出スコトハ徒ニ混亂ヲ生セシムル虞モアリ旁相當考慮ヲ要シ且本官トシテハ軍ノ出動ハ在留民現地保護ヲ目的トルモノナリトノ立前ヲ執ルヘキ筋合ナリト考ヘラルヲ以テ既報一面坡日鮮人民會ニ對スルコトトセリ尤各地在住内地人及其關係者ヨリノ問合ニ對シテハ任意引揚勸告ノ所存ナリ

二、二十三日晝頃迄ニ得タル一面坡民會長ヨリノ通信及調査ノ爲當館ヨリ派遣シタル支那人ノ報告ニ依レハ全地居住日本人家屋ノ殆ト全部掠奪ニ遭ヒ支那軍ハ當館ヨリ依頼電報モアリタリトテ特ニ代表者ヲ呼出シ保護方言明シ鮮人一名ノ負傷以外ニ身体ニ危險ヲ受ケタルモノナキモ數ヶ處ニ集合避難シテ不安ニ怯ヘツツアル由ナルカ當館引揚勸告ハ昨日中電話不通ニテ通達出來ス右ニ關スル電報モ今朝發車ニ

間ニ合フ様到着セリヤ否ヤ疑ハシ

一、既報葦河ヨリノ本邦人五名ハ特別區警察署長ノ好意ニ依リ無事來哈スルヲ得タル由ナルカ一面坡ニ於テモ特警署側ハ支那軍トノ間ニアリテ在留日鮮人保護ニ盡力シ居ル趣ニテ今後共全線ニ互リ同様ナルヘシト存セラル

露支北平奉天吉林間島浦潮齊々哈爾滿洲里ヘ轉電セリ

157 昭和7年2月25日 在奉天森島總領事代理より 芳沢外務大臣宛(電報)

三矢協定廢止の交渉方につき朝鮮總督府より

要請について

奉天 2月25日後発
本省 2月25日後着

第三〇八號(至急)
貴電第三七號ニ關シ

先般朝鮮總督府池田警務局長本官ニ對シ三矢協定ノ廢止ニ付テハ朝鮮總督府トシテ方針決定シタルニ付本官ヨリ支那側ニ對シ廢止方話合ヲ進メラレタキ旨申出アリタル處本廿五日同府警務課長來訪出來得レハ數日ノ滯在中ニ廢止ノ手

續ヲ講シタキ趣ヲ以テ案文ヲ内示セリ(單ニ大正十四年六月十一日附ノ三矢協定及大正十四年七月八日附三矢協定ノ細則ヲ廢止ストノ覺書ニ双方調印スルコトナリ居レリ)本官トシテハ同協定ニ關シテハ多年支那下級地方官憲間ニ^(膠カ)浸込ミ居ル爲今後地方ニ依リ鮮農ノ自警ヲ必要トルカ如キ場合ニハ支那官憲トノ間ニ誤解又ハ事故ヲ起スナキヲ保セス從テ避難鮮人歸還ニ際シテモ一方的ニ官憲ヲシテ往電第三〇五號保護方命令ヲ出サシムルト共ニ他方三矢協定ヲ取消シ置クコト鮮人ノ保護ヲ完全ナラシムル上ニ必要ト思考シ居ル次第ニ本協定ノ利害ニ付テハ既ニ定評アル如クニモアリ且ツ本件話合ハ同協定締結ノ經緯ヨリ云フモ總督府側ニ反對ナキ限り本省トシテ之ヲ差留メラルヘキ理由モナキコトト存スルニ付此ノ際支那側ト話合ヲ始ムルコトト致シタク何等御意見モアラハ至急御同電相成度シ

158 昭和7年2月29日 在奉天森島總領事代理より 芳沢外務大臣宛(電報)

避難民原地帰還のため関東庁警察官二百名臨時出張につき同庁警務局長内諾について

二 東北治安状況および居留民保護問題

奉天 2月29日後発
本省 3月1日前着

159 昭和7年2月29日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

第三三四號 鮮人避難民帰還ノ前提條件タル警察官ノ臨時出張ニ關シテハ貴電第七三號ノ次第モアリニ十八日ノ沿線領事會議ニ於テ再應協議具体案具申ノ事ニ決定シ居タル處二十九日關東廳警務局長來訪ノ際同廳警察官増員計畫ノ一部ハ既ニ大藏省側ノ了解ヲ得不取敢三月分豫算トシテ一千五百人分三十萬圓支出ノ内諾アリ同案ハ近々實現ノ運ヒトナルヘキ旨話シアリ本官ヨリ鮮人原住地歸還ノ爲ニハ大体二百名内外ノ臨時出張ヲ要スルヲ以テ右人員丈其方ニ振向ケ方話合ノ上同意ヲ得タルニ付鮮警應援案ハ大体御詮議ノ必要ナシト認ム

長春、鄭家屯、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊、海龍、通化、新民府ヘ轉電セリ

長春ヨリ農安ヘ轉電アリタシ
鐵嶺ヨリ榆鹿ヘ轉電アリタシ

長春、鄭家屯、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊、海龍、通化、新民府ヘ轉電セリ

長春ヨリ農安ヘ轉電アリタシ
鐵嶺ヨリ榆鹿ヘ轉電アリタシ

長春、鄭家屯、鐵嶺、遼陽、安東、牛莊、海龍、通化、新民府ヘ轉電セリ

長春ヨリ農安ヘ轉電アリタシ
鐵嶺ヨリ榆鹿ヘ轉電アリタシ

第三三六號 本官發沿線各領事宛電報合第一八二號ニ關シ二十八日鄭家屯、鐵嶺、遼陽、營口、安東各領事、長春藏本書記生新民分館主任及穗積外事課長等會合避難民歸還問題ニ關シ協議ノ結果大要左ノ通り
一、避難民歸還實行案ハ大体往電第二七二號ノ通り決定セリ但シ食費ノミハ鮮農ノ實情考慮ノ上十圓ヲ增加シ合計一戸ニ付百二十圓ヲ給與スル事トス
尤モ右經理ニ付テハ外務省給與費及義捐金ヲ一先ツ奉天ニ集中ノ上避難民ノ戸數ニ應シ一括管轄領事館ニ送附シ管轄領事ニ對シ支途ニ關シ或程度ノ自由裁量ノ餘地ヲ與ヘサル限り本案ノ運用困難ナリトスルニ一致セリ但當館ヨリ各館ニ送金スル場合ニハ今後新タル避難民ノ生シタル場合ヲ

考慮シ一先ツ一戸當リ百圓見當ヲ送附スルコトトシ殘餘ハ年度末迄當館ニ保管シ不時ノ用意ニ充ツル事トセリ

三、避難民ノ現地歸還ノ可能性ニ關シ

(1) 現在避難民ノ過半數ヲ原地ニ復歸セシメタル上殘リノ歸還不能者モ全部管内ニ於テ適當ナル耕地ヲ求メ移住セシメ得ル場所、安東、營口

(2) 管内歸還不能者ヲ適當ノ耕地ニ移住セシメタル上尙他管内ノ歸還不能者ヲ收容シ得ル餘裕アルモノ、遼陽、長春

(3) 歸還不能者ヲ移住セシムルニ適當ノ耕地無キモノ又ハ歸還不能者全部ヲ管内ニテ消化スルコト不能ナルモノ、奉天、鐵嶺及鄭家屯

右協議ノ結果大體鄭家屯ノ歸還不能者約七百名ハ長春管内ニ、奉天ノ歸還不能者約千名ハ遼陽及海龍管内ニ移住セシムル見込アルモ鐵嶺ノ避難民約三千一百名ノ大部分ハ最近ニ軍側ニ於テ匪賊討伐ヲ實行セサル限り原地復歸ハ不可能ナルヲ以テ當館ヨリ軍側ニ對シ右討伐實行方協議ノ筈ナル

カ同時ニ何レカニ適當ノ耕地ヲ物色スルヲ要スル次第ナリ

三、萬寶山關係鮮農ノ救濟ニ關シテハ(長春發閣下宛二月廿三日附機密公第九三號參照)勸業公司ニ引受ケシムルコト

160 昭和7年3月(1)日 在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

中東鐵道東部線沿線各地よりの引揚げ状況について

ハルビン 発
本省 3月1日後着

ついて

寧古塔ヨリノ避難者及海倫牡丹江石頭河子等ノ在留内地人

往電第二二一號ニ關シ

本省 3月1日前着

第三三四號

計四十三名本日着哈シタリ之ニテ東部線ハ「ポグラ」ヲ除

キ鮮人以外大部分ノ内地人引揚ケタルコトナレリ尙寧古塔支那兵ノ暴動ハ二十八日夜ニシテ趙正香ニ不服ナル同人配下ノ一部カ兵變ヲ起シ一時趙ヲ拘禁シ日本人家宅ヲ襲ヒタル後反吉林軍ニ投シタルモノニシテ趙ノ威令ハ現在全ク行ハレ居ラストノコトナリ

露、浦潮、支、北平、奉天、吉林、間島へ轉電シ齊々哈爾滿洲里へ轉報セリ

161 昭和7年3月3日 在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮總督府よりの避難民帰還のための警察官

滿洲派遣計画提案に対し回答回示方稟請

安東 3月3日後発
本省 3月3日後着

第四四號

昨⁽¹⁾二日朝鮮總督府立田警務課長本官ヲ來訪シ鴨綠江流域一帶ニ於ケル馬匪賊ノ横行ト之ニ對スル支那側警備ノ不充分トノ結果移住鮮人ニシテ鐵道沿線又ハ鮮内へ避難セルモノ夥キ數ニ上リ是等ハ農耕期ノ切迫ト共ニ速ニ原地へ歸還セ

右⁽²⁾ニ對シテハ當館ノ朝鮮側ニ對スル特殊關係ニ鑑ミ特ニ贊否ヲ明言スルコトナク輕ク應對シ居リタル處朝鮮側警察官ノ滿洲進出ハ

(一)在滿警察官ノ歸屬系統ヲ複雜ニシ統一問題ノ解決ヲ更ニ困難ナラシムルコト

(二)新國家警察機關ニハ相當多數ノ日本人顧問入込ミ支那側ヲ指導シテ治安ノ維持ニ努メ自然鮮人保護ノ方面ニモ從來ニ比シ改善ヲ加ヘラルコトヲ期待シ得ヘキ點ニ於テ必要ノ理由少キコト及

(三)支那官民ニ對シ新國家カ日本ノ壓力ノ下ニ滿洲併合ノ端緒ヲ開クモノナルカノ如キ印象ヲ與フルノ虞アルコト等

對内對外關係共ニ充分ノ考慮ヲ施スノ要アリト認メラルルモ又一面

(一)在滿警察官ノ歸屬問題ニシテ容易ニ解決シ得サル事情アリトセハ警察官ノ充實カ當面ノ急務ナルヘク

(二)新國家ノ警察力ハ早急鴨綠江流域一帶ニ迄充實シ獨力治安維持ヲ完ウシ得ヘシトモ思ハレサルニ付新ニ外務省警察官ヲ配置セラルヘキ警察署ヨリ融通ヲ受ケ得ルニ非サル限り上流地方ノ現狀ニ鑑ミ鮮人現地保護ノ爲前記朝鮮側提案(一ヶ年豫算事務費、旅費、家賃、賞與計六萬五千六百圓)ハ必スシモ一考ノ價值ナキニ非ストモ考ヘラル就テハ先方ニ對シ回答ノ都合モアリ何分ノ儀至急御電示ヲ請フ

162 昭和7年3月10日 在安東米沢領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

朝鮮總督府による警察官滿洲派遣提案には反対の旨回答方訓令

本省 3月10日後9時30分発

第一一號

貴電第四四號二關シ

鮮府警務課長申出ノ同府警察官鴨綠江右岸進出計劃ハ單ニ避難鮮農ノ歸還ニ對スル保護並朝鮮國境警備ノ點ノミヨリ見レハ一應ノ理由アリト思考セラルモ歸還鮮農ノ警察保護ニ關スル手配ハ既ニ奉天ニ於テ講究中ニシテ此際同府ノ手ヲ藉ラサレハ全然手ヲ缺クト云フ次第ニアラス又國境警備ノ必要モサルコト乍ラ鴨綠江右岸地方ノ警備ニ付テハ本省ニ於テモ帽兒山分館開設案ヲ中心トシ相當ノ計畫ヲ樹テ七年度追加豫算ニ計上濟(右豫算ノ内容ハ奉天ニ照會セラレ度)ナルノミナラス鮮府警察ノ同方面ヘノ進出ハ關東廳及本省警察トノ競合ヲ來シ滿蒙行政機關系統ノ簡易化ニスル時勢ノ要求ニ逆行スルノ嫌アリ旁々折角ノ申出ナカラ當方トシテハ俄ニ同意シ難ク且又三矢協定廢止ト共ニ卒然

シムル必要アル處其ノ前提條件タル地方ノ治安未タ全カラス馬匪賊到ル所ニ蠢動シ居ルニ加ヘ支那人強盜各地ニ激増シ移住鮮人ヲ苦シムル爲鮮内歸還者ハ依然續出シツツアルノ實情ニシテ右ハ新國家ノ建設ヲ見ルモ早急ニ之カ改善ヲ期待シ得ヘカラサルニ付避難民ノ原地歸還及現住鮮農ノ引留ノ爲警備上何等對策ヲ講スル必要アリト認メラルトヘ差當リ實行可能且有効ナル措置トシテ此ノ際鴨綠江流域三百九十九名ノ警察官ヲ常置スルコトシ右警察官ハ平安北道及咸鏡南道勤務警察官ヲ外務省警察官ニ兼任シニ於ケル國境第一線ノ警察官ハ全部外務省警察官ニ兼任シ必要ニ應シ駐在所勤務者ト適宜交替セシムルモノトス之ニ當ルノ案ヲ提出シ右實現方ニ付必要ノ手段ヲ執ラレ度旨申出タリ

右ニ對シテハ當館ノ朝鮮側ニ對スル特殊關係ニ鑑ミ特ニ贊否ヲ明言スルコトナク輕ク應對シ居リタル處朝鮮側警察官ノ滿洲進出ハ

(一)在滿警察官ノ歸屬系統ヲ複雜ニシ統一問題ノ解決ヲ更ニ困難ナラシムルコト

本件計畫ヲ持出スカ如キハ鮮府ノ底意ヲ如何ニモ露骨ニ曝

露シタルカ如キ誤解ヲ生セシムル虞アリ同府ノ爲メニモ採ラサル所ナリト認メラルニ付貴官ハ右ノ趣旨ニ依リ可然

應酬シ置カレタシ

奉天ヘ轉電セリ

163 昭和7年3月10日 在プラゴヴェスチエンスク豊原(幸夫領事館事務代理より)
芳沢外務大臣宛(電報)

黒河事件に関するソ連側当局との会見について

付記 三月十八日 亞細亞局第一課作成

「黒河事件」

本 ブラゴヴェスチエンスク 3月10日後発
省 3月11日前着

往電第一七號ニ關シ

黒河トノ聯絡取レサル爲兵變其後ノ狀況不明ナル處宮崎夫妻ヲ除ク現在居残り居ル黒河在留民廿九名ノ安否ヲ確カムル爲並ニ今後彼等ノ當地ヘ一時避難スル場合等ニ關シ蘇聯側トノ聯絡必要ナルヲ以テ本官本十日當市「ソヴィエト」

第一八號

布拉ゴヴェスチエンスク 3月10日後發
本 省 3月11日前着

往電第一七號ニ關シ

黒河トノ聯絡取レサル爲兵變其後ノ狀況不明ナル處宮崎夫妻ヲ除ク現在居残り居ル黒河在留民廿九名ノ安否ヲ確カムル爲並ニ今後彼等ノ當地ヘ一時避難スル場合等ニ關シ蘇聯側トノ聯絡必要ナルヲ以テ本官本十日當市「ソヴィエト」

露、哈府、齊々哈爾ヘ轉電セリ

(付記)

昭和七年三月十八日外務省亞細亞局第二課調書ニ據ル

黒河事件

一、事件直前ノ狀況

昭和七年三月初旬海林方面ヨリ馬占山ガ新政權ニ合流シタルヲ喜バザル反日部隊約二千黒河ニ向ヒ進軍中ナル情報アリ且現黒河警備司令ハ排日ノ嘆アル人物ナル爲黒河在留邦人ハ極度三不安ヲ感ジ居ル旨通知ニ接シ在武市豊原事務代理ハ三月八日黒河ニ赴キ同地警備司令崔ニ對シ右情報ニ基キ同地在留民ノ保護方申入レタル處崔ハ斯カル情報ニハ未ダ接セザルモ自分(崔)ハ馬ノ忠實ナル部下トシテ反逆者ニ抵抗スベキハ勿論在留日本人ノ保護ニ一層努力スベキ旨約スル處アリタリ

三、事件ノ経過

然ルニ三月十日ニ至リ黒河在留邦人宮崎夫妻突如武市ニ逃走シ兵變勃發ヲ告ゲ次第翌十一日夜更ニ邦人四名武市ニ避難セルが其ノ談ヲ綜合スルニ事件ノ經過大要左ノ如シ

議長ヲ訪問シ

(一)今次黒河ノ兵變ニ際シ貴方ニ達シタル情報アラハ提供セラレ度ク

(二)宮崎カ突發的兵變ニ際シ黒河蘇聯領事ノ查證ナクシテ入國シタルニ拘ラス支障ナク入國ヲ許可セラレタル事ニ對シ感謝スルト同時ニ今後殘餘ノ日本人カ當地ニ一時的避難ヲ爲ス場合ハ便宜ヲ供與セラレ度シ

(三)貴方ニ於テ聯絡就キ次第在留邦人保護方ニ關シ貴官ヲ通シ黒河蘇聯領事ニ依頼ス

ト申入レタル處議長ハ

(一)ニ對シ實ハ當方ニ於テモ蘇聯領事館トノ聯絡執レサル爲詳細ナル情報ヲ提供シ得サルヲ遺憾トス

(二)ニ對シテハ宮崎ノ入國ハ危急ノ場合ニテ已ムヲ得サルコトナルヲ以テ其旨哈府外交^(マニ)官ニ通報シ置クヘキニ付今後ノ避難者ハ蘇聯領事ノ查證ヲ取付ケノ上入國セラレ度ク兩國親善ノ意味ニ於テ出來得ル限り便宜ヲ供與ス

(三)ニ對シテハ聯絡就キ次第蘇聯領事ニ傳達スヘシト答ヘタリ

露、哈府、齊々哈爾ヘ轉電セリ

今次兵變ノ主因ハ支那軍憲幹部ガ兵士ニ數箇月ニ亘リシ

是ヨリ先黒河兵變ノ報ニ接スルヤ齊々哈爾領事ハ王參謀長(馬長官建國式參列ノ爲赴長留守)ヲ往訪シ黒河在留邦

人保護手配方依頼セル處王ハ既ニ海倫ヨリ兵一團ヲ「ト

ラツク」二十五臺ニ分乗差向ケ同日中着黒ノ旨竝ニ兵亂

ハ一部兵士ノ妄動ニ止マリ十一日以來平穩ニ歸シツツア

ル旨答ヘタルガ事實暴行兵ハ其ノ所屬ノ中隊長及小隊長

ヲ殺害シ市内商店ヲ掠奪ノ上璣琿方面ニ退去シ十一日來

市内ハ平穩ニ歸セルモノノ如シ

五、避難民ノ蘇領滯在許可

前記宮崎等避難民ハ唐突ノ際ヲ在黒河蘇領事ノ查證ヲ受ケ

ズシテ蘇領ヘ避難シタルモノナル處蘇官憲ノ好意ニ依リ

無事引揚ゲ得タル次第ナルヲ以テ豐原事務代理ハ不取敢

武市當局ニ對シ謝意ヲ表スル處アリシガ事態鎮靜迄引續

キ滯在方ニ關シテハ我方ヨリ莫斯科外交部ニ正式申入レ

ノ結果蘇側ハ十四日哈府及武市當局ニ對シ日本領事ノ提

出スル日本避難民名簿ニ基キ右日本人ニ對シ滯在ヲ許可

スル様訓令スル處アリタリ

因ニ黒河避難民ノ復歸時期ニ關シ二十日馬占山ノ參謀長

ハ在齊々哈爾帝國領事ニ對シ叛亂兵討伐ニ向ヒタル

除旅長ハ近日中ニ黒河ニ歸還駐屯ノ豫定ニ付日本人ノ黒

河復歸ハ其ノ後ニセラルコト安全ナルベキ旨語レリ

164 昭和7年3月(13)日 在ハルビン長岡總領事代理より

芳沢外務大臣宛電報

黒河事件に關し在留民保護方馬占山配下の王

參謀長に依頼について

ハルビン 発

本省 3月13日後着

第二六八號

齊齊哈爾發本官宛電報第五〇號

外務大臣へ電報アリ度シ

第四〇號

武市發閣下宛往電第一七號ニ關シ

馬長官建國式參列ノ爲赴長中ナルニ付本十二日朝留守居ノ

王參謀長ニ對シ武市來電ノ概要ヲ告ケ黒河在留邦人ノ保護

方依頼セル處王ハ九日夜璣琿駐在ノ參謀ヨリ黒河兵亂ノ

來電ニ接シ直ニ海倫ノ徐第三旅長ニ對シ兵一團ヲ「トラツ

ク」二十五臺ニ乘セシメ赴黒鎮靜方電命シ同旅長ハ本十二

貴電第三號ニ關シ

火急ノ際ニ於ケル蘇側ノ好意的取計ニ對シ謝意表明旁今後

ノ打合ノ爲十二日議長「プロトニコフ」ヲ往訪シタル處「ブ」

ハ早速避難邦人六名ニ對スル客車ノ手配ヲ爲スヘキ旨述ヘ

タルヲ以テ本官ハ大ニ驚キ之等邦人ハ一時的避難ノ爲蘇領

ニ逃込ミタルモノニシテ浦潮經由引揚ト決定セルモノニ非

ス事態安定迄暫ク當館ニ收容保護スヘキニ付右様御承知ア

リタキ旨應酬シタル處「ブ」ハ客年廣田大使「カラハン」

ノ本件交渉ハ引揚ニ關スルモノニシテ一時的避難ニ關シテ

ハ(脱)ニハ領事代理ヨリスル申入レナカリシ旨強調シ今回

ノ邦人六名ハ浦潮經由ニテ引揚クヘキモノト思考シ居タリ

ト答ヘ此上長ク當地ニ滯在セシムルコトヲ好マサルカ如キ

口吻ヲ漏シタルヲ以テ本官ハ一昨十日貴官ヲ訪問セル際官

崎夫妻ヲ除ク殘餘ノ我在留民カ一時的避難ヲ爲シタル際ハ

便宜供與アリタキ旨依頼シタル通りニテ本件突發的避難ニ

依リ浦潮經由引揚ノ必要ナシト思考シ一時當館ニ收容シ兵

變安定ノ上ハ復歸セシメ度キニ付此點御考慮アリ度シト述

ヘタル處「ブ」ハ結局哈府外務代表ニ請訓ノ上何分ノ儀回

165 昭和7年3月(13)日

館事務代理より

芳沢外務大臣宛(電報)

黒河避難民の一時ソ連領滯在方に關しソ連政

府に交渉方稟請

プラゴヴェスチエンスク

發

在プラゴヴェスチエンスク豊原領事

本

省 3月13日後着

答スヘキ旨約セリ

然ルニ突發的避難ニ關シテハ本年一月下旬馬賊襲來當時往

電第三號(一)ノ如ク安木ヨリモ黒河蘇聯領事「ミハイロフ」

ニ對シ特ニ引揚ト避難ヲ區別シ便宜供與方ヲ申入レタル際

同領事ハ之ヲ承諾シタルモ當地避難邦人ノ復歸ニ關シテハ

當地官憲ト交渉アリ度キ旨附言セシヲ以テ安木ハ右ハ重要

案件ナルニ鑑ミ此ノ旨特ニ前任間庭事務代理ニ報告シタル

趣ナルヲ以テ本官ハ同代理ニ於テモ當然「ソ」當局ニ交渉

濟ナル建前ニテ避難邦人ノ善後措置ニ付「ブ」ト打合セタ

ル次第ナリ

就テハ此ノ際避難邦人モ假令一方徹底的ニ掠奪セラレタリト雖モ事態安定次第一應黒河ニ歸り善後策ヲ講シ度キ意嚮

ナルニ付御手數乍ラ早目ニ莫斯科政府ト然ルヘク御交渉相

成様致度ク右懇願ス

露、哈府、浦潮、奉天、哈爾賓、齊々哈爾、滿洲里ニ轉電

セリ

芳沢外務大臣宛電報要旨
滿州里駐屯中國軍隊の反乱について
ハルビン 3月15日後發
本 省 3月15日後着

166 昭和7年3月13日 在ソ連邦広田大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

第一七六號

「プラゴエ」發閣下宛電報第二二號ニ關シ

十三日緒方他用ニテ外務部ニ赴キタル際序ヲ以テ係官ニ對

シ黒河避難邦人ニ對シ同地ノ秩序回復迄一時武市ニ滯在許可方地方官憲ニ指令アリタキ旨申入レタル處係官ハ右ハ早速上司ニ報告致スヘキモ政府ニ於テハスカル特別ノ場合ノコトナレハ御申出ニ對シテハ勿論異議ナカルヘシト答ヘタル趣ナリ

「ハバロフスク」、「プラゴエ」へ轉電セリ

167 昭和7年3月15日 在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)
滿州里の中國軍反乱および邦人引揚げのやむ
なき状況について
付 記 三月十三日発在ハルビン長岡總領事代理より

モスクワ 3月13日後發
本 省 3月14日後着

黑河避難民の一時ソ連領滯在方外務部に申入
れについて

芳沢外務大臣宛電報要旨
滿州里駐屯中國軍隊の反乱について
ハルビン 3月15日後發
本 省 3月15日後着

第二八六號

滿洲里發本官宛電報

合第二〇號

滿洲里發大臣宛電報

第三一號

往電第三〇號ニ關シ

昨十四日夜ハ無事今朝ヲ迎ヘタリ早速本官ハ孫參謀長ヲ往

訪シ其眞相ヲ質シタル處孫ハ極力兵士ヲ慰撫スルト共ニ食

料品等ヲ一時商家ヨリ借入レ給與改善ニ努メ居ル次第ナレ

ハ決シテ兵變ノ惧ナシト信スルモ尙充分警戒中ニテ萬一ノ

際ニハ事前通知スヘシト語リ治安ノ維持ニ付自信アル態度

ヲ示サス一方當地特別區警察署側ニテハ當地駐屯兵ハ歩兵

第二旅第四團ノ一個團及保安隊二個連ニシテ第一營第一連

ハ兵變逃亡シタル爲(孫ハ逃亡兵約二十名ト稱セルモ其實

約百二十名)軍當局ニ於テハ第二連、第四連(第三連ハ札^{賣カ}賴)

ノ引揚ヲ勸告シタル處之ニ應シテ本十五日午前十時十分發列車ニテ七十七名哈爾賓方面ニ向ケ出發セリ
尙當地ノ情勢ハ前記ノ次第ナルヲ以テ居留民全部ハ日本軍ノ現地保護ヲ要求スルモ本件ハ頗ル「デリケート」ノ問題ナルノミナラス假令出兵スルト雖鐵道其他ニ故障起ルコトハ哈爾賓進出ノ場合ト同様ナルヘク剩ヘ支那兵ノ感情ヲ刺載シ我軍ノ到着スル迄ノ間ニ於テ在留民ニ悲慘ナル事態ヲ惹起スルヤモ計リ難ク結局殘留邦人ハ一時當館ニ避難セシメ狀況ニ依リ引揚命令ヲ發スル外途ナカルヘシ

哈爾賓ヨリ支、北平、奉天、長春へ轉電アリタン

(付記)

ハルビン 3月13日発
本省 着

昭和七年三月十三日在哈爾賓長岡總領事代理發芳澤外務大臣宛電報要旨

支那軍隊ノ叛亂

滿洲里發

一、三月十二日午後十時半頃市内ニ數十發ノ銃聲アリ引續キ

居留民ヨリ兵變アリトノ報告ニ接シタルヲ以テ松井署長ハ巡査一名共ニ支那警察署ニ到リ情況ヲ取調べタル處當

地駐屯ノ支那歩兵第二旅第四團第一營第一連約百名ハ叛

亂ヲ起シ午後十時半頃兵營ヲ脱出逃亡シ其ノ半數五十名

位ハ札賚諾爾方面ニ向ヒ殘部ハ市内ニ侵入セルヲ以テ支

那軍隊側ニテハ市外ニ追撃スル他面市内侵入ノ逃亡兵追

跡中ノ趣ナリ依テ當館警察署ニテハ非常召集ヲ行ヒ警戒

ニ努メタリ逃亡兵等ハ其ノ時既ニ各所ニテ掠奪殺害ヲ始

メタルヲ以テ門戸破壊ノ音悲鳴ト銃聲ハ夜陰ヲ破リテ騒

然タリ十三日午前二時頃ニ至リ軍隊ノ巡邏行亘リタル爲

暴兵ハ逃亡シ市内漸ク鎮靜ニ復シタリ尙邦人側ハ藤井賢

168 昭和7年3月17日 在ハルビン大橋總領事より
満洲里引揚げ民の窮状に救護費支出方稟請
ハルビン 3月17日後着

本省 3月17日後着

第三〇一號

滿洲里發本官宛電報

第一九號

大臣へ轉電アリ度シ

第三八號

往電第三一號ニ關シ

居留民一同ハ恐怖ノ極ニ達シ引揚勸告ヲ諒トスルモ各自力生計ニ困難ナル折柄二度目ノ引揚ニモアリ勸告ヨリモ命令ヲ懇請シ發車間近ニ至リテ尙決セサル者多數アリ且持合ス

金ニ窮セル者多數ナルヲ以テ民會ヨリ一時汽車貨ヲ立替出發セシメタル實情ニシテ大ニ同情スヘキ點多分ナレハ救護

費ヨリ各引揚地迄ノ三等往復汽車貨左記内譯ノ通婦女子十五名分 警察署員家族ノ分ヲ含マス)合計二千二百二十九元七十錢特別支出方御詮議相成度ク右何分ノ儀御回示ヲ請

フ

本省 3月21日前着

第四三四號

最近鮮人避難民歸還準備成リ各地共兩三日中ニ實行ニ取懸ル豫定ナルカ避難民中ニハ動モスレハ當局ノ意ヲ誤解シ原住地歸還ノ不能、給與金ノ期待ヨリ少額ナルコト等ニ付不平ヲ鳴スモノアルニ止マラス一般鮮人ハ時局以來支那人ニ對シ增長ノ傾キ甚タシク原住地歸還後ニ於ケル支那人トノ接觸等ニ付テモ事前ニ嚴重訓戒シ置クニアラサレハ將來ニ弊ヲ殘ス虞アル處右ニハ言語ノ關係上朝鮮人ヲ當テシムルノ外ナキニ付鮮府側ト協議ノ結果楊事務官及吳副領事ヲ手分シテ關係地ヲ巡行セシムルコトトシ吳副領事ヲ二十一日ヨリ一週間位ノ豫定ニテ四平街、鄭家屯、通遼、洮南、齊々哈爾方面へ出張セシムヘキニ付右御承認ヲ請フ

鄭家屯、齊々哈爾ニ轉電セリ

169 昭和7年3月21日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

中國人に対する朝鮮人の態度につき原地帰還

(欄外記入)

総督府ノ宣傳カラ利キ過キタル為ナルヘシ

吾一名殘殺セラレタル外被害ナシ被害者タル藤井ハ午後十二時頃友人宅ヨリ歸宅ノ途中掠奪中ノ支那商店前通過ノ際背後ヨリ銃殺セラレタルモノノ如シ十三日朝當地交渉員ノ立會ヲ求メ検證ヲ爲シタリ

170 昭和7年3月28日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛(電報)

農安分館閉鎖引揚げ方承認について

第二〇號(至急)

本省 3月28日後10時35分発

農安へ轉電シ参考トシテ奉天、哈爾賓ニ轉電アリタシ
本大臣發農安宛電報第三号

貴電第五号ニ關シ

情勢ニ依リ在留民全部引揚ノ已ムナキニ至ラハ貴館モ一時
閉鎖ノ上長春迫引揚ケラレ差支ナキニ付討伐、救援其他本
件対策ニ付テハ長春領事ト聯絡シ萬事其ノ指示ニ従ツテ臨
機善処セラレタシ

171 昭和7年4月2日 芳沢外務大臣より
沢田連盟事務局長宛(電報)

問島地方における中國軍の反日攻勢について

本省 4月2日発

第一三九號

往電第一三三三號ノ〔〕ニ關シ

力約千三百ハ南湖頭(Nan-hu-tou)方面ヨリ南下百草
溝(Pai-tsao-kou)ニ迫リ同地ハ日下混亂ニ陥リ我領
事分館モ場合ニ依リ局子街(Chu-tzu-kai)ニ引揚ケル
ヤモ知レストノコトナリ

必要ノ在歐各大使ヘ轉報アリ度
米ヘ轉電セリ

172 昭和7年4月2日 芳沢外務大臣より
沢田連盟事務局長
在米國出淵大使宛(電報)

朝鮮軍二箇大隊の問島地方出動について

付記 四月一日、閣議決定

「問島地方不安狀況ニ對スル方策ニ關スル件」

本省 4月2日発

合第九三一號

壽府宛電第一三九號ニ關シ

其ノ後王德林軍ハ百草溝近郊ニ進撃シ同地ノ事態危殆ニ瀕
セルノミナラス(居留民ハ續々避難シ居レリ)問島ノ支那側

警備力ノ薄弱且弛緩セルニ顧ミ同地方一帶ノ治安紊亂ノ虞
アルニ付四月一日閣議決定ノ結果朝鮮軍ヨリ平時編成ノ二

一、從來間島地方ニ於ケル支那側警備力ノ重要要素タリシ延
吉警備司令ノ麾下王德林軍ノ叛亂ニヨリ支那側ノ警備弛
緩スルニ及ヒ最近間島一帶ニ亘リ兵匪ノ跳梁甚タシク各
地保衛團、公安局等ノ中ニモ之ニ策應スルモノアリ三月
二十日以降同月末迄ノ事故大略左ノ通りナリ
(一)三月二十一日夜在老頭溝(Lo-tou-kou)(石炭坑所在
地)保衛團員及公安局員約六十名突如武裝ノ儘逃走シ
同地石炭坑所屬支那警察ヲ襲フ
(二)三月二十二日午前二時二十分頃約四百名ノ優勢ナル大
刀會匪ハ突如天寶山(Tien-pao-shan)ヲ急襲ス
(三)曩ニ叛亂ヲ起シ老頭溝ヨリ武裝逃走シタル同地保衛團
ノ一隊ハ三月二十五日夜老頭溝天寶山間ノ電話線(支
那側架設)ヲ切斷セリ
四月二十六日王德林ノ配下ニ屬スル兵匪約三十名ハ八
道溝(Pa-tao-kou)ヲ攻撃ス
(五)目下ノ處(三月三十一日現在)大刀會費及叛亂保衛團員
ハ王德林別動隊ト合流シ約三百ノ數トナリ天寶山ヲ窺
ヒツツアリ尙銅佛寺(Tung-fo-ssu)方面ニハ救國軍ト
稱スル約三百ノ匪賊アリ加フルニ三十一日王德林ノ主
個大隊(的確ナル兵數ハ外部ニ漏洩セサル様致度)ヲ問島地
方ニ出動セシメラルコトトナリ尙ホ右出兵ハ前記支那側
警備力ニ顧ミ必要止ムヲ得サル警察行動ニ過キサル次第ナ
リ
右ハ差當リ貴官限リノ含ニ止メラレ度今後事態ノ推移ニ伴
ヒ必要ニ應シ可然説明セラレ度
壽府ヨリ冒頭往電通り轉電アリ度

(付記)
昭和七年四月一日閣議決定、同日勅裁
スル件

昭和七年四月一日閣議決定、同日勅裁
滿洲事變後間璋地方ノ人心動搖シ其ノ間ニ在留内鮮人一部者
ノ執拗ナル皇軍出動促進運動モ加ハリ状勢一時甚シキ不安
ヲ告ゲタルモ我總領事館ニ於テハ全警察機能ヲ擧ゲテ居留
民ノ保護、治安ノ保持及不純ナル出兵運動ノ取締等ニ當リ
過去半歲ノ間他力ニ依ラズシテ克ク時局ノ破綻ヲ防止スル
コトヲ得タリ
然レドモ其ノ間ニ於ケル同地方ノ情勢ハ必ズシモ安易ナラ

ズ曩ニ一月中旬王徳林軍叛亂シ一時禍亂將ニ全間島ニ及バントスル危險アリ叛軍ノ急速移動ニ由リ幸ニシテ纔ニ其ノ災禍ヲ免ルルコトヲ得タルモ其ノ後同軍ノ一部ハ再ビ間島北陲地方ヲ窺ヒツツアルモノノ如ク一方滿洲新國家ノ成立ニ對シテハ地方支那人ノ不平反感極メテ濃厚ナルモノアルニ加ヘ大刀會匪、逃亡兵等ノ烏合ニ成ル匪賊頻リニ出沒シ反吉林ヲ標榜シテ我警察分署ヲ襲撃シ朝鮮人ヲ迫害スル等ノ兇暴ヲ逞フシ剩ヘ一昨年以來日支官憲ノ檢舉ニ依リ一時殆ド其ノ横行ノ跡ヲ絶テルノ觀アリタル共匪モ最近再び擡頭ノ兆アリ然ルニ延吉警備司令及市政籌備處長所屬ノ軍警ハ其ノ素質ノ不良ナルハ久シク定評アリ匪賊叛軍ノ討伐殆ド其ノ效ヲ奏セザルニ加へ是等軍警中ニハ最近諸種ノ理由ニ由リ逃亡背叛スルモノ簇出スル狀態ニシテ事態頗ル寒心スベキモノアルニ至レリ(最近ノ不安狀態概況別紙^(省略)ノ如シ)以上ノ情勢ニ處スル我總領事館警察ノ勞苦ハ寔ニ想察ニ餘アリ本省ニ於テハ同館ノ要求ニ基キ不取敢自動車、機關銃等物の施設ノ擴充、警察補助員ノ増員等應急措置ヲ講ジタルモ未ダ消極的對策タルニ過ギズ此際匪賊ニ對スル積極的對策ヲ講ズルコト無クシテ放置スルニ於テハ我警察官モ遂アルモノノ如ク觀察セラル

在間島總領事ヨリハ猶皇軍出動ノ要請ニ接セザルモ事態上述ノ如クナル以上速ニ必要數ノ皇軍部隊ヲ出動セシメ我警察官ト合同シテ叛軍及匪賊ノ拔本的掃蕩ヲ行フノ必要ヲ痛感セラル間島地方ハ大正九年以來皇軍ノ威容ニ接シタルコトナク匪賊反日ノ徒ハ滿洲事變以來今日迄數次ノ機會アリタルニ不拘同地方ニ限リ皇軍ノ出動ヲ見ザルニ忸レ今後モ其ノ決行無カルベキヲ推斷シ皇勢ヲ擅ニシツツアルノ感アル此際一度痛棒ヲ下シ置クコトハ是等ノ徒輩ニ對スル示威及鮮人ノ安定上最モ有效ニシテ同地方將來ノ治安保持上極

ニハ奔命ニ疲ルニ至ルベキノミナラズ解氷期ヲ俟テ著手セラルベキ敦圖線ノ建設工事ニ重大ナル障礙ヲ及ボスニ至ルベク殊ニ今夏繁茂期ニ於ケル匪害ニ至リテハ實ニ想像以ナルベキヲ惧ル更ニ鮮農保護ノ見地ヨリ見ルニ兩三年前ヨリ引續ク穀價暴落及共匪暴動ニ因ル創痍未ダ全ク癒エガルニ際シ匪賊逃亡兵等ノ跳梁ニ依リ春耕播種ノ機ヲ失スルガ如キコトアリテハ其ノ疲弊ハ一層深刻ヲ加ヘ後日又相當規模ノ救濟ヲ行ヒ兵匪馬賊ノ出沒ニ對シテハ皇軍隨所ニ出動シテ之ヲ討伐シ春耕期ニ際シテハ旅費及農耕ノ資ヲ與フル外警察又ハ軍隊ニ依ル保護ノ下ニ之ヲ歸還セシムルノ措置ヲ執ル等鮮農ニ對スル保護殆ド間然スル所無カラントスルニ反シ獨リ間島在住鮮人ニ對シ保護ノ方途完カラザルモノアルニ於テハ不公平ノ非難ヲ免カレズ之ガ爲民心ニ與フベキ惡影響蓋シ憂フベキモノアルベシト思考セラル
曩ニ王徳林軍ノ叛亂ニ因リ事態惡化ノ兆アリタル際同地總領事ヨリ情勢ニ依リテハ皇軍ノ出動ヲ請フノ已ム無キニ至ル無キヲ保セザルヲ以テ豫メ準備アリ度キ旨ノ稟訓アリ政

府トシテハ同地方ガ熙洽ノ管下ニ在ル以上其ノ權威ヲ保持セシムル見地ヨリモ飽ク迄吉林軍ヲシテ之ヲ討伐平定セシムルノ方針ニ出デ同軍ノ討伐效ヲ奏セズ事態惡化シ皇軍ノ出動ニ俟ツノ已ムヲ得ザルニ至ラバ更メテ請訓セシムルコトトシタルモ前記ノ事情ニ因リ出兵ヲ見ルニ至ラズシテ經過シタル次第ナルガ最近ノ實情ヲ見ルニ延吉警備司令麾下ノ軍隊ハ叛兵及匪賊ニ對スル警備及之ガ討伐上殆ド無能力ヲ暴露シ之ニ信賴シテ治安ノ維持ヲ望ムコト到底不可能ナルガ如ク政府トシテ拱手靜觀ヲ許サレザル事態ニ向ヒツツアルモノノ如ク觀察セラル

メテ緊要ナリト思考セラル而シテ之ニ要スベキ兵數竝ニ關東軍及朝鮮軍ノ何レヨリ出動ヲ求ムベキカハ用兵ノ問題トシテ軍部ノ決定ニ俟ツノ外無ク又之ガ實行ハ軍ノ行動ニ便ナル結氷期間ヲ擇ブヲ要シ其ノ期間ノ如キハ聯盟調査委員會ノ滿洲來著ノ時期等ヲモ考慮シテ決定スルノ要アルベシ就テハ以上ノ見地ニ基ク皇軍出動ノ要否ニ關シ在間島總領事ノ意見ヲ徵シタル上必要アリト決定シタル場合ニハ直ニ陸軍其ノ他關係官廳ト必要ノ協議ヲ遂ゲ急速實行ヲ期スルコトト致シ度シ

173 昭和7年4月2日 在間島岡田總領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

百草溝居留民引揚げ通告に對し同地分館主任
より現地保護方要請について

間 島 4月2日後発
本 省 4月3日前着

第一九五號(至急)
百草溝發本官宛電報
第三二號

往電第二九號二關シ

田中副領事ヲ通シ御來訓ノ引揚方法ハ絶対不可能ナリト信ス且在留鮮人一千五百名及奥地ヨリ避難鮮人一千名ヲ全部引揚ケシムルコトハ到底不可能ナルノミナラス從來鮮人一

般ハ當館ヲ信賴シ永年安心居住シ居リタルモノニシテ此際當館ノ引揚ハ間島ニ於ケル鮮人統治上重大ナル結果ヲ招來シ我外務省警察官ノ威信ヲ失墜スル次第付此際現地保護ノ方針ヲ以テ進ムヨリ外絶對方法無シト認メラル尙現地保護ノ方法トシテハ出兵不可能ノ場合朝鮮ヨリ警察官一〇〇名ノ援護ヲ得ハ其目的ヲ達成シ得ヘキニ付至急應援方御手配ヲ請フ折返シ何分ノ御指示ヲ請フ

大臣へ轉電アリ度シ

174 昭和7年4月2日 在間島岡田總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

現地保護の不可なる理由および局子街への居

留民引揚げ方百草溝宛回電について

間 島 4月2日後発
本 省 4月3日前着

175 昭和7年4月3日 在間島岡田總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

大臣へ轉電セリ

百草溝分館に局子街への引揚げ通告發出について

付 記 五月五日付在百草溝堀内(孝)分館主任より在

間島岡田總領事宛報告要旨

百草溝方面の治安狀況および避難民復帰の見

込みについて

間 島 4月3日後発

本 省 4月3日後着

(付 記)

昭和七年五月五日附在百草溝堀内分館主任發信在間島岡田總領事宛報告要旨

皇軍ノ出動ト當地方避難民ノ續出竝ニ之ガ復歸ニ

關スル件

我出動軍ハ今三日午後二時五十八分ヲ第一着トシテ明日迄全部當地着ノ筈ナルカ軍ノ行動上明日中百草溝ニ到着スル

コトハ困難ナル趣ナリ然ルニ一方堀内ヨリノ通報ニ依レハ皇軍ノ間島出動逸早ク「ラヂオ」ニ依リ同地ニ傳ハルヤ叛亂軍ニ於テモ之ヲ知ルニ至リ日本軍來着前ニ同地ヲ襲撃セ

ント計畫シ居ル旨謀者ノ報告アリ且鮮人間ニモ同様ノ謠言盛ニシテ住民ハ一層不安ニ驅ラレ危機ハ刻々切迫シ居ルヤニ認メラル趣ニテ更ニ應援警察官ノ増派方申出アリタルモ當館トシテモ最早其ノ餘力無キ次第ニテ旁軍側ヨリノ希望モアリ在留民引揚希望者ト共ニ同分館ヲ此ノ際一旦局子

本官發百草溝宛電報
第一〇號

第一九六號(至急)

本官發百草溝宛電報

貴電第三二號二關シ

優勢ナル賊團襲來ノ場合ニハ避難ノ措置ニ出ツルノ外他ニ方法無カルヘシ現在ノ如ク避難ノ餘裕アル事態ニ於テ現地保護ノ理由ヲ以テ出兵ヲ要求スルハ其時機ニ非サルヘク又貴見朝鮮總督府應援警察官派遣ノ件ハ百名位ノ應援ニテ千名以上ノ軍隊の統制アル賊團ヲ防衛セントスルカ如キハ極メテ危險ニシテ無謀ノ措置ト思考セラルルニ付今後叛(亂)部隊カ百草溝ニ向ヒ攻撃前進シ來ル場合又ハ支那軍隊カ百草溝ノ防備ヲ放棄シ退却スル場合ハ早目ニ在留民ノ避難希望者ヲ收容シ局子街方面ニ引揚ケラルルト同時ニ出兵要求措置ヲ執ルヲ順序トスヘシ政策ヲ加味スル出兵ニ關シテハ本官發大臣宛電報第一七五號ノ通トス

大臣へ轉電セリ

街迄引揚ケシムルコトトシ同主任ニ通告ノ結果同官ハ目下急速引揚準備中ナリ

局子街ヨリ堀内主任へ轉報アリ度シ

前電ノ如ク轉電セリ

ハ來り討伐ハ中々容易ノ業ニ非ズ更ニ最近ニ於テハ小百草溝其ノ他當地ヲ距ル僅ニ一、二里ノ地方迄小匪賊横行シ掠奪、慘殺ノ聲ハ日日聞カザルナク地方トシテノ情勢ハ寧口惡化シ居レルガ如シ一面中國側軍隊ハ依然統制ヲ缺キ一例トシテ最近哈蟆塘地方ニ孟營長ノ部隊來駐シ來レルガ兵士等ハ駐防ニ全々誠意ナク漸ク其ノ逃亡ヲ防止シ居レル狀態ナルノミナラズ當該地方ニ於ケル穀物等ヲ徵發シ良民ニ對シテモ事毎ニ壓迫ヲ加フル爲當地民會ノ調査ニ依ルモ同地方ヨリノ避難民ハ該部隊駐屯後却テ增加ノ傾向アリ其ノ他公安局員ハ逃亡者相踵ギテ地方ノ警備等ハ到底期待シ難ク僅ニ保衛團ノミ時々附近地方ニ出動シ居レルモ之トテ申譯的ニ行動スル程度ニシテ未ダ曾テ一同モ勦匪ノ目的ヲ達シタル模様ナシ

前顯ノ次第ナルニ付此際避難民ヲシテ現在地或ハ附近適當地點ニ復歸セシムルコトハ之ニ相當ノ補助金ノ給與ヲ爲スト雖モ當分ハ見込少ナキヤニ看取セラル尤モ當地杉浦大隊長トモ協議ヲ行ヒ今後ハ中國側軍隊トノ協調竝ニ自警團ノ組織及密告主義ニ依ル少部隊ノ突擊等其ノ他種々方策ヲ考究シ以テ專ラ此等少匪賊討伐ノ目的達成ニ努ムル様致シ度タル模様ナシ

トシテ最近哈蟆塘地方ニ孟營長ノ部隊來駐シ來レルガ兵士等ハ駐防ニ全々誠意ナク漸ク其ノ逃亡ヲ防止シ居レル狀態ナルノミナラズ當該地方ニ於ケル穀物等ヲ徵發シ良民ニ對シテモ事毎ニ壓迫ヲ加フル爲當地民會ノ調査ニ依ルモ同地方ヨリノ避難民ハ該部隊駐屯後却テ增加ノ傾向アリ其ノ他公安局員ハ逃亡者相踵ギテ地方ノ警備等ハ到底期待シ難ク僅ニ保衛團ノミ時々附近地方ニ出動シ居レルモ之トテ申譯的ニ行動スル程度ニシテ未ダ曾テ一同モ勦匪ノ目的ヲ達シタル模様ナシ

側ト打合濟ナルカ哈爾賓方面ノ避難民ニ付テハ同方面ノ事態當分安定ヲ望ミ得サル爲相當數ノ殘留者ヲ見ルノ已ムヲ得サル實情ニアルト他方既ニ安全ト認メテ歸還セシメタル新賓、盤石方面ノ事態最近稍惡化シ一旦歸農セル鮮人再ヒ避難シ來ル虞アリ旁本年四月以後ニモ多少收容ヲ續クルノ已ムヲ得サル場合ニ立至ルコトナキヲ保セス

(2)右帰還鮮農ニ對シテハ差當リ旅費實費一ヶ月分ノ食費(一人一圓)並住居費ノ一部(一戸五圓)ヲ支給シ燃料、粉料、住居費ノ殘額及今後ノ食費等ハ原住地歸還後ニ支給スル様目下手配中ナリ尙一戸當リノ金額多少減額ノ已ムヲ得サル次第八累次ノ往電ノ通リナルカ穗積外事課長來訪ノ際協議ノ結果最近間島方面ノ事態ニ鑑ミ同地方鮮人ヲ差別扱ヒスルヲ得サルニ鑑ミ義捐金中ヨリ更ニ五萬圓タケ同方面ニ割クノ要アルニ依リ結局一戸當リノ金額ヲ百圓程度ニ減額ノ事ニ決定セルカ本計畫ニ基クモ尙七、八萬圓ノ不足ヲ生スル虞有ルヲ以テ其際ハ右不足ハ朝鮮總督府ニ於テ來ルヘキ臨時議會ニ提出ノ筈ナル農耕資金中ヨリ振替ヲ受クル事ニ打合セタリ

間島ヲ除ク在滿各館及朝鮮總督府へ暗送セリ

キ所存ナルモ來ル植付ヶ時期迄ニ間ニ合フ様復歸セシムルコトハ相當至難ナルベク思惟セラル

176 昭和7年4月(6)日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

三月末までの朝鮮人避難民帰還状況について

奉天	本省	4月6日前着
第五一七號	第五一七號	第五一七號

往電第三三九號ニ關シ

一、關係各館ニ於テハ三月初旬ヨリ既定方針ニ基キ鮮人避難民ノ歸還ニ着手セル結果三月末日迄ニ歸還セシメ得タル人員總計六千五百二人四月一日以後五日迄ニ歸還セシメタルモノ一千七百十六名累計八千二百十八名ニ達シタルニ、然ルニ原住地方不安ノ爲今尚歸還不能ノモノ現在總計一万一千四百二十一名アル處其一部ハ本月中ニ原住地方ニ歸還セシメ得ル見込アリ

尙殘ノ一部ニ付テハ亂石山、遼陽城外水田豫定地、東山農場、廣濟號農場等ニ相當數ヲ收容スルコトニ軍及勸業

普普通第二四九號 昭和七年4月7日 在鐵嶺石塚(邦器)領事代理より
芳沢外務大臣宛

朝鮮人農民保護方に關し鐵嶺縣政府より布告

發布について

(4月11日接受)

在鐵嶺

鐵嶺縣政府ノ日鮮人保護方布告ノ件

外務大臣 芳澤 謙吉殿 領事代理 石塚 邦器〔印〕

曩ニ避難鮮農ノ歸還ニ先チ鮮農ニ對シ營農上保護及便宜供與方ヲ鐵嶺縣政府ニ申入レ置キタル結果縣政府ヨリ日鮮人保護ニ關スル佈告ノ發布ヲ見タル次第八三月三日附普通第一八一號拙信ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル處農耕期愈々切迫スルニ連レ鮮農ヲ一齊ニ原地ニ歸還セシムル必要生シタル付數日前本官他用ニテ縣政府ニ王委員長ヲ訪問ノ際重ねテ鮮農保護援助方ニ關シ遺漏ナキヲ期セラレタキ旨申入れタル處本月六日鐵嶺縣政府ヨリ別紙譯文ノ佈告ヲ發スルト共ニ各村長ニ對シテモ同一内容ノ訓令ヲ發シタル旨通知越

シタルニ付此段報告ス

本信寫送附先 在中華公使

在北平^(アマ)主席

奉天 吉林 各總領事

長春 安東 鄭家屯 遼陽 牛莊 各

領事

新民府 通化 各分館主任 掏鹿分館

事務取扱

朝鮮總督府外事課長

關東廳外事課長

(別
紙)

鐵嶺縣政府執行委員會佈告

查スルニ國家施政方針ハ門戸^(開カ)解放平等互惠ヲ原則トス即チ各國僑民ヲ平等ニ待遇シ之ヲ蔑視スヘカラス、日本滿鮮人民ハ元來一家ニ屬シ情ハ同胞ニ等シ特ニ一祖^(親カ)同仁親善ヲ示シ以テ國家カ斯民ヲ愛護シ大同ヲ求ムルノ義ニ副フヘシ、現在日韓僑民各地ニ散居シテ水田植付ニ從事スル者多シ、各村會ハ満民ヲシテ一律ニ待遇セシムヘシ、些モ偏見アル

178

昭和7年4月8日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

大同元年四月六日 委員長 王者貴

副委員長 常郁棟

奉天 4月8日後発

本省 4月9日前着

内地人移住の阻害を理由として遼陽などへの
帰還不能避難民移住に軍側難色について

奉天 4月8日後発

本省 4月9日前着

第五三八號(部外極秘)

避難鮮人中原地歸還不能者ハ東山農場(百戸)遼陽城外(二百戸)亂石山(二百五十戸内百三十戸ハ新移住者)及通遼廣濟號農場(二百戸)ニ振り當ツル計畫ナリシハ往電ノ通ノ處(一)軍側ニ於テハ將來ノ内地軍隊移住ニ重キヲ置キ東亞勸業

側ノ同意ヲ求メ難シ)計畫ノ進捗ニ難色アルニ依リ本官ニ

ル統一計畫ヲ阻害ストノ理由ニ依リ土地ノ買收水路ノ開設等ヲ許容セサルノ意向ニシテ(軍側ノ了解ナキ限り省政府側ノ同意ヲ求メ難シ)計畫ノ進捗ニ難色アルニ依リ本官ニ

於テ斡旋ノ結果將來内地人移住ノ場合ニハ東亞勸業ニ於テ充分ノ考慮ヲ拂フノ條件ヲ以テ東亞側ノ計畫實施ニ決定セル次第ナリ

(二)然ルニ廣濟號ニ關シテハ軍ヨリ七日東亞勸業ニ對シ用兵上鮮農ノ帰還ヲ承認シ難キ旨指令アリタルニ依リ同地ニ豫定セル二百戸ハ別ニ始末スルヲ要スルコトナレリ善後策考究中

第五三九號(部外極秘)
往電第五三八號ノ(二)ニ關シ

通遼方面出動中ノ部隊ヨリハ嚮ニ鮮農ノ廣濟號歸還ノ爲ニハ治安上心配ナキ旨東亞側ニ詰合アリタル趣ニ拘ラス其後用兵上ノ理由ニ基キ廣濟號ノ使用不可能トナリタル實情ナルカ右ニ關シ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ軍側ニテハ聯盟調査員離滿後熱河征略ノ計畫アルニ非スヤト推察セラル

180 昭和7年4月13日 在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

中東鐵道東部線方面的治安対策につき意見具申

ハルビン 4月13日前着

本省 4月13日後着

鄭家屯ニ轉電セリ

179 昭和7年4月8日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

避難民の通還移住を軍側が不許可とする背景には連盟調査団離満後に熱河征略計画あるとの推測について

(1)、寧古塔海林地方在留内鮮人ハ當初支那兵匪ノ脅威ニ襲ハレ當地ニ引揚ケ來リタル後其一部ハ三月初旬我軍東部線進出ニ隨伴シ一旦歸還シ得タルモ出動部隊ノ突然ナル撤

ヘカラス、各日僑民モ亦章ニ照シテ繳納シ以テ平等互惠ノ實ニ合スルヲ要ス若シ各村長ニシテ不明偏見ヲ抱キ外僑ヲシテ不當ノ負擔ヲ課セシムル者アル時ハ之ヲ查出シテ懲罪スヘキニ依リ此ノ佈告ニ遵守シ違フ勿レ

右佈告ス

二 東北治安狀況および居留民保護問題

退ニ餘儀ナクセラレ再ヒ當地ニ歸還避難中ニシテ彼等ハ本官ニ對シ軍ハ大局上ヨリ行動シ居ルモノナル可シトハ謂へ在留民ニ對シ餘リニ無關心ナリトノ感想ヲ洩ラシツアリ(尤モ之ハ軍隊側ニ在留民側ノ誇大ナル報道ニ誤マラレテ出動スルニ至リタリトノ感想アリテ其反映ト認メラル節無キニ非ス)

三、一方軍ニ同伴シテ前記兩地並ニ同賓方正方面ノ狀態ヲ視察シタル朝鮮人將校劉耕烈ノ來談ニ依レハ各地ニ於ケル鮮人ノ狀態ハ極メテ悲慘ナルモノニシテ日本軍駐屯中ニ於テスラ何ノ當度モ無ク續々東支沿線ニ引揚ツツアリ右ハ吉林反吉兩軍ノ何レ劣ラヌ暴行掠奪(吉林軍ノ方遙カニ甚シキ由)ニ依ルモノナルカ獨リ鮮人ノミナラス支那人農民モ大半ハ住所ヲ棄テテ四散シ馬匹ノ徵發種子ノ缺乏等ノ結果今年ノ農作ハ甚夕困難ナルヘシトノ事ニテ第ニ師團今回ノ哈爾賓引揚ハ更ニ事態ヲ悪化セシムヘシト思考セラル現ニ往電第三九七號所報ノ如ク反吉林軍力漸次西進ヲ企圖シツツアル事實ハ同方面ノ治安恢復容易ナラサル事ヲ示スモノト言フ可ク從テ内鮮人ノ原地歸還ハ當分實現ノ可能性無シ

三、然ルニ上述東部線方面不安ノ狀態ハ外國人側ニ於テモ注目シ居ル處ナルモノノ如ク現ニ波蘭領事ヨリ同國人ノ權利ヲ有スル土地カ兵匪ノ爲ニ侵害セラレタリトテ何等保護ノ方法ヲ講シ吳レマシキヤト當館ヘ申越シ米國總領事ヨリ一面坡ニ於ケル一外國人(白系露人ナルモノノ如シ)カ殺害セラレタル事實ヲ領事團ノ同文ニテ通知シ來リ居レルカ

(2)
以上ノ如キ不安狀態ハ今回我軍ノ行動シタル地方ニ特ニ著シク穆棱綏芬河等然ラサル地方ニテハ鮮支人共比較的平穩ニ生活シツツアリト傳ヘラレ居リ已ムヲ得サル次第トハ言ヘ外支人等ヨリモ日本側ノ責任ナリト強ヒラル處ナシトセス

四、聞ク處ニ依レハ第二師團撤退ハ兵員ノ交替ト食糧輸送ニ困難ナル雪解期ヲ當地ニ過サントスル必要ニ基クモノ、由ナルヲ以テ將來必要ニ應シ再ヒ出動シ治安狀態恢復ヲ計ル事トナル可シトハ存セラルモ各般ノ關係殊ニ何ヨリモ生活狀態ノ安全ヲ悅フ傾向強キ支那人ヲシテ新國家ノ成立ヲ謳歌センカ爲ニハ兵匪相手ニテ甚夕氣ノ毒ナカラ今後少クトモ寧古塔海林其他東支東部線主要各地ニ相

當兵力ヲ駐屯セシメ反吉林軍ノ鎮壓並ニ吉林軍ノ善導ニ任スル必要アリト思考ス(右ハ必スシモ積極的討伐ヲ要セス單ニ主要地點占據ニ依リ兵匪ノ疲勞ヲ待ツノミニテモ足ル)

五、尚又右目的達成ニハ我軍ノ東支鐵道利用ヲ敏速常ナラシムル事絶對必要ニシテ今日迄ノ如ク移動ノ度毎ニ東支トノ交渉ニ時間ヲ空費スルカ如キハ甚夕好マンシカラスト思考セラルニ付此ノ際「ソ」聯政府ニ對シ我方ノ他意ナキ次第ヲ徹底的ニ了解セシメ必要ニ應シ隨時列車ヲ使用シ得ル様話合ヲ遂ケ置ク事肝要ナリト存ス

六、以上當方事情報告旁傍越ナカラ私見申進ムル次第ナルカ實狀ノ點特ニ御了知ヲ仰キ度シ
支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

181 昭和7年4月(14)日 在間島岡田總領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

二 地方民心安定のため朝鮮軍出動の意義および
目的周知方措置について
付 記 四月七日付在局子街田中分館主任より在間島

岡田總領事宛報告要旨
間島・琿春地方における排日勢力驅逐につき
意見具申
間 島 発
本 省 4月14日後着
第一三五號

皇軍出動ニ對スル支那側(下級官吏及民衆)ノ不安ト恐怖並匪賊其他不良分子ノ逆宣傳ニ依リ流言蜚語熾ニ流布セラレ地方民心動搖シ事態甚夕憂慮ニ堪ヘサルモノ有ルニ依リ地方民心安定並ニ民衆指導ニ關シ支那側ト協力シテ適切有効ナル措置ヲ講スル要有リト認メ軍側トモ協議シ十二日中ヲ大津參謀同伴局子街ニ遣シ籌備處長警備司令外二三ノ首脳者ト協議セシメタル處支那側モ極力贊同シ我方提案ノ鮮支人ニ對スル派遣隊長ノ諭告、籌備處長警備司令連名ノ布告其他標語「ボスター」等ノ宣傳印刷物ヲ彼我協力シテ地方ニ配布シ敷衍説明ヲ加ヘテ皇軍出動ノ意義、目的ノ真相ヲ周知セシメ以テ民心安堵ニ資スル外民衆指導ノ爲日支協力シテ籌備處機關紙漢字新聞ヲ發行スルノ案ヲ決定シ夫々實行ノ準備ヲ進メツツアリ右新聞發行ハ出來得レハ前民聲

二 東北治安状況および居留民保護問題

報ノ建物印刷物其他ヲ利用セントスルモノナルモ支那側ヨリノ出資ハ餘リ期待シ得サルヲ以テ軍部及當館ヨリ相當金額ヲ援助セサル可カラス經營者其他ノ人物ハ籌備處長ニ於テ物色詮衡シ我方ハ然ルヘク監督指導スルコトニ一應打合セ濟ミ尙右援助金ハ此ノ際三ヶ月位ノ見込ヲ以テ籌備處長ニ交付シ全然支那側經營ノ新聞タラシムル事トシ右支出方ニ關シテハ金額決定次第何分稟請ノ筈ニ付豫メ御含ミ置キヲ請フ

支、奉天、吉林、長春、百草溝、琿春、頭道溝、局子街、朝鮮總督ニ轉電セリ

(付 記)

昭和七年四月七日附在局子街田中分館主任發信在間島岡田總領事宛報告要旨

間璉地方ニ於ケル排日勢力驅逐方ニ關スル件

間璉地方居住鮮人ノ生活今日ノ如キ疲弊困憊ノ極ニ達シタル原因ガ排日官民ノ壓迫、共匪ノ暴行脅迫及反亂兵匪ノ掠奪等ニ在ル次第ハ屢報ノ通りナル處今ヤ我軍既ニ出動シ此等禍根モ早晚除去セラルルコトト信ズルモ當地ニハ間璉地

方各界有力人物參加シ官憲ヨリ默認ヲ與ヘ居ルト見ラルル傳統的排日團體(延邊農工商學聯合會)今猶存在シ同會ハ從來一般民心ヲ排日ニ指導シ來リ事毎ニ官憲ニ獻策シテ我正當ナル權利行使ヲ妨害シ就中客年來ノ小作爭議ニ關シ自國人地主ト結合シテ多數鮮人小作人ニ對シ惡辣ナル壓迫ヲ加ヘ滿洲事變發生及新國家成立ニ關シテモ日本ノ行動ニ對シ密カニ反抗的論議ヲ爲シ今同逆徒王德林ノ勢力ヲ如今ク増大セシメ尙且安協政策ヲ以テ終始セントスル情勢ヲ現出スルニ至リタルハ素ヨリ逆徒ノ巧妙ナル宣傳ニ依ルコト勿論ナルモ又全ク右排日團體幹部及現官吏ノ大部分が反亂前ヨリ多年王德林ト親交(當市内ニハ王德林ト親戚關係ニ在ル有力人物其ノ他多數王擁護者アリ梁公安局長モ之ガ取締ニ苦心シ嘆聲ヲ漏シタル程ナリ)ヲ有シ且同人今同ノ行動ヲ以テ愛國心ノ發露ナリト暗ニ賞揚シ一般民心ノ正當ナル判断ヲ謬マラシメツツアル爲ナリト觀測セラレ其ノ他當地方有力官民ノ肚裏ニ横溢セル抗日的心理ハ全ク意外ニ執拗ニシテ頑迷不靈ナルモノアリ斯ル團體及人物ノ奇怪ナル言動ヲ看過シ今後モ其ノ存在ヲ許スコトハ啻ニ當地方將來ノ日滿親善關係ヲ阻害シ思想的ニ重大ナル禍根ヲ貽ス虞アル

ルノミナラズ第二第三ノ王德林ヲ出サシムル結果ヲ招徠シ一般鮮人ハ依然トシテ生活ノ安定ヲ得難ク多年築設セル我既成產業上ノ基礎ヲ崩壊セラレントスル實狀ニアリ今回我軍出動ノ目的ハ在留民保護及帝國及滿洲國ニ反対シ地方治安ヲ擾亂セントスル徒ヲ討滅スルニアルヲ以テ之ヲ一般ニ周知セシメ民心動搖防止ノ措置ヲ執ルコト勿論必要ナルモ一方又此ノ機會ヲ善用シ先づ當面ノ敵タル王德林部隊及之ト連絡アル各種匪賊ヲ擊滅シタル後共匪ヲ徹底的ニ彈壓スル一方滿洲國側ト協力シ久シク瀰漫浸透セル當地方ノ排日心理ヲ矯正シ帝國臣民ヲシテ眞ニ生活ノ安定ヲ得セシメ新國家ノ發達ヲ助成スルコト最モ當面ノ喫緊事ナリト思考ス

182 昭和7年4月14日 在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

ボグラニチナヤ居留邦人のソ連領引揚げに關しソ連政府に依頼方広田大使宛要請

本省 4月14日後発

183 昭和7年4月20日 在間島岡田總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

大、支、北平、奉天、長春、滿洲里ニ轉電シ、吉林、齊々哈爾ニ暗送セリ

間島地方奥地在住朝鮮人の避難状況について

今次事變ニ當リ奥地在住鮮人ノ避難者四月ニ至リ激増シ朝鮮内ヘ歸還スル者又ハ龍井其ノ他安全地帶ヘ避難スル者逐次多數ニ上り來レルカ可成避難民ノ知己ヲ賴ラシメ已ムヲ

得サル者ニ對シテノミ朝鮮人民會ヲシテ收容所ヲ設ケ取扱ハシメタル處十七日迄收容者累計(實數)龍井一六五、頭道溝五六六、百草溝三三〇、計一〇六一名ニシテ其ノ内原地ニ歸還シタル者六五〇名アリ而シテ此等避難民收容所及引揚等ニ要シタル經費ノ内譯ハ目下調査中ニシテ追テ月報ヲ

以テ詳細報告スヘキモ總督府外事課長十五日來館ノ上避難民中兵火又ハ匪賊ノ放火ニ依リ燒失セラレタル家屋復舊費トシテ金五萬圓ヲ提供アリタリ就テハ右避難民收容救護費及引揚費ニ對シテハ本省ヨリ各鮮人民會ニ補助金交付相成度ク差當リ見込豫算トシテ收容所設備費三百圓炊出食料四千圓醫療費二百圓雜費百圓引揚諸費一千四百圓合計七千圓也ヲ計上シタルニ付御補助ノ儀御詮議相成様致シ度ク右稟請ス

四分館ニ轉電セリ

~~~~~

千圓醫療費二百圓雜費百圓引揚諸費一千四百圓合計七千圓也ヲ計上シタルニ付御補助ノ儀御詮議相成様致シ度ク右稟請ス

農安分館閉鎖および引揚げ状況について  
(5月16日接受)  
機密公第五二號  
昭和七年四月廿日  
在農安(長春滯在中)  
分館事務取扱 田島 周平〔印〕

外務大臣 芳澤 謙吉殿

當館ヲ閉鎖シ引揚ニ至リタル情況報告ノ件

本件ニ關シテハ公信第四五號乃至第四七號往電第三號乃至第六號既報ノ通りニシテ重復ニ亘ル嫌ナキニアラサルモ左記ノ通り報告申進ス

本信寫送付先 長春領事

記

一、引揚ニ至ル迄ノ匪賊ノ情況

一、引揚ノ已ナキニ至レル事情

二、重要書類、官有財產及在留民ノ遺留財產ニ對スル處置

### 一、引揚ニ至ル迄ノ匪賊ノ情況

滿洲事件ニ伴ヒ大部隊ノ匪賊隨處ニ跳梁シ人心洶々トシテ寧日ナク時恰モ新國家ノ建設ヲ見ントスル時ニ當リ元馬占山ノ部下ニシテ旅長ノ職ニアリタル李忠義(一名李海青)ヲ盟主トスル匪賊二千五百名ハ山砲機關銃自動車等ヲ備ヘ抗日救國ヲ標榜シテ扶餘縣ニ迫マルト傳ヘラレ之カ討伐ノ爲農安駐屯吉林警備騎兵第一旅長��玉琨ハ麾下三百名ヲ率ヒテ三月十日扶餘方面ニ出動シタルカ全十日全地縣城<sup>(城カ)</sup>ニ宿營中右匪賊團ノ爲ニ包圍セラレ衆寡敵セス遂ニ商團側ノ斡旋ニ依リ匪賊側ノ妥協申込ヲ入レ全地駐屯騎兵第一團(團長陳寬樹)ト共ニ城外三十支里ノ地點ニ後退スルノ止ムナキニ至リ全地ハ完全ニ匪賊團ノ爲ニ占據セラル、ニ至レリ

右事實ハ三月十八日情報トシテ聞込ミタル處ナルカ當時農安城附近拉々屯趙家溝前范家店地方二百名乃至四百名ノ馬賊現ハレ現ニ長農街道ニ於テハ鐵道測量班援護隊ニ射擊ヲ加ヘタル事實アリタル外城内ノ警備手薄ナルニ乘シ農安城攻略說サヘ傳ヘラレ旁々市内ハ頓ニ動搖ヲ來セル處ヨリ支那側有力官民ハ鳩首協議ノ結果地方部落ヲ犠

牲ニシ専ラ城内ノ防備ヲ充實スヘク高家屯、靠山屯等ニ駐屯スル騎兵部隊ニ箇連ヲ招致シテ嚴重警戒スルト同時ニ熙洽長官宛援軍ノ出動ヲ要請シタリ

越テ三月二十一日ニ至リ扶餘方面ノ匪賊ハ大小馬賊ヲ糾合シ一面陳團長ニ隸屬スル討伐隊ノ大半ハ該匪賊ニ寢返リ其勢力忽チ六七千ニ達シ其一部隊ハ農安ヲ目標ニ漸次南下シツ、アリト傳ヘラレ戰々洶々タル矢先劉旅長ハ全夜半突如討伐隊ノ大部分ヲ率ヒテ歸還シ續テ二十二日陳第一團長モ僅々十數名ノ部下ヲ引具シ深夜入城シタル爲茲ニ賊軍優勢ニシテ討伐不可能ナルコト並ニ陳團長麾下ノ寢返リ説ヲ裏書シ城内ハ極度ノ不安ニ陥リタルカ當時大川中尉ノ率ヒ爾鐵道守備隊來援スト報セラレ市内ハ稍々平靜ニ復シタルモ二十五日全部隊四百名愈々着農セントスルニ及ヒ其ノ來農目的ハ馬匪賊討伐ノ爲ニアラスシテ鐵道測量班援護ノ爲ナルコト判明シ且馬賊ヨリ歸順セル素賢<sup>(アマ)</sup>劣惡ノ部隊ナルコト曝露シ城内ヲ再ヒ不安ニ陥レタリ然シテ全部隊ハ二十七日張家灣ニ向ケ引返シタルカ僅カニ近鄉ニ出沒セル前記馬賊ヲ驅逐スルコトヲ得タルノミニテ一方匪賊李海青軍ニ對シテハ何等ノ脅威ヲモ

與ヘサルノミナラス却テ南下説ハ漸次濃厚トナリ二十五日王府方面ノ電話不通トナリ翌二十五日ノ午後ニ至リ該匪賊約四五千ハ抗日義勇軍ト記セル旗ヲ樹テ農安ヲ距ル北方八十支里劉家店ニ現ハレ一氣ニ農安ヲ陷レ長春ヲ屠ルヘシ我目的ハ新政府ノ轉覆ト日本人斬殺ニアリト豪語シテ居ル旨ノ情報ニ接シタリ

小職ハ此ノ情報ニ依り事態容易ナラスト思料シ直ニ旅團部部副官長ニ就キ實否ヲ確メタルニ全副官長ハ右ハ哈里海城子保衛團ヨリノ確報ニテ目下一箇連ヲシテ監視中ナルカ不取敢熙(ハカ)長官宛援軍急派方電請セリ尙旅長ノ意思ナリトテ現在當地ニ在ル軍警ハ僅々千五百名ニ過キスシテ攻勢ニ出ツル能ハサルニ付退テ當城ヲ固守スルノ外ナシ出來得ヘクンハ日軍ノ援助ヲ仰キ度ト語レリ依テ小職ハ死力ヲ盡シ善處セラレ度旨旅長ニ傳達方依頼シテ歸館不取敢闇下及長春田代領事宛事態樂觀ヲ許サ、ル旨電報シ鐵道測量班援護隊ト協力警戒ニ努メタリ

二十七日哈里海城子方面電話不通トナリ賊軍ハ南下ヲ持續シ居ルノ報アリタルカ偶々午後二時頃鐵道測量班ハ農安ノ北方四十支里ノ地點ニ於テ賊軍ノ尖兵ニ遭遇シ作業

ノ總數約五六千名ト稱セラレ而モ城兵ニ戰意乏シク兵器ノ點ニ於テ亦劣リ農安城ノ陥落ハ單ニ日時ノ問題トナリ若シ救援軍ノ來到遲カラシカ左ナキタニ戰意乏シキ城兵ハ匪賊ニ寢返ルノ虞濃厚ナルノミナラス鐵道測量班援護隊員或ハ長春警官隊員等ノ巡察ニ際シ罵倒的言辭ヲ弄スル城兵アリ或ハ日人雇傭ノ支那人ハ饅殺セラルヘシ等ノ謠言起リ不安ト動搖ハ其極ニ達シタルモ既ニ脫出不可能ノ狀態ニ陥リ只管救援日軍ノ來到ヲ待ツノ一事アルモノニテ急險刻々迫ルノ感アリタリ

明クレハ二十九日早朝飛行機ハ當館々庭ニ旅長宛ノ通信筒ヲ落下シ更ニ敵陣地ノ爆撃ヲ行ヒタルカ天候不良ノ爲間モナク引返シタル儘飛來セス一面包圍中ノ一部匪賊ハ東北陽(ママ)ノ城壁ニ漸次肉迫シ來リテ何時火蓋ハ切ラル、ヤモ難斗狀態トナリタルカ全日正午十二時待ツコト急ナリシ救援日軍ノ急派困難ナリトノ悲報ニ接シ當初ノ籠城計畫ヲ一變シテ農安城ヲ脱出シタリ

一、當館ヲ一時閉鎖シ引揚クルノ已ムナキニ至レル事情  
前記ノ匪賊情況ニ關シテハ公信及電報ヲ以テ報告シ尙長春領事館トハ電話ヲ以テ連絡シ救援軍ノ出動手配方依頼

ヲ中止シテ引揚ケ來レル等事態愈々逼迫シ來レルヲ以テ猶豫ナク婦女子ヲ避難セシメタルカ全夜匪賊ノ大部隊ハ農安ノ北方二十支里興隆鎮ニ進出シ來レリトノ情報アリテ城内ノ動搖甚シク前日同様徹宵警戒ニ努メタリ

二十八日午前中邦軍飛行機二台來援敵陣地ノ爆撃ヲ行ヒ更ニ長春警官隊ノ着農ニ依リ意ヲ強クシタルカ全日午後四時ニ至リ熙哈長官ヨリ劉旅長宛輸送シ來レル彈丸二十萬發ハ長農街道ニ於テ匪賊ノ爲奪取セラレ之カ奪還方ニ關シ劉旅長ヨリ鐵道測量班援護隊ニ應援方依頼アリ(隊リ)全隊ヨリ長春警官隊ニ交渉アリタル結果兩隊ハ支那官兵六十名ニ應援出動シ農安ヲ距ル南方六支里兩爺門ニ於テ約五百ノ匪賊ニ遭遇シ一時全滅ヲ傳ヘラレタルカ午後六時三十分一同無事歸還シ得タルハ眞ニ僥倖ナリト云フヘキモ匪賊ハ既ニ疾風迅來的ニ長農街道ヲ完全ニ扼シテ電信電話線ヲ切斷シ尙西方十支里ノ部落及東方十五支里ノ部落又敵手ニ陷リタリトノ情報アリテ茲ニ農安城ハ全ク匪賊ノ爲包圍セラル、ニ至リタリ此時城内防備ノ支那官兵ハ巡警隊保衛團等ヲ合シテ一千五百名ニシテ匪賊

スル他面迅速ナル匪賊ノ行動ニ鑑ミニ二十六日在留民ニ對シ遺留財產目錄ノ調製ヲ催シ二十七日不取敢婦女子八名男子一名測量班十三名ヲ長春ニ避難セシメ更ニ當館並ニ在留民ノ引揚ヲ爲スヘク長春領事館ニトラック二台急送方依頼シ重要書類等整理中全夜全館ヨリ軍部側ニ於テハ哈爾賓ニ駐屯スル歩兵一箇大隊野砲一箇中隊ヲ出動セシムル意嚮ナルカ不取敢長春守備隊一箇中隊ニ山砲一箇小隊ヲ配屬シテ直ニ出發セシムヘク目下馬車徵發中尙明日警部補以下二十三名ノ警官隊ト装甲自動車ヲ送ル旨通報アリタルヲ以テ遲クトモ二十九日若クハ三十日迄ニハ右救援部隊ハ確實ニ到着スルモノト信シ一面四圍ノ情勢ハ數日間ノ籠城ニ耐へ得ヘク觀察セラレタルヲ以テ茲ニ當館ハ鐵道測量班援護隊ト聯絡シ在留民三名ト共ニ籠城ノ計畫ヲ建テ諸般ノ準備ヲ進メタリ

翌二十八日午後一時三十分豐增警部補以下二十三名ノ武裝警官隊來着シタルカ此時既ニ長農街道ハ危險ナリトノ情報ニ接シタルト一面全警部補ノ齊セル確報ナリト云フテ聞クニ日本軍部ノ意嚮ハ長春ノ前線トシテ農安ヲ固守スル筈ナリトノコトナリシヲ以テ事態ハ時々逼迫シツ、

185 昭和7年4月27日

在奉天森島總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

アリト雖引揚途中ノ危険ヲ考慮スルトキハ寧口止マリテ  
城兵ノ寢返リ防止ニ努力シ萬一ノ場合ハ邦人一同當館ニ  
籠城一致協力防備ニ努メナハ救援軍ノ來到迄當館ヲ支持  
スルコト亦容易ナルヘシトノ信念ノ下ニ益々籠城ノ決意  
ヲ固メ旅長ニ對シテハ一兩日中ニ日軍來援ノ旨ヲ告ケ且  
部下ニ宣傳シテ士氣ヲ鼓舞セシムルト同時ニ寢返リ防止  
ニ關シ注意ヲ喚起シタリ

然ルニ全夜長春領事館ヨリ皇軍派遣方手配中ナリトテ前  
電出發ノ爲馬車徵發中ナルニ比シ著シク逆行セル入電ニ  
接シ一同失望ノ底ニ撞着シタルカ尙一應救援軍出動ノ日  
時ヲ確メタル後最後ノ進退ヲ決スヘク測量班援護隊長中  
村中尉ヨリ直接軍部宛打電セシメ返電ヲ待チ詫ヒツ、夜  
ヲ徹シ二十九日ニ至ルモ何等ノ返電ナク更ニ小職ヨリ長  
春田代領事宛照會セントシタルモ無電ニ故障アリ修理中  
ニテ全ク通信不能ノ儘空シク時ノ經過ヲ待チタルカ正十  
二時ニ至リ閣下ヨリノ訓電(第三號)ニ接スルト同時ニ長  
春田代領事ヨリ相當部隊急派困難ナル旨通電ニ接シタリ  
惟フニ軍部ノ都合上爾アルヘキモ事態ハ此儘空シク推移  
スルニ於テハ城兵ノ寢返リハ寧口當然ナルカ如キ實情ニ

動車ノ不足ハ荷物ノ携帶ヲ許サス尙一旦引揚ケンカ忽チ  
不良支那人若クハ官兵匪賊等ノ爲ニ掠奪ヲ受クル虞アリ  
タル爲已ムナク豫テノ手筈ニ依リ焼却處分ニ附スルコト  
ニ決シ經伺ノ遑ナク二十九日午后零時二十分未木巡查ノ  
立合ヲ求メ先ツ目錄ニ照會シタル電信暗號簿及開館以來  
ノ來往電綴ニ石油ヲ<sup>(油ガ)</sup>侵透セシメタル後ペーチカ中ニ投入  
完全ニ焼却シ次テ署員一同ノ手ヲ借り機密信全部普通信  
ノ一部ヲ右同様ノ方法ニテペーチカ及オンドル中ニテ燒  
却何レモ殘片ヲ認メサル迄嚴重監視シタリ

然シテ官有財產及在留民ノ遺留品ニ關シテハ公安局長ノ  
立合ヲ求メ保管方依頼スル筈ナリシモ引揚ヲ豫告スルニ  
於テハ日本軍ノ來援絶望ナルヲ察シ城兵ノ寢返リ或ハ出  
發ノ阻止等如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ難斗思料シタル  
ニ依リ愈々出發セントスルトキニ至リ書翰ヲ以テ(當館  
官有財產ハ目錄ヲ添付シ)縣知事及公安局長宛看守保管  
方依頼シ置キタリ

## 通化との通信杜絶について

付記 亞細亞局第二課作成(作成日不明)

「昭和七年四月通化事件ニ於ケル領事分館員  
及居留民救出措置」奉天 4月27日後発  
本省 4月27日後着

第六六四號

貴電第二二六號ニ關シ

二十五日午後以來通化ト通信杜絶ニ付貴電ノ趣旨ヲ文書ニ  
認メ二十七日晚當地出發ノ警察救援隊ヲシテ携行セシムル  
コトトセリ尙通化ニ於テ聽取ヲ豫想シ于芷山軍ノ出動及我  
救援隊ノ出動準備及我救援隊出發ノ旨ヲ二十六日當地放送  
局ヨリ放送セシメ置キタリ

安東、海龍へ轉電セリ

(付記)

<sup>\*</sup>昭和七年四月通化事件ニ於ケル領事分館員及居留民救出措  
置(外務省亞細亞局第一課調書ニ依ル)

アリタルヲ以テ既ニ救援軍ノ出動望ナキニ於テハ座シテ  
死ヲ待ツヨリ寧口萬一ノ僥倖ヲ恃ミ進ンテ血路ヲ求ムル  
ニ如カスト思料シ茲ニ籠城計畫ヲ一變シ長春警官隊トモ  
談合ノ上一時モ早ク農安ヲ脱出スルコトニ決シ即時在留  
民ニ引揚ヲ勸告シ豫テノ手筈ニ依リ重要書類ノ始末ヲ了  
シタル後全日午后三時十五分當館ヲ一時閉鎖シ館員四名  
在留民三名警官隊二十三名測量援護隊二十一名計五十一  
名ハ各自武装ヲ整ヘ自動車六台ニ分乗シ何レモ悲愴ノ覺  
悟ヲ以テ農安城ノ南門ヨリ突出シ直ニ間道ヲ辿リ途中約  
四百名ノ匪賊ヨリ襲撃セラレタルモ幸ニ交戦スルニ至ラ  
スシテ危地ヲ突破シ全日午後六時張家灣ニ安着翌三十日  
長春ニ引揚タリ

一、重要書類、官有財產及在留民ノ遺留財產ニ對スル處置  
四圍ノ情況以上ノ通リニシテ一時重要書類ヲ携帶シ安全  
ニ引揚ヲ爲スヘク手配シタルモ匪賊ノ行動迅速ナリシト  
交通ノ不便ハ逐<sup>(逐カ)</sup>ニ其機會ヲ失シ次テ籠城ノ計畫ニテ進ミ  
タルモ實行不可能ニ陥リ愈々强行引揚ノ已ナキ事情ニ差  
迫リタルカ途中包圍中ノ匪賊ニ遭遇スル危險アリタルノ  
ミナラス交戰情態ニ陥ルヤモ難斗ト思料シタルト一面自

昭和七年四月十九日在安東領事館ニ於テハ朝鮮滿浦鎮警察署經由在通化興津分館主任ヨリ通化興京間ノ電話不tronari興京駐在西田巡查部長行方不明トナリタルニ付満洲國官憲ニ調査方交渉中ナルモ同縣城ハ匪賊ニ襲撃セラレタルモノノ如ク又通化縣七道溝方面ニハ大刀會匪多數行動シ通化縣城ヲ襲撃スベシトノ風説アリ人心動搖シ居ルモ現在ノ所通化縣城ハ異狀ナキ旨ノ報告ニ接シタリ其ノ後西田巡查部長右報告ノ前日頃興京地方ノ不穩狀況ニ鑑ミ難ヲ奉天ニ避ケタルモノナルコト判明シ興津副領事ノ指示ニ依リ二十三日奉天發翌二十四日山城子經由通化ニ向ヒタルモ途中叛軍ノ爲前進スルヲ得ズ山城子ニ引返スノ已ム無キニ至レリ又同部長ノ勸告ニ請ゼズ興京ニ殘留セル邦人松本芳松ハ叛軍ニ監禁セラレタリ通化ニ於テハ四月二十四日朝兵變起リ公安隊ハ二回ニ瓦リ全員叛乱逃亡シタル爲同地ハ無警察狀態ニ陥リタルガ第一區、第八區地方公安隊亦全部逃走シ大刀會義勇軍ト合體シテ通化ヲ窺フノ姿勢ヲ執リ民心ノ動搖甚シク農商會其ノ他自治機關ハ二十四日夜「遼寧民衆救國義勇軍」ノ要求ニ應ジテ青天白日旗ヲ掲揚シ滿洲新國家反對ノ意

思表示ヲ爲シテ其ノ襲撃ヲ免カレンコトヲ協議シ二十五日ヨリ全市一齊ニ之ヲ掲揚スルト共ニ排日「ビラ」ヲ貼付スル等我方ニ對シテ露骨ナル排日態度ヲ示シ來リタルガ叛軍側ハ通化各界ニ對シ桓仁、寛甸、輯安、敦化、岫巖、鳳城ノ各縣ハ二十一日一齊ニ協和シタル旨ヲ通電シテ氣勢ヲ擧ゲ僅二十數名ノ警察官ヲ擁スルノミナル通電シ館ハ重大ナル危險ニ陥リタル結果館員及在留民ハ全部決死ノ覺悟ヲ以テ事ニ當ルコトトナリ興津主任ヨリハ通溝經由至急有力ナル應援ヲ要望スル旨急電ヲ發スルニ至レリ

四月二十六日ニ至リ通化ハ大刀會匪及遼寧民衆義勇軍約千二百(義勇軍總司令ハ桓仁縣駐屯步兵第一團長唐聚ニシテ通化ヲ占領セル部隊ノ隊長ハ孫秀巖ナル者ナリ)ノ爲完全ニ占領セラレ在留邦人ハ分館ニ收容セラレタルモ形勢刻々惡化シ分館員等ハ一步モ外出スルヲ得ザル苦境ニ陥レリ

### 三、應急救援手配

依テ在安東米澤領事ハ右通化分館ヨリノ電請ニ基キ直ニ朝鮮平安北道警察官ノ來援ヲ求メタルモ目的ヲ達セザリ

方二十六日稟請シ來リタルヲ以テ滿洲國軍隊ノ討伐一段落ヲ告グルニ至ル迄應援ヲ求メ差支無キ旨ヲ同日同訓シ奉天總領事館ニ於テハ通化分館ノ廳取ヲ豫期シ同夜同地放送局ヲシテ于軍及關東廳警察隊ノ出動計劃成レル旨ヲ放送セシメタリ

### 三、關東廳應援警察隊ノ出動

關東廳ヨリハ在奉天總領事館ノ要請ニ基キ酒井警部ヲ隊長トスル警部四名、警部補十名、巡査三百名、巡捕五十名合計二百六十四名ノ警察隊ヲ出動セシムルコトトナリ四月二十七日午後八時半奉海線ニテ奉天發山城子ニ向ヒ出發セリ

右關東廳警察隊ノ出動ニ關シ滿洲國地方官並ニ軍隊側ニ誤解ナカラシムル爲森島領事ハ滿洲國側ト連絡ヲ密ニシ道案内等ノ爲滿洲國巡警若干名ヲ一行ト共ニ山城子ヨリ通化方面ニ同乗セシムルコトトセルガ一方于芷山ハ其ノ副官ヲ奉天ニ派シ此際武裝セル多數ノ日本側警察官ヲ出動セシムルコトハ却テ惡結果ヲ招來スルノ虞アリトシ暫ク于手腕ニ委センコトヲ申出デタルヲ以テ森島領事ハ居留民救助ノ必要上猶豫シ難キ事情ヲ説キ且十軍出動ノ

## 二 東北治安状況および居留民保護問題

促進方ヲ重ネテ交渉シ尙出動警察隊トノ連絡ニ關シ山城子ノ于芷山及其ノ顧問堀内少佐ト打合ノ爲在海龍松浦分館主任ヲ二十七日朝奉天ニ森島領事ヲ訪ヒ救援警察隊出動ノ必要ナル事情ハ諒トスルモ萬一通化方面ニ於テ叛軍ト衝突スルガ如キコトアラバ在留邦人ノ生命ハ却テ危險ニ陥ルベク就テハ飽ク迄支那人一流ノ妥協方法ヲ講ズルコトトシ度キニ付警察隊ニ吳々モ衝突ヲ避クル様注意方申出アリ依テ森島領事ハ松浦海龍分館主任ヲ通ジ右ノ趣旨ヲ警察隊側ニ傳達セリ

右警察隊ハ西田部長以下二名ヲ加ヘ公安隊五十名ト共ニ于芷山ノ麾下騎兵五十名ノ護衛ヲ受ケ四月二十八日午前十一時山城子ヲ出發シテ通化ニ向ヒ二十九日夕刻柳河ノ南方五人班ニ到着シ三十日朝三源浦ニ向ヒ出發セリ

然ルニ同日海龍縣長ハ松浦分館主任ヲ來訪シ干ノ傳言ナリトテ通化分館員等ハ安全ナル模様ナルモ同方面ノ情勢ハ應援隊出動ノ報ニ接シ一層惡化ノ虞アルヲ以テ警察隊ノ引揚ヲ望ム旨ヲ申出デ又于芷山自身モ二十九日竊ニ出奉シテ森島領事ニ警察隊ノ無理押シノ不利益ナルヲ説キ

タルガ同領事モ其ノ意アル所ヲ諒トシ奉天警察署長トモ協議ノ上海龍分館ヲ通ジ警察隊ニ對シテ三源浦ニ待機シ深入スペカラザル旨ヲ傳達セリ

然ルニ五月一日朝應援警察隊ハニ密河口(通化北方二十五支里)ニ於テ大刀會匪及合流セル公安隊約千二百ト交戰シ之ヲ擊退シ得タルモ戰死二名(坂元警部補、皆島巡査)負傷五名ヲ出シ軍隊ノ應援及飛行機ノ出動ヲ要請シ越セリ

急報ニ基キ森島領事ハ不取敢于軍司令部ト連絡ノ爲山城子ニ出張中ノ松浦海龍分館主任ニ對シ于軍高副官ト共ニ至急現場ニ急行シ警察隊ニ對シ通化在留官民ノ無事引揚ノ爲最善ノ手段ヲ盡スベク同隊ノ犠牲者ヲ成ルベク出ザル様措置方ヲ傳達スベキ旨電命スルト共ニ關東軍側ト協議ノ結果此上應援隊ヲ出動セシムルコトナク日本航空輸送會社飛行機ヲ出動セシメテ五月二日通化方面ヲ偵察飛行セシメ通信筒ヲ以テ我警察隊ニ對シ不取敢前進ヲ中止シテ三源浦迄後退方ヲ傳達セシムルト共ニ一日夜森岡領事ヲシテ堀内少佐ト共ニ營盤ニ急行セシメ同地出動中ノ于司令ニ對シ急速通化麥團長ヲ通ジ叛軍ニ向テ我方警

察隊ノ派遣ガ通化居留邦人救出以外ニ何等他意ナキニ付速ニ衝突ヲ避ケ通化在留邦人ヲ引揚ゲシムベキ旨ヲ申送ラシメタリ

五月三日酒井應援警察隊長ハ西田部長ヲ通化ニ派シ叛軍司令ト興津副領事トノ直接交渉ヲ促進セシメタル結果通化在留官民引揚ニ關スル協定成立シ西田部長ハ同日警察隊ニ引返シタルガ同日叛軍司令孫秀巖ヨリ酒井隊長ニ電話ヲ以テ日本警察隊ガ即時後退スルニ於テハ其ノ要求ヲ容レ安全地帶ニ於テ通化在留官民ヲ引渡スベキ旨ヲ申出デ又從來使用ヲ拒絶シ居リタル警察隊ト通化分館トノ直接電話ヲ許シタルヲ以テ警察隊長ハ在留民ノ引揚ニ關シ興津主任ト打合ノ上警察隊ハ四日啄木臺子ニ後退シタリ

四、通化在留官民ノ引揚

斯クテ通化在留官民約三百四十名(内地人四十一名他ハ朝鮮人)ハ五月九日朝通化ヲ出發シテ同日啄木臺子ニテ警察隊ト合シ同地ニ一泊シ三源浦迄義勇軍側ニ護衛セラレ十日灣口溝子十一日版圖嶺ニ各一泊シ警察隊先發部隊十名ハ十一日午後三時北山城子着爾餘ノ警察隊及通化在留官民一行ハ同日午後五時北山城子ニ到着シ十二日午後

四時無事奉天ニ到着スルコトヲ得タリ

尙右引揚ニ當リテハ邦人滑志田一家六名ハ自己ノ都合ニ依リ通化ニ殘留シ其ノ後ノ安否氣遣ハレ居リタルモ十月初關東軍ニ於テ同方面一帶ノ匪賊及叛軍ノ討伐ヲ開始シ同十五日通化ニ入城シタル結果右六名ハ無事救出セラレ海龍ヲ經テ十一月七日奉天ニ到着セリ

五、桓仁駐在警察官及在留邦人ノ救出

通化事件ニ先チ桓仁ニ於テハ四月二十一日駐屯部隊叛旗ヲ翻ヘシ同地駐在ノ長谷川巡查部長李巡查及邦人二名ノ安否不明ニ陥レルヲ以テ同二十二日來興津副領事ニ於テ通化縣知事ヲ介シ交渉ヲ重ネタルモ兩地ノ連絡不能トナリ憂慮セラレ居タル處ニ十六日ニ至リ桓仁縣知事ヨリ通化縣知事宛長谷川等ハ同地縣公署ニ於テ保護中ナルヲ以テ生命ニ危險無キモ之ガ送還ハ途中危險ヲ伴フニ付數日後機會ヲ見計ヒ護送スベシトノ回電アリタル儘五月九日通化在留官民引揚迄ニ到着セサリシ爲興津主任ハ出發ノ際更ニ縣知事及叛軍司令ニ保護方ヲ依頼シ置キタルガ其ノ後引續キ奉天滿洲國側ト聯絡シ救出方法ヲ考究スルト共ニ五月十九日在安東領事ハ輯安駐在東巡查ヲ楚山ニ下

## 二 東北治安状況および居留民保護問題

江セシメ對岸外岔溝朝鮮人會支部長ト協議ノ上密使派遣等可然方法ヲ以テ速ニ長谷川等ノ確實ナル消息ヲ突留メシムル一方反逆軍司令唐聚五ガ事變前安東姜警務局長ノ鳳凰城第一團長時代其ノ部下タリシ關係ヲ利用シ姜ヲシテ唐ニ宛日本人ヲ害スルモ何等益スル所ナキヲ以テ長谷川部長以下在留日本人ヲ釋放スベキ旨ヲ勸告セル書面ヲ送達セシムル等ノ手段ヲ講ジタリ輯安駐在東巡査ハ二十

三日長谷川部長苑渾江ニ沿ヒ脱出方ヲ勸告セル密書ヲ密偵ニ携行セシメ外岔溝ヨリ桓仁ニ向ハシメタルガ他方奉天ニ歸着セル興津副領事ハ五月二十日自ラ巡査一名ヲ帶同シテ奉天ヲ出發シ二十七日安東ヨリ朝鮮側ニ入り滿浦鎮、楚山ヲ經テ三十日輯安ニ到着シ同縣々長ニ長谷川部長ノ消息ヲ訊シタルニ同縣長ガ前日桓仁縣長ニ同部長ノ消息ヲ照會シタルニ義勇軍總司令唐聚五ノ名ヲ以テ桓仁在留日本人ハ速ニ安東ヘ送ル筈ナリシモ地方民ノ感情激昂シ居ル關係上意外ノ事件勃發ヲ虞レ保護中ナルヲ以テ地方安定ノ上ハ安東ニ送ルベキ旨ノ回答アリタリトノコトナリキ斯テ桓仁在留官民ノ生命ニハ別條無キコトヲ

確メ得タルト同時ニ之ガ急速救出ノ困難ナルコト判明シ

シムル一方反逆軍司令唐聚五ガ事變前安東姜警務局長ノ

タルヲ以テ興津副領事ハ六月三日安東ニ引返シ爾後ハ唐聚五ノ歸順問題ト關聯セシメ奉天ニ於テ種々手配スルコトトナレリ

其ノ後滿洲國側ニテハ徐文海軍ヲシテ南東方面ヨリ于芷山軍ヲシテ西北方面ヨリ東邊道一帶ノ兵匪ヲ討伐セシムルコトトナリ徐文海軍ハ六月二十一日頃桓仁ノ南方約トニ邦里迄進出シ一時長谷川部長等救出可能ノ見込アリタルモ成功セズ十月初旬ニ至リ我關東軍ニ於テ愈々通化ヲ中心トスル兵匪ノ討伐ヲ決行スルニ及ビ同十五日通化ニ入城セル同軍部隊ノ手ニ依リ同部長、李巡查及在留民三名ハ無事救出セラレタリ長谷川部長ノ報告ニ依レバ同部長等ハ四月二十日公安局ニ監禁セラレ二十三日縣政府ニ移サレ七月一日長谷川一人脱出シタルモ同日大刀會匪ニ捕ヘラレテ縣政府ニ引渡サレ同四日前記五名通化ニ送ラレ拘禁中皇軍入城ト共ニ解放セラレタルモノナリ

186 昭和7年5月4日 在奉天森島總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

### 四月末までの朝鮮人避難民帰還状況について

奉 天 5月4日後発

本 省 5月4日後着

第七三一號

往電第六〇一號二關シ

四月末迄ノ歸還者累計ハ一萬七千三百四十五名ニ達シ殘

留者ハ奉天管内二十六名安東管内二九名營口管内二四百二

十五名遼陽管内二六十一名長春管内二五百九名鄭家屯管内

二千四十九名哈爾賓管内二約三千名ニシテ哈爾賓ヲ除ク以外ノ各地ニ於テハ大體茲一二週間内ニ全部歸還又ハ移住セシメ得ル見込ナル處北滿方面ニ於テハ今尙避難者日々増加シツツアリ他方通化新賓方面ノ形勢惡化ト共ニ同方面ヨリモ尙多少新タナル避難者ヲ生スルニアラスヤト思考セラル間島、通化、滿洲里ヲ除ク在滿各領事ニ暗送セリ

187 昭和7年6月12日 在間島岡田總領事より  
斎藤外務大臣宛

### 張學良ノ王德林宛激励訓令について

昭和七年六月十二日附在間島岡田總領事發信斎藤外務大臣宛報告要旨

張學良ノ反滿洲國軍王德林ニ對スル激励的訓令  
(本館署長報告)

本件ニ關シ諜知スル處ニ依レバ最近張學良ハ反滿洲國軍王德林ニ對シ部下ヲ督勵シ飽迄救國ノ目的達成ニ奮闘スヘシ

トテ左記譯文要旨ノ如キ激励的祕密訓令ヲ發シタリト

綏靖公署長官祕訓第三十二號

救國軍東南路總司令王德林ニ令ス

貴軍偽政府討滅ノ爲必死的奮鬥ニ對シテハ本長官ハ衷心感謝ニ堪ヘズ我綏靖公署ノ組織ニ關シテハ中央竝ニ諸外國殊ニ英、米、佛、伊ノ各在中使節ノ諒解援助ヲ求メタル次第ニシテ今ヤ日本ノ滿洲侵掠ニ對シ徹底的ニ排斥スルノ好機到レリ倭奴ノ奸策ニ甘ジ賣國行爲アル現滿洲國偽政府幹部等ノ運命モ目曉ノ間ニアルベク現下ノ國際情勢ハ武力の勝利ヲ得ル時ニアラズ人道ヲ無視スル彼ノ日本ノ武力行使ハ毫モ恐ルルコトナク勇往邁進シ目的ヲ果スベキナリ目下諸外國ノ應援諒解ヲ求ムルト共ニ武器補充ノ交渉ニ奔走シ居レルガ近々赤露ヨリ飛行機及毒瓦斯等密送シ來ル筈ニ付

特ニ貴司令ヨリ各隸下ヲ督勵セラレ最後迄力強ク奮闘セラ

レンコトヲ望ム云々

中華民國二十一年六月 日

北平綏靖公署長官 張 學 良

在間島岡田總領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

188 昭和七年六月二十二日 在間島岡田總領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

居留民の自發的自衛團組織に關し経費支弁方稟請

付記一 五月二十日付在間島岡田總領事より芳沢外務

大臣宛報告要旨

間島協議会第一回および第二回会合における協議内容について

二 六月十六日発在間島岡田總領事より斎藤外務

大臣宛電報要旨

間島地方における兵匪による襲撃事件の多發に對し警察官増員方稟請

間 島 6月22日後発  
本 省 6月23日前着

第三七六號

付之カ増額方ニ關シ追テ案ヲ具シ稟請スヘキニ付御諒知相成度シ

編 注 本件自衛團經費は九月末までに限り承認され、八月

十日、本省より一万五百円が送付された。

(付記二)  
昭和七年五月二十日附在間島岡田總領事發信芳澤外務大臣宛報告要旨

間島協議會ニ關スル件

間島出兵二件ヒ同地方ノ特殊事情ニ應ズル爲民政及自治團體ノ指導ニ必要ナル事項ヲ協議シ各機關ノ協同連繫ヲ圖ルノ趣旨ヲ以テ間島駐在陸軍特務機關長、關東軍派遣幕僚、在間島總領事、朝鮮總督府派遣員及新國家側代表者ヲ以テ組織スル間島協議會ノ成立ヲ見タルガ同協議會議初回ヲ五月十八日間島總領事館内ニ於テ關東軍幕僚ノ派遣ナキ儘開會會議方法及其ノ處理方ノ打合ヲ爲シ第二回ハ五月二十三日局子街ニ於テ開催間島維新會及自衛團ニ關スル協議ヲ遂

ゲタリ

貴電第九四號ニ關シ  
最近間渾各地ニ少部隊匪賊ノ出沒甚タシク住民ノ被害頻出シツツアリテ之カ討伐防遏ハ軍隊警察ノ力ニ依ル外住民ヲシテ自衛手段ヲ取ラシムル要アリ旁々間島協議會ノ決議モアリ住民亦其ノ必要ヲ自覺シ自發的ニ自衛團ヲ組織シツツアリテ警備補佐官ト連絡ヲ取り本館及分署ニ於テ訓練ヲ開始セシモノアル處住民鮮人民會トモ財政窮乏ノ今日其ノ經費負擔困難ナルニ付差當リノ經費トシテ住民會ニ對シ自衛團創立諸費(被服費及訓練費等)三百圓宛七、八、九ノ三ケ月分維持費トシテ二百圓宛二〇民會分金一萬圓及釜洞外五民會ニ於テ五百圓合計一萬五百圓也ノ高補助方御詮議相成度シ尙右ノ狀況ニテ一時減少セシ避難民モ六月ニ入り漸次增加シ目下渾春二九二三名龍井二七名百草溝六一名八道溝三七名ノ救護者アリ三道溝甕聲硝子ニモ若干アル見込ニシテ之等ニ對シ原住地復歸其他ニ依リ自活ノ途ヲ得シムルコトニ苦心シ居ルモ既ニ農期逸シタルト間渾地方ニ於テハ他ニ就職ノ途少キヲ以テ引續キ救護セサルヘカラサル現狀ナルカ目下ノ狀況ヲ以テ進マハ曩ニ御支出相成リタル避難民救濟費七千圓ニテハ七月末迄ヲ支ヘ得ルニ過キサル見込ニ

間島協議會議事錄 昭和七年五月十八日

一、間島協議會ハ例會ヲ一週一回木曜日ニ開催スルコト

二、間島協議會ハ右例會ノ外必要ニ應ジ臨時會議ヲ開催ス

三、會議ノ司會者ハ特ニ之ヲ定メズ例會ニアリテハ概不順番

ニ、臨時會ニアリテハ會合ヲ要求シタル委員之ヲ司會ス

四、會議ニ提案シタル事項ハ提案者ヨリ會議終了後決議ト共ニ印刷シテ各委員ニ配布ス

五、會議ニハ委員ガ自己ノ責任ニ於テ必要ト認ムル隨行者ヲ同伴スルコトヲ得

六、會場ハ龍井ニ於テハ領事館、延吉ニ於テハ籌備處トシ概不交互通用シ時刻ハ通常午後二時開始トス

七、五月二十日局子街ニ於テ施行スル滿洲建國祝賀會ハ全間島日支官民合同ニテ行フコトトシ派遣隊、籌備處、總領事館ニ於テ各々其ノ所管ニ基キ指導スルコト

八、局子街其ノ他ニ於テ各方面ノ連絡ヲ圓滿ナラシムル爲島協議會ノ規模ノ小ナル如キモノヲ設クルコトハ差支ナキモ其ノ地方以外ニ關係ヲ有スル事項ニ對シテハ間島協議會ノ同意ナクシテ決議シ又ハ實行ヲ要求スルコトヲ得

議會ノ同意ナクシテ決議シ又ハ實行ヲ要求スルコトヲ得ズ

九、宣傳ニ關シテハ新聞其ノ他各種ノ方法ニ依リ實行スルヲ

必要トシ而モ組織的方法ニ依リ徹底セシムルヲ要ス而シ

テ其ノ具體的方法ハ特務機關長ニ於テ計畫立案シ會議ニ

諮詢ベシ

一〇、問島維新會及自衛團ニ關シテハ五月二十三日午後二時

ヨリ延吉市政籌備處ニ於テ臨時會ヲ開キ之ヲ討議ス

一一、例會ニ關スル斡旋ハ總領事及籌備處長ニ於テ擔任ス

問島協議會第一回會議々事要領(五月二十三日)

一、維新會ニ關スル件

民族融和ノ機關ヲ要スル時機ト認メラルニ付滿洲國國務院ヨリ公布ノ協和會ニ關スル規定ニ依リ滿洲國側ニ於

テハ農商務會等日本側ニ於テハ民會等主トナリ會ヲ造ルコトトシ次回會議迄ニ右協和會規則ヲ取寄セ置キ更メテ

協議スルコトナル

二、自衛團組織ニ關スル件

滿洲國側及派遣隊並ニ領事館監督ノ下ニ小規模ナル地方

的一時的非政治的ノ自衛團ヲ造ルコトトシ右ニ關スル規定ハ領事館側ニ於テ立案シ五月三十日月曜日ノ會議ニテ審議スルコトトナル

民生團ノ自衛團計畫ハ實施セシメザルコト

備考

本日ノ會議ニテ出デタル諸意見ノ大要左ノ如シ

鮮人團體ハ兔角民族主義的反官的ニナリ易ク自衛團ノ如キモノヲ造ルトセバ官憲ガ指揮監督スルヲ要シ小規模ノモノヨリ始ムベシ

既ニ滿洲國成立シタル以上滿洲國側ヲ主動的ナラシムルコト然ルベク公安隊、保衛團等ノ完成ニ依リ自治維持ヲ計ルコト本筋ナルヤニ考ヘラルモ過渡的措置トシテ自衛團等ヲ造ル場合地方的小規模ノモノヨリスベシ

維新會ノ如キハ民族融和ノ機關トシテ之ト切り離シ自衛團ヲ造ルコト可然自衛團ニハ多少弊ノ伴フコトアルベキ

モ出來ル丈ヶ弊ヲ少クスル様ニシテ之ヲ造ルニ可ナル時

機ト認ム民族融和ノ機關ハ必要ト認ム滿洲國側ニ於テ協和會組織計畫成り居ルニ付其ノ規定ヲ參照シテ造ルコト然ルベク自衛團ハ滿洲國側ガ主トナリテ作り度費用支出

如何ニ監督規定ヲ善ク作りテモ結局反官的トナルコトナキヲ保セズ依テ武器ハ自衛團ニ與ヘザルヲ可トス

自衛團ハ地方の一時的ナルコト政治ニ關係セザルコト匪賊、共產黨ニ對スルモノタル範圍ヲ出デザルコトトスルヲ要ス故ニ維新會トハ別ノモノトシ又將來滿洲國側ノ警備充實ニ害ニナラヌ様ニスルコト

自衛團ニ武器ヲ持タシムルニモ例ヘバ匪賊襲來ノ際ニ一時的ニ持タシムル等種々ノ方法アリ得ベク一概ニ持タシメズトスルハ考ヘモノナリ次ノ會議ニ於テ研究スルコト然ルベシ

(付記二)

問 島 6月16日発  
本 省 着

昭和七年六月十六日在間島岡田總領事發齋藤外務大臣宛電報要旨

滿洲事變以來我警察官ハ天寶山、二道溝、八道溝、涼水泉子、大拉子、嘎呀河次デ三道溝ニ於テ優勢ナル大刀會匪及

警察官増員方ノ件

兵匪ノ襲撃ヲ受ケタルガ之ニ對スル我警察機關ノ機宜ノ措置ト勇敢ニシテ機敏ナル行動ニ依リ寡員克ク賊團ヲ擊退シ以テ在住民保護ノ任務ヲ達シ得タリ然ルニ最近賊團ハ集結行動ヲ執リ我軍隊ノ手薄ナル箇所ヲ覗ヒ襲撃セントスルノ情勢アル處目下草木繁茂期ニ差カカリ而モ雨期ノ爲自動車ノ運行殆ド不可能トナリ應援派遣時機ニ投合セシムルハ極メテ困難ナルニ付テハ今後果シテ從來ノ如ク我警察活動ニ依リ賊團ヲ掃蕩シ得ルヤヲ懸念セラレ又一面分署勤務ノ警察官ハ不斷ノ警戒ト活動ニ依リ疲勞ノ狀アリ又本館及分館警察署員ニアリテモ分署ノ應援、派遣隊ノ支援及鐵道工事保護等ノ行動ニ依リ奔命ニ疲レ居ル有様ニテ我警察機關ノ任務遂行上憂慮ニ堪ヘザルモノアリ今同ノ三道溝兵匪襲撃事件ハ我飛行機ガ龍井村ノ上空ニテ高度演習中三道溝方面ニ黑煙ノ上ルヲ見直ニ救援ニ赴キタルモノニシテ僅ニ二十名ノ分署員ガ五百ニ餘ル賊團ノ攻擊ヲ防衛シ多數ノ避難民ヲ救助シタルガ如キハ全ク天佑ト言フノ外ナク斯ノ如キ效果が現在配置人員ニシテ而モ武力及武備ハアラザル我警察機關ニ期待スルハ無理ナル次第ニテ今後萬一我警察機關ガ賊團ニ蹂躪セラルコトアラバ附近在住鮮人ハ其ノ居住

## 二 東北治安状況および居留民保護問題

ニ堪ヘザルニ至リ大ナル動搖ヲ見ルベキニ付此際機ヲ逸セ  
ザル様一日ヲ早ク警察官ノ増員方御詮議相成様致度シ  
(ママ)

~~~~~

189 昭和7年7月4日

在奉天森島總領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

東辺道の治安回復のための朝鮮軍出動につき

軍側と協議方稟請

奉天 7月4日後発
本省 7月4日後着

第一〇三六號

東邊一帶ニ於ケル鮮農ニ對スル根本的措置トシテハ東邊一帶ノ治安回復ノ爲急速且徹底的措置ヲ講スルノ外無キ事ハ海龍發本官宛電報第二二二號末段ノ通ニシテ當方ニ於テハ通化事件發生當時ヨリ本件ニ付軍側ト協議ヲ重ネ來レル處軍側トシテハ適宜ノ時機ニ東邊ノ匪賊ヲ徹底的ニ討伐スルノ必要ヲ認メ居ルモ北滿ノ時局落着前ニハ東邊ニ大部隊ヲ割クノ餘力無ク先般瀋海線方面ニ出動シタル部隊モ地形並ニ糧食ノ關係及右部隊ハ他地方ノ情勢ニ應シ何時ニテモ引揚ケ得ル姿勢ニ置クノ必要有ル爲大體三日行程以上ノ奥地

ニ進出スルヲ得サル結果同部隊ノ任務モ大體瀋海線沿線ノ安全ヲ確保スル程度ヲ出テス

從テ此ノ際東邊一帶ニ於ケル治安回復ノ爲ニハ相當部數ノ

朝鮮軍ノ出動ニ俟ツノ外無キ次第ナル處右ニ付テハ朝鮮内ノ治安其他大局上ノ見地ニ基キ考慮ヲ加フルノ必要有ルヘキヲ以テ本省ニ於テ軍側ト充分御協議ノ上結果御回電願ヒ度シ

尙避難民ハ前記海龍發電報所載ノ一日現在七千百人ノ外奉天ニ來レル者一日迄ニ約千三百名ニ上リ尚今後遞増ノ形勢ニアルニ鑑ミニ一日關係者協議ノ結果九月頃ニハ關東軍ノ手ニ依リ東邊ニ於ケル匪賊ニ徹底的討伐行ハル可キ事ヲ考慮ニ入レ差當リ瀋海鐵道沿線數箇所ニ簡單ナル收容所ヲ設ケ應急救護ヲ爲シ原住地ノ治安狀態ノ變遷ニ應シ歸還セシムル事ニ方針ヲ定メ三日海龍分館トノ打合セ並ニ實地調査ノ爲當館並ニ民間側ヨリ係員ヲ派シタリ右報告ヲ待チ最小限度ノ應急救護措置ヲ立テ請訓ニ及フ所存ナルニ付經費支出方豫メ御考慮置キ請フ

190 昭和7年7月6日 在奉天森島總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

奉天における避難民対策について

奉天 7月6日後発
本省 7月7日前着

第一〇三九號

往電第一〇三八號ニ關シ

東邊ヨリノ避難鮮人ハ逐日増加ノ傾向ニアリ既ニ當方面ニ

來レル者約六千名(奉天二三千五百、撫順二千五百)ニ達

セル處現地派遣員ノ歸來報告ニ依レハ沿線各地ニ避難中ノ者猶約九千アリ(朝陽鎮三千五百、海龍五百、山城子四千五

百、清源五百)右ハ東邊一帶ニ於ケル治安ノ根本的破壊ノ結果ニシテ近時特ニ激増セルハ過般匪賊討伐ノ爲該地方ニ出

動セル我軍ノ引揚ト共ニ反動的壓迫アルヲ豫想セル爲ト推察セラル處朝陽方面ニハ吉林、盤石方面ヨリ避難セル者

相當多數アリ其中ニハ共產系分子モ潛入シ居リ現ニ同地ニ

於テハ過般避難人數十名一團ト爲リ支那富農ヲ襲撃シ物

資ヲ略奪シタルカ如キ出來事一、三件有リ地方支那民衆ト

ノ感情モ次第惡化ノ傾向ヲ呈シツツアル趣ニシテ現地派

不日全部北方ニ移動シ吉林方面ノ平定ヲ待チ東邊道一帶

ハ本年九月以降ニ於テ大掃討ヲ行フ計畫ノ由ナリ
安東、吉林、海龍へ轉電セリ

191 昭和7年7月8日 在奉天森島總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

東辺道治安悪化に伴う避難民救済のため七月

より三ヶ月分の経費支弁方稟請

奉天 7月8日後発
本省 7月8日後着

第一〇四六號(至急)
往電第一〇三九號ニ關シ

(一)多數鮮人ノ來奉ハ救濟金目當ニ非スヤ又裏面ニハ何等策動アルニ非スヤトノ懸念モ有リタルニ依リ六日松浦主任ノ來奉ヲ求メ現地ノ實狀ヲ聞キタルニ東邊一帯ノ治安ハ通化事變當時以來于芷山軍ノ無力、各地公安隊ノ寢返り昨年事變以來ニ於ケル地方經濟ノ疲弊等ノ爲總崩レノ状態ニアリ物資缺乏、物價ノ騰貴並私票ノ値下リ等ト相待チ一般良民モ生活ノ逼迫上已ムヲ得ス匪賊ニ合流スル者簇出ノ状態ニ

テ東邊一帶ノ治安回復ニ付根本的手段ヲ取ルト共ニ地方經濟救濟ノ爲根本策ヲ講スルニ非サレハ避難鮮人ノ增加ヲ免レス(現ニ海龍方面モ形勢不穩ノ爲在留民ハ全部分館ニ集合防備設備等ヲ講シ居ル由)農耕地ニ殘留セル者ノ數等ハ現地ノ調査不能ノ爲明カラサルモ鮮農引揚、匪賊ノ横行ニ依ル植付ノ減少並除草引水等ノ中止ニヨリ秋季農作ノ大減少ヲ見ル可キコト推察ニ難カラス從テ救濟ノ方途ニ出ツル以上單ニ我軍ニ依ル根本的討伐迄ノ期間ノミナラス其後來春迄ノ救濟ヲモ覺悟スルト共ニ更ニ農耕資金ニ付テモ考慮ヲ加フルヲ要ストノ事ナリ

前電所報ノ事情並ニ松浦等ノ意見ヲモ考慮ニ入レ關係者協議ノ結果我軍ニ依ル根本的討伐實行後ノ事ハ第一段トシ差當リ七月ヨリ九月迄ノ三ヶ月ヲ期間トシテ今後ニ於ケル避難者ノ增加ヲモ見込ミ避難者數ヲ三萬人ト見積リ左ノ通救濟策ヲ樹テタルニ付所要經費金二十一萬六千圓御支出相成度シ結果至急電報請フ

(一)救濟收容所
北山城子ニ設ケ奉天及撫順ニ避難セル者ヲ總テ同地ニ移送ス(道路工事等ニ使役ノ爲各方面ト折衝中ナルハ前電ノ通)

(二)被救濟者

(イ)避難者中ノ老幼婦女子及病者

(ロ)壯者ハ成ルヘク原地ニ歸還農耕ニ從事セシムル様手配シ已ムヲ得ス避難セル者ハ適當ノ勞働ニ從事セシメ壯者ニ對スル救濟ハ眞ニ已ムヲ得サル者ニ限定ス

(三)救濟費

一人一日ニ付食費、家賃及燃料ヲ合セ金八錢トス

(四)救護從事員及醫師ハ朝鮮總督府ヨリ派遣ヲ請ヒ保護取締ニ要スル警官ハ奉天ヨリ派遣ス

朝鮮總督ヘ轉電セリ

192 昭和7年7月8日 在ハルビン長岡總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

北滿方面における避難民収容状況について

ハルビン 7月8日後発

本省 7月8日後着

第六七二號

當方面事變發生以來當館ノ收容救護ヲ爲シタル避難鮮人中約四千人ハ夫々適當ナル農耕地ヲ見付ケテ嵌込ミ濟ナルモ

奉天、朝鮮總督府外事課長ニ轉電セリ

193 昭和7年7月9日 在吉林石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

兵匪横行による吉敦・吉海両鉄道沿線への奥地よりの避難民に対する救護費支出方要請

三道溝において滿州國護衛兵の背反により殺害された有木巡査に対する慰謝料について

付記一

四月四日發在吉林石射總領事より芳沢外務大

在吉林石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

吉林 7月9日前發
本省 7月9日後着

第三二七號

吉敦吉會鐵道奥方面兵匪横行ノ爲鮮人避難ニ付テハ累報致シタル處アルカ最近盤石蛟河方面兵匪ノ跳梁益々甚タシク六月三十日現在當管内ノ收容救護セルモノ吉林一四九(此ノ外市内ニ一二〇〇)敦化八三一、蛟河一四五盤石九八二名ニシテ尙増加ノ見込アリ奥地ノ情勢ハ到底當分原地

歸還ノ見込立タス救護ヲ爲スノ外方法ナキニ付一日一人當

リ約六錢ノ割ヲ以テ引續キ救護費支出方御配慮ヲ請フ追テ

既ニ支出濟ノ六月分救護費二千六百八圓十一錢及七月所要

見込額七千三百圓御送金ヲ請フ

奉天、朝鮮總督へ轉電セリ

第三四一號

往電第二七二號二關シ

(一)盤石事件被害者ノ慰藉料ハ金額ヲ固執セサルモ鮮人死者二名ニ各一千圓負傷者ニ五百圓残リ有木部長分トシ總額一萬五千圓位トシテ政府ノ自發的措置ヲ求メ置キタル處十六日右額ヲ送付シ來リ尙同日熙省長ト面會ノ節改メテ

吉林 7月21日後發
本省 7月21日後着

第三四二號

往電第二七二號二關シ

(一)盤石事件被害者ノ慰藉料ハ金額ヲ固執セサルモ鮮人死者二名ニ各一千圓負傷者ニ五百圓残リ有木部長分トシ總額一萬五千圓位トシテ政府ノ自發的措置ヲ求メ置キタル處十六日右額ヲ送付シ來リ尙同日熙省長ト面會ノ節改メテ

相濟マサリシト陳謝アリタリ

(二)鮮人死者中一名ハ原籍不明遺族モ今ノ處探シ當ラサルニ付之ニ對スル一千圓ハ暫ク當館ニ保管シ他ノ一名ノ遺族ハ老幼ノミニテ最近窮状殊ニ甚シキモノアルニ付二千圓トシテ給スル事トシ結局有木ノ取分一萬一千五百圓ヲ別途郵送ス右ニテ御辛棒ヲ請フ

(三)本件ハ他ノ似テ非ナル事件ニ付徒ラニ要求ヲ挑發スルニ付極秘トセラレ度ク又有木ノ分ニ付親族間ニ押領争ヒ等ノ起キ又様適當ナル保存方法考慮ノ上交附スル事ト致度ク爲念

奉天、哈爾賓、間島、長春、齊々哈爾ニ暗送セリ

(付記一)

吉林 4月4日發
本省 着

☆昭和七年四月四日在吉林石射總領事發芳澤外務大臣宛電報要旨

有木巡査殉職ノ件

磐石分署ニ於テハ附近ノ共產黨鮮人檢舉決行ノ爲四月一日

194 昭和7年7月21日 在吉林石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

付記一

四月四日發在吉林石射總領事より芳沢外務大

在吉林石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

有木巡査ほか二名の殺害事件につき報告

二 五月十七日發在吉林石射總領事より芳沢外務大臣宛電報要旨

有木巡査殺害事件に關し吉林省側との賠償交渉について

吉林 7月21日後發
本省 7月21日後着

第三四二號

往電第二七二號二關シ

(一)盤石事件被害者ノ慰藉料ハ金額ヲ固執セサルモ鮮人死者二名ニ各一千圓負傷者ニ五百圓残リ有木部長分トシ總額一萬五千圓位トシテ政府ノ自發的措置ヲ求メ置キタル處十六日右額ヲ送付シ來リ尙同日熙省長ト面會ノ節改メテ

ニ依頼シ極力調査中ナル趣尙田中署長等ノ一隊ハ豫定通り出發セリ

(付記二)

吉林 5月17日発
本省 着

* 昭和七年五月十七日在吉林石射總領事發芳澤外務大臣宛電報要旨

有木巡查ノ遺族ハ勿論當館警察官ヲモ満足セシメ且外部ヲ領カシムル様慎重考慮中ナルガ

(一)治安ノ恢復維持三付テハ我軍及警察官ニ於テ共同戰線ヲ張リ居ル現狀ニ於テ警察官ノ死傷ノミニ付キ多額ノ弔慰金額ヲ要求スルハ軍側方面ノ物議ヲ起シ易ク

(二)最近支那軍隊ノ背信行爲ハ獨リ有木事件ノミナラズ隨處ニ發生シツツアリテ此ノ責任ハ現下ノ治安狀態ノ下ニ於ケル出來事ト同一ニ律スベラカラザルノミナラズ滿洲事變ヨリ生ゼル當然ノ結果トシテ吉林省府ハ半身不隨トナリ吉林軍ノ配置編成等迄モ我軍側ニ於テ面倒ヲ見テ造リ居ル變態的現狀ノ下ニ於テ支那兵ノ背信的行爲ニ付キ

(三)又當管内ニテ他ニモ邦人居留民ニモ死傷事件アリ關係者ヨリ救恤金重^(要カ)求方願出デアルモ此種ノ犠牲ハ今後續出スルナキヲ保セズ

此等解決ハ一律公平ニ考量スベキ必要アリ依テ個別的取扱ヲ躊躇シ居ル次第ニモアリ獨リ我警察官ノ被害ニ對シテノミ要求スルハ外部ヨリ非難ヲ受クルモ辯解ノ辭ニ苦シムニ至ルベシ右ノ次第二付既ニ省政府ヨリ進デ弔慰金贈與ノ意思ヲ表明セル以上其ノ金額ハ餘り問題トセズ一先ヅ先方ノ裁量ニ任せ我方ハ必ズシモ前例ヲ以テ例トセザルコト致シ度尙有木事件ニテ遭難セル鮮人ニ付テモ當方ニ於テ然ルベク解決致シ度シ

195 昭和7年7月22日 内田外務大臣より
在米國出淵大使 在仏國長岡(春一)大使(宛)(電報)

張學良軍の河北省北辺への移動および朝陽寺

事件の発生について

本省 7月22日発

合第一五七一號

一、熱河一般狀況

熱河省ニ於テハ夙ニ省主席湯玉麟ノ勢力ト舊張學良系軍隊及土着軍隊ト相對立セルカ學良ノ支援ヲ受ケ熱河ヲ根據トシ滿洲擾亂ヲ策シツツアル黃顯聲ハ豫テ湯玉麟ト大猿ノ間柄ニシテ兵匪ヲ糾合シテ抗日義勇軍ノ擴大ヲ圖ルト共ニ湯ノ倒壊運動ヲ促進モントスルノ模様アリ其他學良ノ支援ヲ受ケ開魯方面ニ活動セル義勇軍司令李芳亭其他大小義勇軍ハ表面湯ニ服從シツツアルモ湯ニ對シ反感ヲ有スルモノ尠カラス而シテ張學良ハ熱河ノ向背ハ其死命ニ關スルヲ以テ湯ニ對スル其監視ヲ嚴ナラシムルト共ニ一方ニ於テ熱河方面ノ義勇軍ヲ增加シ且反湯系ヲ使嗾シ湯ノ滿洲國トノ接近ヲ妨クル爲メ種々畫策ニ努メ居レルカ此間湯玉麟ハ滿洲國ト張學良トノ中間ニ立チ全ク板挾ミノ狀態トナリ首鼠兩端的態度ヲ採リ居レリ尙ホ最近學良ハ日本軍ノ熱河攻擊ニ對スル防衛準備ノ名目ニテ東北軍數旅ヲ河北省北邊ニ移駐シタルカ其眞意ハ湯玉麟牽制ニ在ルモノノ如シ

軍隊(熱河步兵第百七旅第二百十四團第十一連ニシテ連長ハ反日態度甚シキ爲誠首サレントセシモノナリト云フ)及義勇軍ノ聯合セルモノラシキ武裝團体ノ襲擊ヲ受ケ軍囑託石本權四郎等拉致セラルル等ノコトアリテ關東軍ハ其一部隊ヲ朝陽寺(熱河奉天兩省ノ境)ニ差遣セル處右部隊ハ同夜朝陽寺驛附近ニ於テ兵匪約二百ヨリ襲撃ヲ受ケタルモ遂ニ同地ヲ占領セリ

以上熱河軍隊及義勇軍カ湯玉麟ノ命ニ依リ行動セシヤ或ハ張學良ノ使嗾ニ依リテ行動セシヤ未夕明カナラサルモ寧口後者ナルカ如シ

196 昭和7年7月22日 内田外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛(電報)

東邊道方面における朝鮮人避難民の救濟費支

弁につき承認方回訓

付記 七月二十七日、亞細亞局起案高裁案

「在滿避難鮮人救護費用(居留民救護費)追加

二 東北治安狀況および居留民保護問題

三、朝陽寺事件

七月十七日北票發錦州行列車ハ南嶺朝陽寺間ニ於テ熱河

本省 7月22日後5時発

貴電第一〇四六号ニ關シ

高 裁 案

東邊道一帶避難鮮人ノ救護ハ已ムヲ得サルモノト認メラル
ルニ付大体貴電末段ノ計劃ニ依リ處理セラレ差支無キモ要
救護人員三萬人ヲ動カサル數ナリトシテ九月末迄救護スル
モノトセハ當方ノ財源ハ單價金四錢ニ切下クルニ非サレハ
支ヘ難キ状態ナルニ付極メテ困難ナルヘキハ察スルモ可成
此範圍ニ於テ經理セラレ度経費ハ支出額確定ヲ俟ツテ其ノ
都度當該各公館宛支出送金スルコトトスヘキニ付各月末ニ
区切り請求アリタシ

尚本省トシテハ本年九月迄ヲ限り救護費予算ヲ取り居ル次
第ナルニ付十月以降引續キ救護ヲ要スル場合ハ之ヲ朝鮮總
督府ニ移管スルコトトシ別電第三九^(省略)六號ノ通り同府へ通報
シ置キタルニ付併セテ御了知相成度シ

(付 記)

昭和七年七月廿七日

亞細亞局第二課長

在滿避難鮮人救護費用(居留民救護費)追加方二

在滿鮮人ニ對スル救護事務ハ元來朝鮮總督府ノ主管事項タ
ルモ滿洲事件ニ基ク避難民ノ救護ニ付テハ同府ヨリ内鮮人
ヲ區別スルコト鮮人統治上面白カラストノ理由ニ依リ本省
豫算ニ於テ内地人ト一括經理方申出アリタルヲ以テ六年度
未迄ノ分ニ限り本省豫算ニ計上スルコトニ協議ヲ遂ケ客年
度豫算金二三九、六三五圓ヲ以テ經理ヲ了シタル處滿洲ノ
狀態ハ本年度ニ入りテ俄ニ救護ヲ打切り難キ状態ニ在リシ
ヲ以テ本省ハ總督府當局ト打合ノ上更ニ七年度追加豫算ト
シテ四月ヨリ九月ニ至ル六ヶ月分ノ救護費金一九二、九二
二圓ヲ計上シ日下救護續行中ナリ

然ルニ滿洲ノ治安狀態ハ急速改善ノ見込無ク本年十月以降
ニ在リテモ尙ホ引續キ救護ヲ必要トスルモノト思考セラル
ル處一面内地人ニ對シテハ昨年度ヲ以テ殆ント救護ヲ打切
リタル關係上今ヤ救護上内鮮人ヲ差別スルヲ不可トスルノ
理由消滅シ鮮人ノ救護モ最早ヤ持久狀態ニ入りタルモノト
認メラルルニ至レルヲ以テ十月以降ノ救護費ハ對在滿鮮人
施設ノ常規ニ立歸リ朝鮮總督府ノ豫算ニ計上セラルヘキモ

ルモノアルニ付茲ニ不取敢十月以降本年度末ニ至ル六ヶ月
ノ救護ニ付テモ本省ニ於テ擔當スルモノト假定シテ左記豫
算ヲ計上シ前記總督府トノ折衝ニ依ル主管問題ノ決定ヲ俟
テ更ニ右豫算ノ歸屬ヲ確定スルコト致度

記

六三、〇〇〇圓 收容所建築費(五ヶ所)

二八五、一二〇圓

給食費(一人一日金六錢ノ割ニテ
二六、四〇〇人ノ六ヶ月)

四七、五一〇圓 薪炭費(一人一日金壹錢ノ割)

四七、五一〇圓 醫療費

八、四〇〇圓 民會臨時傭人手當

一〇、〇〇〇圓 雜費

四六一、五六〇圓 合計

右仰高裁

追テ八年度ニ於ケル救護ニ付テハ通常議會開會中ニ於ケ
ル滿洲ノ實情ヲ見極メ一方主管問題ヲ決定シタル上措置

スルコト致シ度シ

197 昭和7年8月9日 在ハルビン長岡總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

北満水害に乘じた掠奪等の厳禁につき広瀬師

団長布告について

ハルビン 8月9日前発
本省 8月9日後着

第七五八號

屢次往電ノ通當地ト長春トノ交通連絡杜絶以來既ニ一週間

ヲ超ヘ更ニ傳家甸浸水ノ爲人心漸ク動搖ノ兆アル一方不正

商人ニシテ物資來源杜絶ヲ奇貨トシ日用必需品ノ價格ヲ不當ニ釣上ケ又ハ買占、賣惜等ノ舉ニ出ツル者有リ依テ軍ニ

於テハ廣瀬師團長ハ臨時日滿警備總司令官トシテ八日

(一)此際掠奪ヲ爲シ反亂ヲ企ツル者ハ死刑ニ處ス

(二)暴利ヲ貪ル商人ハ其全財產ヲ沒收ス

(三)流言蜚語ヲ發スル者ハ嚴罰ニ處ス

等ノ各項ヲ舉ケタル支那文布告ヲ發シ本官モ八日附ヲ以テ在留民ニ對シ買占、賣惜等ヲ慎ム可キ旨諭告ヲ發スルコト

トセルカ南部線復舊ノ見込立タサル由ナルヲ以テ事態ノ如何ニ依リテハ更ニ此種ノ取締令ヲ發スル必要ヲ見ルニ至ル

卑見御参考迄

支、北平、哈爾賓、長春ニ轉電セリ

199 昭和7年8月21日 在プラゴヴェスチエンスク豊原領事館事務代理より
内田外務大臣宛

黒河近況に關し引揚げ者の談話について

機密公第八七號 (9月5日接受)

昭和七年八月二十一日

在プラゴヴェスチエンスク

領事代理 豊原 幸夫 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

黒河引揚民ノ談話報告ノ件

八月十五日及全十九日黒河ヨリ當地ヘ引揚ケ来リタル邦人等カ黒河ノ近況ニ関シ語リタルトコロヲ綜合スルニ左ノ如シ

一、屢報ノ如ク黒河ノ物資ハ日一日ト欠乏ノ度ヲ加へ現在ニ

テハ麥粉ハ勿論米、粟、大豆等生活必需品タル穀物ノ賣買ハ全ク行ハレス、從來販賣量ノ基準ヲ設ケテ同地商務

會ニ於テ分賣シ居タル食料品販賣モ今ヤ全ク停止セラレシ

可シ

198 昭和7年8月12日 在奉天森島總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

支、北平、奉天、長春へ轉電セリ
北満水害への義捐金募集につき意見具申

奉天 8月12日後発
本省 8月12日後着

第一一七五號

北満ノ水害ハ哈爾賓發電報ニテ御承知ノ通ノ處其被害ハ新聞所報滿洲國側發表ニ據レハ哈爾賓ノミニテ罹災民三十六萬溺死者二萬八千家屋ノ流失倒潰四千戸ニ上ル趣ニテ今や北満一帶ハ事變以來ノ動搖ト相俟チ疲弊ノ極ニアルカ如ク此ノ際日本政府ノ斡旋ニ依リ相當額ノ水害義捐金ヲ募集シ罹災民ノ救護ニ充ツルコト人道上並日滿關係上極メテ有意義ト思考セラル處昨年中支方面ノ水害義捐金ハ中國側ノ拒絶ニ依リ應募者ニ返還セル關係モアリ此ノ際右ヲ復活ノ上北満方面ニ振り向ケラルコト最モ機宜ニ適スルヤニ思考セラル

五、同地商務會ハ馬占山ノ戰死ヲ知ルヤ數回ニ亘り臨時總會

二 東北治安状況および居留民保護問題

ヲ開キ一日モ早ク全市民カ飢餓ニ頻シツ、アル黒河ノ現状ヲ打開セントメ是非共滿洲政府ニ信倚センコトヲ決議

シ之ヲ涂司令ニ勸メタル趣ナルカ涂ハ同地金鉱所有者

チューイボーギ周葆吉等ト共ニ頑強ニ右決議ニ反対シタルノミナラス

却テ盛ニ不良ナル農民馬賊ヲ傭入レ反滿洲國戰備ヲサヘ

整ヘ居レリト云フ、然レトモ兵士等ハ更ニ戰意無ク數ヶ

月ニ亘ル給料不拂ヲ不服トシ隊ヲ離レテ何レヘカ逃走シ

タル者多々アル由從ツテ涂カ今盛ニ集メツ、アリト云フ

馬賊兵モ多クハソノ補充ノ爲メニシテ現在兵数ハ多クト

モ五百ニ足ラサルヘク右軍隊ノ給與ハ前記風元公司周葆

吉ノ賊力ヲ以テ行ヒ居ルニ過キサル趣ナリ

右何等御参考迄報告申進ス

200 昭和7年8月27日 在吉林森岡總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

匪賊側との身代金交渉開始方意見具申

付記一 八月二十七日発在吉林森岡總領事代理より内
田外務大臣宛電報要旨

派遣ハ不可能ナルノミナラス護路軍ノ如キモ吉海、吉長、
吉敦、東支南部線全部ヲ合シテ僅カニ三箇大隊ニ過キサル

爲到底積極行動ノ餘裕ナク結局平和手段ニ依リ現地解決ヲ
遂クルノ外ナシト存スルニ付在盤石朱旅長及關係地方官宛
日本警察官ノ救出ニ關シ充分援助スル様電訓スヘシト申述
ヘタルカ從來ノ經驗ニ依ルモ人質ノ救出ニ軍隊ヲ派遣スル
コトハ單ニ氣休メニ止マリ何等ノ效果ナキニ鑑ミ今回モ有
ユル聯絡方法ヲ講シテ土匪ニ渡リヲ着ケ身代金ヲ與ヘテ救
出ヲ計ルコトト致度ク金額ニ關シテハ追テ電票スヘキモ豫
メ御承認置キヲ請フ

尙人質救出手配方ニ關シ田島警部其他警察官六名ヲ獨立守
備隊第五大隊一行ニ加ヘ二十七日盤石ニ派遺スルニ付御追
認アリ度シ

奉天、長春、鐵嶺へ轉電セリ

(付記一)

吉林省 8月27日発

昭和七年八月二十七日在吉林森岡總領事代理發内田外務大臣

吉海線磐石北方での匪賊による高澤巡査ほか

列車乗客拉致事件発生について

二 八月三十日発在吉林森岡總領事代理より内田

外務大臣宛電報要旨

右事件に關し匪賊側要求について

吉林 8月27日後発 本省 8月28日前着

第三九三號

往電第三九一號ニ關シ

盤石駐屯我騎兵隊ハ一部ヲ即刻キヨウバクボーニ派遣シタ
ル趣ナルカ詳細ノ事情ハ今尙報告ナキモ盤石駐屯滿洲國
(一語脱)長及盤石商務會長モ外ノ乗客ト共二人質トナリタ
ル確報アリテ吉林省當局ニ於テモ相當事件ヲ重大視セルニ
依リ本官吉警備司令ヲ訪問シ我警察官ノ救出方ニ關シ當方
面ヨリ滿洲國軍ノ出動ヲ求メタル處吉ハ同人ノ部下ハ騎兵
三千弱ニシテ何レモ長嶺、農安、扶餘方面ノ匪賊討伐ニ從
事シ又吉長鐵路警備ノ爲新タニ其指揮下ニ屬シタル張海鵬
ノ騎兵五千モ未タ全部ノ到着ヲ見サル爲吉長沿線ノ重要都
市スラ危險ヲ感スル狀態ナルヲ以テ特ニ本件ニ關シ軍隊ノ

臣宛電報要旨

二十七日午後二時二十分吉海鐵路局電話ニ依ル磐石分署長
報告ニ依レバ本朝午前九時磐石發ノ蕎麥楞驛ニ到着ト同時
ニ頭目占北源ノ率キル匪賊百五十名來襲シ乘客高澤巡査元
巡査磐石在留民米山某ノ外第五旅王副官磐石商務會長以下
滿洲國人男子十五名ヲ拉致退却シ現場ノ東方約十支里ノ槐
車山ニ引揚ゲタリト
匪賊ハ武器及金品五萬元ヲ掠奪セル外身代金ノ要求ヲ目的
トスルモノノ如ク目下分署ヨリ近廣警部補巡查五名ヲ率キ
キ對策考究中ナルガ磐石駐在滿洲國護路軍二百名モ急報ニ
依リ現場ニ出動セリ尙右兩巡査ハ吉林へ出張ノ途ニアリタ
ルモノナリ

(付記二)

吉林省 8月30日発

昭和七年八月三十日在吉林森岡總領事代理發内田外務大臣

二 東北治安状況および居留民保護問題

八月二十九日歸任セル田島警部報告ニ依レバ匪賊ハ身代金要求ノ使者トシテ元巡査ヲ一十八日釋放シ日本人三名ノ釋放ニ對シ現金一千五百圓、「モーゼル」拳銃六挺、附屬弾丸千二百發此價格約九百圓、鐵側時計六個此ノ價格約六十圓、金指輪十個此ノ價格約百五十圓、服十着此ノ價格約三百五十圓、阿片二十兩此ノ價格約一百圓、冰砂糖一貫目及煙草此ノ價格三十圓ノ金品ヲ揃ヘ九月一日迄ニ提供方要求セル

處前記諸物品外現金四千五百元ヲ強要シタルモ王副官(巧ニ賊ヲ瞞キ^(ニカ)八十八日元巡査ト共ニ釋放セラレタリ)ノ熱心ナル斡旋ニ依リ漸ク千五百圓ニ值切リタルモノニシテ以上交渉ノ餘地ナキ趣ニ付右金品ヲ提供シテ高澤等ヲ引取ル事ト致シ度尤モ館長トシテ拳銃ヲ交付スルコトハ出來ザルニ付成ルベク拳銃丈ハ之ニ相當スル現金又ハ代品ヲ交付スルコト致シ度キモ相手ガ相手ニテ此點ニ最モ重キヲ置クヲ以テ昨年鄭家屯奥地ニ於ケル大倉組店員ノ場合ト同様結局然ルベキ仲介人ノ名義ヲ以テ之ヲ支給セザルヲ得ザルニ至ルベキカト存ゼラル

右ニ關シ前記金品計三千百九十圓及運動費約二百圓ト見積リ合計三千三百九十圓ノ高至急支出方特ニ御配慮ヲ請フ尙

米山ニ對スル分ハ本來本省ヨリ支出スペキ筋合ニアラザルモ同人ハ無資力ナルト共ニ高澤巡査ト不可分ノ關係ニアルヲ以テ全部一括シテ御詮議アリ度シ

編注 九月一日本省より三千三百九十円が送付された。

~~~~~

201 昭和7年8月31日 内田外務大臣より 在米國出淵大使(在仏國長岡大使)宛(電報)

**日本軍の熱河進攻は逆に張学良の地位を安定させるとの商談内話について**

本省 8月31日發 合第一七六五號 往電合第一七四八號ニ關シ

八月二十九日商震カ北平ニ於テ須磨書記官ニナセル内話左ノ通 朝陽方面ニ於ケル日本軍ト熱河軍トノ衝突ハ當方面ニ多大ノ反響ヲ與ヘ學良部下ハ之ヲ道具トシテ大袈裟ニ宣傳シ南方ヲ威嚇シアワヨクハ學良ノ下野外遊ヲ阻止セントシ居レリ依テ日本軍カ此際性急ニ熱河ノ手入ヲナスハ却テ學良ノ

地位ヲ安固ナラシムヘキカ故ニ日本ノ爲トナラサル所ナルニ付右ニ對シテハ武力ヲ避ケ飽迄モ政治的手段ニ依リ除々<sup>(徐カ)</sup>ニ解決ヲ圖ルヲ得策トナス

佛ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及巴里並ニ壽府聯盟ニ轉報アリタシ タシ

米ヨリ紐育、桑港、市俄古ニ轉報アリタシ

202 昭和7年8月31日 在長春田中總領事代理より 内田外務大臣宛(電報)

熱河における張學良軍の行動に対する滿州國抗議電報案に関し閔東軍意向回示方同國政府

より依頼について

別電一 八月三十一日發在長春田中總領事代理より内

田外務大臣宛第五五六号

張學良宛抗議電報案

二 八月三十一日發在長春田中總領事代理より内

田外務大臣宛第五五七号

羅文幹中國外交部長宛抗議電報案

(別電一)

長春 8月31日後發 本省 9月1日前着

第五五六號(極秘)

本官發全權宛電報

第一一號

貴下カ會テ貴下ノ政令ニ服シタル三千萬民衆ノ甚大ナル迷惑ヲモ顧ス我國治安ノ攪亂ニ沒頭シ居ルハ支那ト滿洲國ト

## 二 東北治安状況および居留民保護問題

ノ親善上遺憾ノ極ニシテ右ノ見地ヨリ左ノ如ク南京政府ニ  
電報シ置キタルニ付右了承相成度シ  
(以下羅文幹宛電報案)

### (別電二)

長春 8月31日後発  
本省 9月1日前着

本官發全權宛電報  
第五五七號(極秘)

第一二號

今ヤ滿洲國ノ諸政頓ニ整ヒ國內概々靜謐ニ歸シ三千萬民衆  
ノ慶福厚利日ニ増加シツツアル折柄熱河ノ一部ノミハ貴國

平津地方ニ蟠居スル舊東北軍閥ノ餘孽ノ指嗾ニ依リ不逞分子  
蠢動シテ治安ヲ攬亂シ頻リニ良民ヲ苦メ居ルノミナラス

右軍閥ハ猛惡ナル匪賊ヲ操縱シ恣ニ我境域タル熱河ヲ策源  
地トシテ頻リニ奉天省内ヲ攬亂シ目下高梁繁茂期ニ於テ特  
ニ甚シキニ鑑ミ最早一刻モ躊躇ヲ許サス不日是等不逞分子

ヲ徹底的ニ一掃スヘク適宜ノ措置ニ出ツヘク決意シ居ル次  
第ナルカ貴國政府ニ於テ若シ北支軍閥ノ我國內ニ於ケル不

軌ノ行動ヲ黙過セラルニ於テハ今後我方ノ斷乎タル措置  
ノ結果如何ナル事態ヲ發生スルモ右ハ貴國ノ責任ナルコト  
ヲ指摘セント欲ス

### 203 昭和7年9月2日 在長春田中總領事代理より 内田外務大臣宛(電報)

熱河における張學良軍の行動に対する抗議電  
報の発出および内外への公表について

長春 9月2日後発  
本省 9月2日前着

本官發全權宛電報  
第五六〇號

外交部ハ原案ノ通り一日午後九時羅外交部長及張學良ニ電  
報シ同時ニ右抗議文ヲ内外ニ公表セリ

全權ヨリ奉天ニ轉報アリ度シ  
大臣へ轉電セリ

往電第一〇號ニ關シ  
第一五號

滿州奥地出張警察官の引揚げは収穫期終了後  
にされた旨要請

204 昭和7年9月2日 宇垣(一成)朝鮮總督より  
内田外務大臣宛(電報)  
滿州奥地出張警察官の引揚げは収穫期終了後  
にされた旨要請

京城 9月2日後発  
本省 9月2日前着

### 第五五號

本使發長春及鐵嶺宛電報

### 第一八號

長春總領事管内赫爾蘇及鐵嶺領事館管内白旗塞、大甸子ニ  
於ケル鮮農保護ノ爲今春來出張セシ警察官ハ今回俄ニ引揚  
ケタル爲鮮農ハ不安ノ念ニ驅ラレ鐵道沿線ニ避難シタル者  
既ニ四百五十餘名ニ及ヒ尙新民府、本溪湖、遼陽方面ニ於  
テモ奥地警察官引揚ノ爲各地共避難鮮人簇出セントスル狀  
勢ニ在リ之力爲在滿朝鮮人ニ少ナカラサル衝動ヲ與ヘ延テ  
鮮内統治ニ反響スル所多大ナルモノアルヲ豫想セラル依テ  
鮮農保護ノ奥地警察官ハ今秋收穫期終了迄現状ヲ維持セラ  
ル様特ニ御高配煩ハシタシ

現ニ警察官ノ駐在シ居ラサル奥地ニ營農中ノ鮮農ニシテ被  
害ノ爲農作物ヲ放棄シ避難中ノ者多數アリト認メラル處  
此等ヲ其儘放置スルトキハ農耕資金ノ斡旋其他本春以來ノ  
關係各方面ノ努力モ水泡ニ歸スルノミナラス延テハ此等鮮  
農ニ對シ來春迄救護ノ必要ヲ生スヘキヲ以テ此ノ際適當時  
期ニ相當數ノ警察官保護ノ下ニ鮮農ヲシテ最短期間内ニ作  
物ヲ刈取り搬出セシムルノ外ナキヤニ存セラル收穫期モ切  
迫シ居ルコトニモアリ此ノ際至急關東廳側ト具体的ニ打合  
セヲ遂ケタキ意向ニ付貴管内ニ於テ本件出張ヲ必要トスル  
地名最寄警察署ヨリノ距離出張ヲ必要トスル期間並人數等

奉天ニ轉報シ大臣へ轉電セリ

206 昭和7年9月9日 在間島龍山(靖次郎)總領事代理より  
在滿州國武藤大使宛

自衛團への貸与を目的とする公館予備銃器に

閑し陸軍省よりの移管取計い方稟請

\* 昭和七年九月九日附在間島龍山總領事代理發信武藤滿洲國  
派遣大使宛稟請要旨

間島地方自衛團二貸與銃器備附ニ關スル件

間島地方ニ行動スル匪賊ニ對シテハ間島臨時派遣隊ニ於テ  
著々剿討ノ實ヲ舉ゲラレツツアルモ直接在住民保護ノ任務  
ニ當ルベキ滿洲國警察機關ノ配備充實セザルニ加ヘ同警察

官ノ素質不良ニシテ殆ド警察機能ノ發揮ヲ缺キ爲ニ草賊及  
共匪ハ各地方ニ出沒シ良民ヲ脅シ財物ヲ掠奪スル者絶エズ

其ノ堵ニ安ズル能ハザルノ情態ニシテ今猶總領事館及領事  
分館所在地ニ避難中ノ要救護者二千五百名ニ上リ居レルニ

顧ミ間島臨時派遣隊長、間島陸軍特務機關長及滿洲國側官  
憲ト協議ノ上別紙(省略)寫ノ如キ自衛團規則ヲ定メ團員ノ訓練及

被服費トシテ本省ヨリ一萬五百圓ノ補助ヲ受ケ既ニ十二箇

207 昭和7年9月10日 在ハルビン長岡總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

朝鮮人避難民のための集團的農場設置に関する意見具申

ハルビン 9月10日前発  
本 省 9月10日後着

第八六七號

本官發駐滿全權宛電報第一〇號

在滿朝鮮人救濟ニ付問題ハ各地トモ可成リ厄介ナル情勢ニ  
立到リ居ルモノノ如キ處當管内ニ於テ何等カノ方法ニ依リ  
救濟ヲ要スル鮮人ハ大體

(一)客秋事變以來當地又ハ附近都市ニ避難シ來リ當館ノ手ニ  
テ收容救濟セラレタル上農耕資金ノ給與又ハ融通ヲ受ケ  
夫々農耕ニ就キタルモ今次ノ水災被害ニ依リ收穫ヲ得ル能  
ハサル爲更ニ救濟ヲ要スル狀態ニ陥リタル者五一四戸、二  
三二五名

(二)前項同様ノ避難者ニシテ農耕ノ時期ヲ失シ引續キ現在迄  
收容救濟シ來リタル者並ニ今次ノ水害ニ依リ生活ノ途ヲ失  
ヒ救濟ヲ要スルニ至リタル者約九百四十一戸、三千九百六  
十名ノ二種有リ之等ノ大部分ハ農業以外何等ノ技倆ヲ有セ  
サルヲ以テ何レモ明春ノ耕作時期迄喰繋カシムル外無ク夫  
レ丈ニテモ相當考慮ヲ要スル儀ナルカ(既ニ御配慮ヲ得居  
ル事ト存ス)明春ニ至リ支障無ク農地ニ就カシメ得ル様措  
置スル必要有ル事ハ更ニ事態ニ重大性ヲ加フルモノニシテ  
此際適當ナル方策ヲ考究シ以テ來年再ヒ罹災者ヲ徒食セシ

メサル様準備ヲ爲ス事極メテ肝要ナリ

而シテ右ノ内(一)ノ水害罹災者ハ今年既ニ耕作ヲ試ミタル次  
第ニモアリ明春ハ幾分ノ資金ヲ與フル事ニ依リ原地ニ於テ  
就農セシメ得ヘキヲ以テ右資金ヲ調達シ遣ル(今回各地ニ  
於テ募集セラレ居ル義捐金ヲ之ニ當ツル事モ一策ト存ス)  
タケニテ大體事足ルヘシト雖(一)ノ鮮人ニアリテハ適當ナル  
土地ヲ選定入手シタル上ニテ之カ嵌込ヲ爲ス要アル處普通  
手續ニ依リ其ノ土地ノ所有者ト談合ヲ付ケ買入又ハ小作ノ  
契約ヲ締結シタル後初メテ取掛ル事トスルニ於テハ手數繁  
雜ナルノミナラス多數鮮農ノ耕作ニハ勢ヒ未耕地開墾ノ方  
法ニ依ラサルヲ得ス之ニハ今年中ニ於テ水道開鑿其ノ他ノ  
準備作業ヲ爲シ置ク必要アリ時期ヲ爭フ問題ナルヲ以テ結  
局不成功ニ終ル虞アリ依テ卑見ニ依レハ右(一)ノ者ノ爲ニハ  
若シ出來得レハ左ノ如キ非常的手段ニ依リ鮮人ノ集團的農  
場設置ヲ强行スル事最機宜ニ適スト認メラル

一、先ツ相當收容力アル土地(一箇所若ハ數箇所トシ成ルヘ  
ク數少キヲ可トス)ヲ選定シ官有地タルト民有地タルト  
ヲ問ハス其ノ區域内ニ於ケル土地全部ヲ鮮農ヲシテ一齊  
ニ占據セシメ今秋中ニ必要ナル準備作業ヲ了シ明春耕作

所ノ自衛團ヲ組織シ必要ニ應ジ間島地方我警察機關備附ノ  
銃器ヲ一時貸與シ住民ノ自衛上顯著ナル効果ヲ舉ゲツツ  
アルニ依リ今後更ニ主要部落約五十箇所ニ自衛團ヲ組織セ  
シメ在留民ノ生命財產保護ニ遺憾ナキヲ期シ度處間島ノ現  
状ニ於テハ自衛團ニ對シ銃器ノ貸與ヲ必要トル次第付  
當館及同分館ニ豫備銃器トシテ歩兵銃千挺(古品)同寶包十  
萬發ヲ陸軍省ヨリ無償ニテ保管轉換相成様御取計相仰度間  
島陸軍特務機關長ト協議ヲ遂ゲ茲ニ稟請ス

追テ本件ノ銃器貸與ハ勤務ノ履行確實ニシテ訓練成績優  
秀ナル自衛團ニ限り又貸與後ニ於テ派遣隊警察機關及滿  
洲國軍警機關ニ於テ充分ナル監督可致ニ付御承知相成度  
シ

二辨(便カ)  
セシム

二、然ル後官有地ハ満洲國側ヲシテ無償拂下ノ手續ヲ取ラシ

メ民有地ニ對シテハ相當額ノ代償ヲ支拂フカ若ハ満洲國

側ヲシテ他ノ土地ヲ之ニ提供セシム

上述ノ非常方法ハ民有地ノ所有者住民等ノ不平ヲ招クコトアルヘシト雖モ土地ノ選定ニ注意シ且満洲國主腦部ニ於テ理解シ居ルニ於テハ左迄困難ナル事態ヲ惹起スルコト無カルヘキノミナラス從來樹テラレタル集團農場計畫ニ於テハ多額ノ土地買收費ヲ計上シ居ルニ反シ其ノ費用モ或程度二打切り得ル等ノ便アル次第ニテ又土地選定ノ上ハ即時實行ニ着手シ得ルノ利益アリ

尙又治安維持ノ未タ充分ナラサル現狀ニ顧ミ右集團的農場

ニハ何等力適當ナル形式方法ニ依リ相當ノ警備力ヲ具備セシムルヲ要スル處本件農場設置ヲ實行スルトシ準備ノ爲必要ナル事項トシテハ大体左ノ如キモノアリ

一、満洲國側トノ諒解取付ケ

二、土地ノ選定(一戸當り三耕地トシ計)一、八四一耕地ノ面積

ヲ要ス場所ハ呼海沿線ヲ適當トスルヤニ思考スルモ實地ノ檢分決定ヲ要スヘシ)

三、費用(土地入手ニ關スル分ヲ除キ食糧、農具、耕地料、住居、種籽等一戸當り一〇〇圓トシ九萬四千七百圓)ノ調達  
四、警備並ニ監督方法(自衛團的方法又ハ兵力若ハ警察力ニ依ル方法等考究ヲ要ス)ノ考究

就テハ以上各點ニ付御詮議ノ上何分ノ儀早目ニ決定相成ルヲ得ハ鮮人救護上極メテ結構ナリト存ス

尙前段(一)ノ現地ニテ耕作スル鮮人ニ對スル救濟方(一戸當

リ六〇圓トシ計三〇、八四〇圓ヲ要ス)ニ付テモ併セテ御考慮仰キ度シ

大臣、朝鮮總督ヘ轉電セリ

大臣、朝鮮總督ヘ轉電セリ

208 昭和7年9月12日 在ハルビン長岡總領事代理より 内田外務大臣宛(電報)

ハルビン治安状況に関するAP記者の談話について ハルビン 9月12日後発

第八八五號 本省 9月12日後発

第八八五號 本官發駐滿全權宛電報

第二二二號 第二二二號

一、往電第一六號ノ滙豐銀行支配人拉致事件ハ幸ヒ未遂ニ終リタルモ當方面在留外國人ニ對シ異常ノ「ショツク」ヲ與ヘタルカ其矢先同夜往電第一七號南部線南行列車襲撃事件アリ引續キ往電第二〇號ノ北行列車襲撃事件發生シ

且十一日朝ニハ東部線ニテモ列車ノ乘客約百名ノ拉致事件アリ前記南行列車ニハ米國人一名搭乗シ居リ携帶品全部ヲ掠奪セラレタル由ニテ目下滯哈中ナルA、Pノ有力

記者Millsハ十一日朝現場ニ急行實地ヲ視察シ來リタルヲ以テ最近當地ニ頻發スル匪徒ノ露人富豪射殺露人幼兒拉致事件等白人關係事件ト共ニ或ハ相當「センセーショナル」ニ報道セラルルヤモ知レス其結果ハ英米等ニ於テ

モ相當論議ノ種トナルニ至ルヘシトモ考ヘラルル次第十リ

209 昭和7年9月14日 在鐵嶺石塚領事代理より 内田外務大臣宛(電報)

貴電合第一八號ニ關シ 奥地收穫保護のための必要警察官數等につき

武藤大使宛回答について

鉄嶺 9月14日後発 本省 9月14日後着

第八五號 本官發駐滿全權宛電報第六號

一、右ニ關シ十一日夜宴席ニテ落合ヒタル Millsハ本官ニ對シ匪賊ハ減少セサルノミカ却テ増加シツツアリト語リタルヲ以テ本官ハ先年露國革命勃發當時當哈爾賓ノ治安著

シク亂レタルモ其後間モナク平常狀態ニ復歸シタリシ事例ヲ舉ケ新國家成立早々ノコトニモアリ當分此儘見送リテ經過ヲ見ル外ナカルヘシト說キタルニ同人ハ在滿日本

之力警備ノ爲巡査三十名巡捕十名ヲ派遺シ度シ最初八日間ハ白旗塞(鐵嶺ヲ去ル十七里四町)其ノ後ノ十四日間ハ下肥地(鐵嶺ヲ去ル十七里五町)ニ滯在スルモノトス

三、施家堡子(鐵嶺ヲ去ル十七里)ニ於ケル水田二一七天地沙陀子(鐵嶺ヲ去ル十里二十一町)八九餘天地ニ對シ前者ニハ警官三十名(巡査二十五名巡捕五名)後者ニハ巡査五名ヲ一週間夫々ノ地ニ滯在セシメ

其後ニ於テ第一項ト同數ノ警官ヲ開原縣清河流域ノ水田九八三天地ノ收穫準備ニ派遺シ度シ此ノ方面ノ労働能力四八四名ナルヲ以テ十五日間八裸樹(開原ヲ去ル十九里)

ニ滯在ノ要アリ

三、以上ノ外法庫縣下ニ二六天地康平縣下ニ二三九天地アリ金融組合ヨリノ貸附金二千二百圓アルモ兩地トモ匪賊ノ巣窟ナルト土地遠隔ナル爲放棄ノ外ナキモノト認ム

四、第一項第二項記載ノ警察團ハ氣候ノ關係上同時ニ派遺シ度シ尙機關銃携帶ノ都合モアリ四十名以下ニ減員スルコトハ警察ヲ危地ニ陥ルル危險アリ

奉天ニ轉報アリタシ

ク且又食糧ノ補給ニ困難ヲ來スヤニモ察セラルニ付軍側ト打合セノ結果一兩日中前電ノ我騎兵部隊到着ノ上何トカ方法ヲ講シ居留民全部ヲ吉林ニ避難セシムルコトニ大體談合済尙軍側ノ希望ニ依リ盤石<sup>(磐石)</sup>へ警察官應援隊ノ派遣ハ一時中止セリ

奉天ヘ轉報アリタシ  
大臣、長春、朝鮮總督、哈爾賓、間島ヘ轉電セリ

**(付 記)**

\* 昭和七年九月二十五日附在盤石近廣分署長發信在吉林森岡總領事宛報告要旨

兵匪ノ磐石襲撃件(事次)

一、九月十日午前一時宋國榮ヲ主力トスル約二千ノ兵匪同日午前四時ヨリ五時迄ノ間ニ磐石ヲ襲撃スベシトノ信ズベキ情報ヲ得タル爲騎兵第二聯隊殘留部隊(一小隊)及内鮮兩居留民會ニ通報スルト共ニ内地人ハ一ト先ヅ城内松本鐵一方、鮮人ハ避難民收容所、民會並ニ當所ニ收容避難セシムルベク手配シ一方急援ヲ求ムル爲楊縣長ト協議ノ上最モ信ズルニ足ル縣公署衛兵二名ヲ選抜双陽ニ急派シ

大臣へ轉電セリ

署長より在吉林森岡總領事代理宛報告要旨

匪賊による磐石襲撃事件について  
付 記 九月二十五日付在磐石近廣(秀)領事館警察分  
内田外務大臣宛(電報)

210 昭和7年9月14日 在吉林森岡總領事代理より

匪賊襲撃後の磐石の状況について

付 記 九月二十五日付在磐石近廣(秀)領事館警察分

匪賊による磐石襲撃事件について  
署長より在吉林森岡總領事代理宛報告要旨

匪賊による磐石襲撃事件について  
付 記 九月二十五日付在磐石近廣(秀)領事館警察分  
内田外務大臣宛(電報)

匪賊による磐石襲撃事件について  
付 記 九月二十五日付在磐石近廣(秀)領事館警察分  
内田外務大臣宛(電報)

匪賊による磐石襲撃事件について  
付 記 九月二十五日付在磐石近廣(秀)領事館警察分  
内田外務大臣宛(電報)

本官發駐滿全權宛電報

第四四五號  
往電第二〇號ニ關シ

偵察飛行機ノ歸報ニ依レハ盤石縣孔子廟即チ我騎兵部隊ノ營舍ヲ除キ他ハ兵燹ノ爲全滅セルト共ニ右營舍ニハ多數ノ鮮人避難シ居ルヲ見届ケタル趣ナル處在留邦人ハ警察官共三十三名及鮮人一千數百名ナルカ之等多數ノ邦人力引續キ我軍營舍ノ厄介ニナルコトハ第一軍事行動ニ支障ヲ來スヘ

吉林省公署竝ニ總領事館宛打電セシムルコトトセリ

二、午前五時半宋國榮ハ手兵三個連ニ大刀會匪約七十名及殿臣ノ部下四百ト共ニ縣城北及東門ヨリ入城シ先ヅ第五旅司令部ヲ占領シ赤旗及青天白日旗ヲ掲グ

三、匪賊ハ午前五時ヨリ城東門ニ放火シ縣公署ヲ裏ヨリ攻撃

次ニ東西兩門間各商店ノ掠奪ヲ開始セリ依テ松本方ノ内地人ヲ騎兵隊ニ移シ鮮人ハ出來得ル限り民會及騎兵隊ニ收容ス

四、匪賊ハ掠奪スルト共ニ我方ニ敵對行動ヲ開始セル爲騎兵隊ハ之ニ應戰シ當署員ハ署構内ニ在リテ防備ニ努メタルモ我方ノ兵力僅少其ノ他各種ノ事情ヨリ騎兵隊ト協力スルノ必要アリト認メタルヲ以テ午前八時署員一同ハ被難鮮人ヲ引連レ敵ノ重圍ヲ脱シ騎兵隊ニ引揚ゲ(重要書類、兵器、彈薬等完全ニ處置ス)タル上軍ト協力守備及攻撃竝ニ在留民ノ保護ノ任ニ當ル

五、賊ハ午前九時頃ヨリ我方(騎兵留守隊)ヲ完全ニ包圍シ猛烈ナル射撃ヲ開始シタルガ午前十時過頃及午後四時ノ二回ニ亘リ敵司令部ヨリ我方ニ對シ無條件ニテ武器、彈薬ノ全部ヲ提供スベシ若シ應ゼザルニ於テハ總攻擊ヲ斷行

二 東北治安状況および居留民保護問題

シ鑑殺ストノ申込アリ我方ハ之ヲ斷然拒絶シ協力一致敵襲ニ備ヘタリ

六、第五旅司令部員ハ豫メ宋ト聯絡アリシモノニテ王副官長以下全員舉ツテ敵ニ加擔シ進デ放火掠奪ヲ敢行セシガ楊縣長、范公安局長婁通譯等ハ縣政府後方ヨリ射擊サレタルニ對シ相當抵抗シタルモ遂ニ破レテ午前六時半頃縣城ヲ脱出シ吉林方面ニ避難セシモノノ如シ

七、晝夜兼行不眠不休ノ守備ニ任ジツツ籠城五日ヲ經タル十四日前八時、同日午前十一時、同日午後三時ノ三回ニ亘リ我飛機<sup>(行次カ)</sup>北方ヨリ飛來シ敵ノ集團ニ對シ爆擊ヲ敢行セシ結果敵ハ之ニ狼狽シ一部ハ午後四時過ヨリ東方及北方ニ退却ヲ開始スルニ至レリ

八、我飛機<sup>(行次カ)</sup>ノ來援ハ第二回目特使(鮮人決死隊三名ヲ十二日午後七時朝陽鎮ニ派シタルモノ)ノ任務完了ニ依ルモノナリ

九、磐石襲撃ニ參加シタル匪賊ノ種別人員等左ノ如シ

合計三、四七〇

| 宋國榮 | 匪數           | 摘要 |
|-----|--------------|----|
| 三〇〇 | 先頭部隊トシテ十月朝入城 |    |

一〇、事件突發以前ヨリ各地共通信機關全ク杜絕シ聯結ノ方法皆無トナリタルヲ以テ十日双陽ヘ支那人二名、十一日朝陽鎮ヘ支那人二名、十二日朝陽鎮ヘ鮮人三名、十四日煙筒山及吉林ヘ支那人二名ヲ各々特使トシテ暗夜ニ乗ジ敵ノ重圍ヲ脱出セシメ急派シタリ(十二日朝陽鎮ヘ派シタル鮮人三名成功聯絡シ得タリ)

一一、軍側ノ戰死傷

戰死 砲兵上等兵 一 騎兵曹長 二

負傷 將校 二 下士 二

但シ砲兵上等兵及馬一頭ハ殘留部隊ナルモ其ノ他ハ急援部隊ニシテ十五日夜入城三際シ敵ノ射擊ヲ受ケタルモノ

領事館員及在留日本人ノ死傷ナシ

鮮人ノ死傷(現在判明セルモノ)

被殺害男 一〇一 女 九六

被傷害同 一二 女 一

生死不明者 同 一四 同 一三

滿人側ノ死傷

農商氏<sup>(民カ)</sup>死者一八〇  
牛馬ノ死傷四〇〇  
匪賊ノ死傷三〇〇  
死者約三五〇  
負傷三〇〇  
乘馬死五〇

一、財產上ノ損害見積  
イ、現金 約七十萬元  
ロ、商品 約百五十萬元  
ハ、家財 約五百萬元  
二、燒失家屋  
城内二三〇戸 約五十萬元  
城外一六〇戸 約五十萬元  
計七百七十萬元

追テ内鮮人ノ掠奪其ノ他ノ被害ハ各人ヨリ申告書ヲ徵スル筈ナルモ未ダ纏ラザルヲ以テ詳細判明セズ  
三、當署八十一日迫撃砲二發、手榴彈一發小銃弾無數ヲ受ケ居タルガ十四日午後七時頃放火サレ燒失乘馬四頭ノ外諸器具、物品、署員私財ノ大部分ハ掠奪及燒失シ自動車ハ

| 中      | 英     | 好     | 天   | 老   | 二   | 哥  | 合   |
|--------|-------|-------|-----|-----|-----|----|-----|
| 第五旅衛兵  | 鐵道守備隊 | 第五旅衛兵 | 大刀會 | 東邊  | 江   | 好  | 一〇〇 |
| 大刀會    | 占北    | 占上    | 占中  | 占金  | 仁忠  | 義厚 | 四五〇 |
| 保衛隊    | 占原    | 占山    | 占龍  | 東   | 邊   | 好  | 二〇〇 |
| 大刀會    | 好好    | 好好    | 河   | 一〇〇 | 一〇〇 | 同  | 七〇  |
| 其ノ他無賴漢 | 一二〇〇  | 一二〇〇  | 六〇  | 一五〇 | 一〇〇 | 同  | 同   |
|        | 二五〇   | 二五〇   | 一四〇 | 同   | 同   | 同  | 同   |
|        | 七〇〇   | 七〇〇   | 同   | 同   | 同   | 同  | 同   |

|          |        |      |
|----------|--------|------|
| 十一日ヨリ反亂ス | 十二日來襲ス | 漸次增加 |
| 一二〇〇     | 一二〇〇   | 同    |
| 五〇       | 一四〇    | 同    |
| 二〇〇      | 六〇     | 同    |
| 一〇〇      | 同      | 同    |

|              |       |     |
|--------------|-------|-----|
| 殿臣配下ニシテ十一日入城 | 十日朝入城 | 同   |
| 老二哥          | 二〇〇   | 一〇〇 |
| 大刀會          | 七〇    | 同   |
| 第五旅衛兵        | 同     | 同   |
| 鐵道守備隊        | 同     | 同   |
| 第五旅衛兵        | 同     | 同   |
| 大刀會          | 同     | 同   |
| 老二哥          | 同     | 同   |
| 中            | 英     | 好   |
| 天            | 老     | 二   |
| 英            | 二     | 哥   |
| 好            | 同     | 同   |

十數發ノ小銃弾ヲ受ケタルモ短距離ノ運轉ニ差支ナシ

四、應援騎兵隊ハ十六日午前一時頃大南門ヨリ入城セシガ之ヲ察知シタル敵ハ逸早ク縣城ヲ脱出十六日以後ハ城内ニ賊影ヲ見ザリシモ滿洲國側官憲ハ一名モ無ク商民亦何レヘカ避難シ全ク市中ニハ人影ナカリキ

五、十六日以後ハ大南門ノミヲ晝間開放シ當署員之ヲ看守城内ノ治安維持ニ當り居レリ避難中ノ商民漸次歸來スルモ城外ハ毎夜ノ如ク小部隊ノ匪賊横行シ掠奪ノ上人質ヲ拉致ス

六、宋國榮再襲來ノ風説盛ナルモ現在平穩ナリ

七、商店ハ何レモ何等ノ商品ナク鐵道ノ開通ヲ見ザル限り復興ノ見込ナク漸次食糧ノ缺乏ヲ來シ日滿鮮人ヲ通ジ日毎ニ不安ヲ増スノミニテ何等對策ナシ

211 昭和7年9月16日 在ハルビン長岡總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

水害被災者も避難民として救済方意見具申

ハルビン 9月16日後発  
本省 9月16日後着

第九一二號

事變ニ依ル避難鮮人(一)及今次水害ニ依ル罹災鮮人(二)カ共ニ一併水災非常委員會ヨリ食料ノ給與ヲ得ル次第ハ大臣宛往電第七九〇號報告ノ通りナル處其ノ後一般罹災者ニ對スル應急的救護モ一段落トナリタルヲ以テ同委員會日本側首腦者ニ於テハ右鮮人救護ヲ此ノ儘永ク繼續スルコトハ滿洲國側ノ思惑如何モ氣遣ハルル次第ニテ旁此ノ際早目ニ之ヲ分離シテ日本側ノ手ニ引渡スコトヲ得ハ萬般ノ都合良キ趣ニテ本官へ申出ツル所アリタルヲ以テ素々當館トシテハ

(一)ノ鮮人約八百名ハ從來ノ關係上何時ニテモ引受クヘキモ(二)ノ水害罹災者救護ニ付テハ未タ確タル決定ヲ爲シ居ラスト答ヘ置キタルカ右ノ(二)ノ罹災者約千八百人(今後被害地滯水シ食料缺乏スル場合ハ尙増加ヲ見込ミニモ其ノ大部分ハ今春一旦農地ニ歸還シ就耕セシメタル事變ニ依ル被害者カ適々今次ノ水害ニ依リ罹災者トナリタルモノナルヲ以テ卑見ニ依レハ彼等モ亦事變ニ依ル避難者ト看做シ當館ニ於テ救護ヲ爲スヲ妥當トスルヤニ思考セラル尤モ經費ノ關係其ノ他ノ點ヲ考慮シ内地並朝鮮ニテ募集中ノ水災義捐金ノ一部ヲ以テ之ニ充ツルコトモ亦一方法ナルヘク殊ニ朝鮮ニ

於ケル分ハ若シ罹災鮮人ノミヲ對象トシテ募集セラレ居ルモノナルニ於テハ當館ニテ之力送付ヲ得テ專ラ之等鮮人救

護發展ノ資金ニ使用スルヲ得ル次第ナルカ(此ノ場合ニハ其ノ一部ヲ水災非常委員會ニ寄贈スル要アルヘシ)其ノ邊

朝鮮總督府側トモ御打合ノ上此ノ際至急御決定相仰度ク尙

當地ニ於テ越冬ヲ要スル鮮人(一)及(二)含ムノ家屋ハ前記

委員會ニ於テ好意ヲ以テ用意シ吳ルル筈ナルモ右越冬人員

ハ武藤大使宛電報第一〇號卑見ノ集團的農場經營實行セラルル場合ニハ極メテ少數ニ止マリ得ル次第ナルニ付テハ右卑見ニ付テモ併セテ至急御考慮相煩度シ

本電宛先武藤大使(第三八號)、外務大臣(第九一二號)

朝鮮總督ニ轉電セリ

(欄外記入)  
早マリ過ノ考慮也

朝鮮ニテハ贊成セム

二 東北治安狀況および居留民保護問題

212 昭和7年9月17日

在吉林森岡總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

収穫のため朝鮮人農民に武器を供給し自衛団組織方意見具申

吉 林 9月17日後発  
本 省 9月18日前着

(欄外記入一) 第七五二號  
(四五二カ)

第  
二  
五  
號

本官發駐滿全權宛電報

(欄外記入二) 嘗館營內各地治安狀態不良ノ爲奥地鮮人ノ吉林敦化蛟河盤石等鐵道沿線ニ避難スル者其後益々增加シ現在數約一萬六百人ニ上リ内我政府ニ於テ救助ヲ爲シ居ル者約五千四百人ナルカ之等鮮農力暉春(今カ)奥地ニ於テ植付ケヲ爲シ昨今收穫期ニ達シタル糾ノ數量ハ約十萬石此價格六百萬圓ノ見込ナルカ匪賊横行ノ爲之ヲ收穫シ得サル趣ヲ以テ當館ヨリ歎願シ來レル處昨今ノ事態ニ鑑ミ小數ノ警官ヲ派遣スルモ保護ノ目的ヲ達シ得サルノミナラス却テ警官自体ニ對シ事件ヲ惹起スルコト疑ヒ無キヲ以テ過日不取敢滿洲國側官憲ニ對シ鮮人所有農作物ノ保護方ヲ申入レタル外其後收穫方法ニ關シ研究ノ結果滿洲國側軍警ノ保護ヲ求ムルカ又ハ鮮人ニ

247

二 東北治安状況および居留民保護問題

武器ヲ供給シ自衛團ヲ組織セシメテ收穫ヲ爲スノニ二案ヲ得タルモ前者ハ素質不良ニシテ信ヲ措キ難キヲ以テ結局後者ニ依ル外無カルヘシト云フニ歸着シ右腹案ニ基キ極秘(二)當地特務機關側ト打合ヲ試ミタルニ軍部トシテハ鮮人ニ武器ヲ供給スルコトハ過般間島ニ於ケル前例ニ鑑ミ大ニ考慮ヲ要スル事情有ルニ付情已ムヲ得サルトキ詮議スルコト致度ク兎ニ角目下張海鵬ノ騎兵部隊ヲシテ吉林附近ノ匪賊狩ヲ實行セシメ一面吉敦集中ノ匪賊懷柔ヲ爲ス豫定ニモアリ

(欄外記入三)  
差當リ参考トシテ鮮農農作物ノ所在地一覽表ヲ提供アリタシトノコトナリシヲ以テ至極尤モノ儀ト存シ一應右特務機關側ノ意見ニ從ヒ暫ク模様ヲ見ルコトセリ然ル處張海鵬軍ノ素質ハ來吉以來ノ行動ニ徵シ之ニ多クノ期待ヲ掛け得サルヘク軍部トシテモ其ノ邊ノ事情ハ夙ニ承知ノコトトテ一應順序トシテ之カ實行ヲ企テ居ル次第ナレハ右不成效<sup>(功力)</sup>ノ場合ニハ結局鮮人ニ武器ヲ供給スルノ外ナキヤニ察セラレ何レ此ノ點ニ關シテハ更ニ事態ノ推移ニ依リ時機ヲ逸セサル様特務機關側ト協議ヲ試ミル考ヘナル處若シ本年度ノ收穫全部不可能ニ終ラハ當館管内ノミニテモ此ノ冬ハ救助

213 昭和7年9月19日 在吉林森岡總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

今秋の収穫が不可能に終る時は冬期に農民の匪賊への投降統出のおそれについて

吉林省 9月19日後発 本省 9月19日後着

第四五九號 本官發駐滿全權宛電報 第二八號

往電第一五號ニ關聯シ農作物ノ收穫不可能ノ事情ハ單ニ鮮人ノミニ止マラス一般滿洲國農民モ全然同様ノ苦境ニ立テル趣ニテ十九日吉林航業公會々長趙虹軒(エイキチ)縣第七第八兩區(吉林省對岸一帶地方)農民ヲ代表シテ當館ヲ來訪シ縷々實狀ヲ述ヘタル上吉林省軍憲ニ歎願スルモ兵匪以上二期ハ向フ五日間位ニシテ此ノ時期ヲ過クレハ實落ノ爲收穫出來サル處之等農民保護ノ爲日本軍ノ出動ハ望マレマシキ

ヲ要スヘキ鮮人ノ數一万人ニ上ル見込ニシテ救助費一日一万五千ドルモ其ノ額實ニ十八万圓ニ達シ全滿ヲ通スル時ハ莫大ノ負擔ヲ見ルニ至ルヘク他方斯ル多數ノ鮮人カ久シキニ亘リ沿線都市ニ滯在スルハ甚夕面白カラサル次第ニテ右対策ニ付テハ貴方ニ於テモ御研究中トハ存スルモ爲念尙本官二三日中御挨拶旁出張ノ上親シク陳情ノ筈奉天へ轉報アリタシ

大臣、長春、哈爾賓、間島、朝鮮總督府へ轉電セリ

(欄外記入一)  
間島ヘ事實ノ有無電照ス 九月二十日

(欄外記入二)  
在滿鮮農及收穫物保護ノ問題ハ哈爾賓稟請ノ次第モアリ一括研究中

(欄外記入三)  
贊成セス  
間島ノ如ク警察ノ指導監督行届ケル場所ト同一ニ取扱ヒ得ス武器ヲ持タセタリトテ優勢ナル匪賊ヲ防クニ足ラサルハ想察ニ難カラス

214 昭和7年9月19日 在滿州國武藤大使より  
内田外務大臣宛(電報)

奉天へ轉報アリタシ  
外務大臣、長春、哈爾賓、間島、朝鮮總督へ轉電セリ

縷々實狀ヲ述ヘタル上吉林省軍憲ニ歎願スルモ兵匪以上二期ハ向フ五日間位ニシテ此ノ時期ヲ過クレハ實落ノ爲收穫出來サル處之等農民保護ノ爲日本軍ノ出動ハ望マレマシキ

本省 9月19日後着

第八六號 本官發朝鮮總督宛電報第一號

奥地營農中ノ鮮農ニシテ匪賊ノ爲農作物ヲ拋棄シ避難中ノ

斡旋其他本春以來ノ關係各方面ノ努力モ水泡ニ歸スルノミ

ナラス延テハ之等鮮農ニ對シ來春迄救護ノ必要ヲ生スヘキ

ヲ以テ此際適當時期ニ相當多數ノ警察官保護ノ下ニ鮮農ヲ

シテ最短期間内二作物ヲ刈取搬出セシムルノ外ナシト存ス  
本件ニ關シテハ近ク關東廳側ト具体的協議ノ筈ナルモ同廳

側トシテハ大体目下匪賊跳梁ノ際ノコトトテ高粱刈取後情

勢稍々平穩ニ歸スレハ兎ニ角匪賊ノ情勢減退セサル場合ハ

或ハ必要數ノ警察官ヲ割キ得サルヤモ知レストノ内意ヲ洩

ラシ居ル次第モアリ右様ノ場合ニハ貴府警察官二百名ヲ約

ルルニ付右豫メ御考慮ヲ願ヒタシ

大臣へ轉電セリ

215

昭和7年9月21日 内田外務大臣より

在滿州國武藤大使宛(電報)

收穫保護のための警察官派遣承認および旅費

支出について

本省 9月21日後5時6分発

第九九號(至急)

貴電第八四號ニ關シ

避難鮮農耕作物收穫期<sup>(種類)</sup>ニ際シ保護ノ為警察官派遣ハ已ムヲ  
得サルヲ以テ旅費金參万圓ヲ限度トシテ支出(支出方法ニ

付テハ別電)スヘキニ付右御含ミニニテ関東廳側ト協議セ

ラレ度具体案決定ノ上更ニ電報アリタシ

216 昭和7年9月27日 在間島瀧山總領事代理より  
在滿州國武藤大使宛

昭和七年九月二十七日附在間島瀧山總領事代理發信武藤滿洲國派遣大使宛報告要旨

間島協議會議事錄送付ノ件

間島協議會における自衛團の組織促進および

越軌行動防止に関する協議について

九月九日當館ニ於テ開催セラレタル間島協議會議事錄別紙ノ通

(別紙)

九月九日間島協議會議事錄

一、月日場所 昭和七年九月九日 間島總領事館

二、出席者

瀧山總領事代理 清野領事

井上特務機關長 児玉中佐

植野顧問 美根事務官

高籌備處長 長岡參謀

豐島中佐

三、自衛團組織ノ促進、自衛團ノ越軌行動防止ニ關スル件  
自衛團組織ノ促進ヲ圖リ且自衛團ヲシテ越軌ノ行動ナカ

ラシムル爲ニハ成シ得ル限り自衛團長若クハ副團長ヲ満

洲國人トシ團員ニモ成ルベク多ク満洲國人ヲ加ヘ必要ニ

應ジ公安隊又ハ外務省警察官ヲ派遣シテ指導セシメ且自

衛團ハ飽ク迄防衛ヲ主旨トシ積極的ニ攻撃又ハ討伐ヲ爲

スヲ許サズ止ムヲ得ズ積極的行動ヲ爲サザルベカラザル  
場合ニハ公安局又ハ外務省警察ノ認可ヲ受ケ其ノ指導ニ

五、間島ニ於ケル稅金徵集ノ件

間島ニ於ケル公安局保衛團ノ整備等行政ノ刷新ヲ圖ル爲  
ニハ稅金ノ徵收ヲ確實ナラシムルヲ要ス然ル處間島各縣

## 二 東北治安状況および居留民保護問題

- ノ田舎ニテハ匪賊横行シ且住民ニシテ納稅ヲ肯ゼザル者アルニ付收稅吏ニ必要ナル公安隊ヲ附シテ巡回徵稅セシムルヲ必要トスル旨井上特務機關長ヨリ提議セル處高籌備處長ヨリ縱令公安隊ヲ附スルモ鮮人が納稅ヲ肯ゼザル場合公安隊ハ鮮人ニ對シ強制力ナキ爲其ノ目的ヲ達セズトノ意見アリ依テ右收稅吏ニ公安隊ト共ニ外務省警察官ヲ同行セシムルコトニ就キテハ本官ニ於テ研究スルコトト爲レリ
- 217 昭和7年9月29日 在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)
- 東邊道の兵匪討伐計画について
- 奉天 9月29日後発  
本省 9月29日後着
- 第一二七六號(極秘)  
本官發駐滿全權宛電報
- 第一〇號
- 軍側ニテハ十月中旬前後滿洲國側ト協力ノ上東邊道一帶ニ於ケル兵匪ノ徹底的討伐並討伐後ニ於ケル善後措置ニ着手シ
- (一)朝陽鎮、清源、山城子、安東、本溪湖、撫順等瀋海、安奉兩線ノ重要地點ヨリ日本軍騎兵二個旅、步兵一個旅其ノ他ノ特科隊及滿洲軍六、七個大隊ヲ入レ東邊道一帶ヲ遠捲ニ包圍シ重要地點數個所ニ相當ノ部隊ヲ三週間乃至一ヶ月間駐屯セシメ(通化及桓仁ニハ日本ノ大部隊ヲ又新賓ニハ満洲軍ノ大部隊ヲ相當期間駐屯セシムヘク場合ニ依リ冬越ノコトトナルヘシ)其ノ間ニ於テ兵匪ノ徹底的討伐ヲ實行シ
- (二)討伐ト併行シ政治工作ヲ行ヒ治安ノ維持地方政治ノ刷新ヲ計ル爲縣長公安隊ノ外協和會員等ヲモ直ニ關係地方ニ送爾手筈トナリ居レリ  
尙當館ニテモ北山城子並當地ニ避難中ノ鮮人ヲ軍ノ出動後直ニ原地ニ歸還セシムルヲ適當ト認メ手配中ナリ  
本件ニ付テハ關係各方面トモ極秘ニ取扱方依頼アリ新聞記事ヲモ差止メ居ルニ付右御含ミ請フ
- 大臣、安東、吉林、海龍ニ轉電セリ
- 218 昭和7年10月10日 在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)
- 東邊道兵匪討伐実施を期し収容所閉鎖を關係機関協議により決定について
- 奉天 10月10日後発  
本省 10月10日後着
- 七六六人ニ對スル經費一三、七六六圓特別ノ御詮議ヲ以テ御支出相成度結果何分ノ儀御回電アリ度シ右全權部ト打合濟満ヘ轉報セリ
- 219 昭和7年10月11日 在間島永井總領事より  
内田外務大臣宛
- 農作物收穫保護対策につき管下分館分署へ示達について
- 機密第一一三五號  
(10月19日接受)
- 昭和七年十月十一日 在間島
- 外務大臣伯爵 内田 康哉殿  
農作物收穫期ニ於ケル對策ニ關スル件  
本件ニ關シ別紙寫ノ通管下各分館分署へ示達スルト共ニ間島派遣隊長、間島陸軍特務機關長、各縣補佐官、延吉籌備處長ニ對シ事情ノ許ス限り便宜供與方依頼シ置キタルニ付難ト思考セラルルニ依リ一人當リ一圓見當ヲ持參セシメ右ニテ差當リ救護ヲ打切ル事ト致度就テハ避難民合計一三、

本信送付先 在満全權大使 朝鮮總督府外事課長

度此段申進ス

(別紙)

機密合第一七九號

昭和七年十月十一日

在間島

總領事 永井 清

分館主任殿

本館署長殿

分署長殿

農作物收穫期ニ於ケル對策ニ關スル件

本件ニ關シ九月二十二日附機密合第一六一號拙信ニ對スル御回報ニ依レハ保護ヲ要スルモノ相當廣範圍ニ上ル模様ナル處現下ノ治安狀態ニ於テハ我方滿洲國側共右保護ノ爲一定計畫ノ下ニ警備力ヲ割クコトハ困難ノ事情アリ去リトテ收穫不能ナリシカ爲冬期ニ入り多數ノ窮民ヲ生シ救濟ヲ要スル如キ事態ヲ生スルニ於テハ之レカ措置ニ多大ノ困難ヲ來スコトトモ可相成ニ付此ノ際各分館、分署ニ於テ左記參照ノ上機宜ノ方法ニ依リ可成收穫ニ便宜ヲ與ヘラル様致

記

一、各分館、分署ニ於テ其ノ地方軍部、滿洲國側警備機關、自衛團ト提携シ出動ノ機會ヲ利用スル等ノ方法ニ依リ保護スルコト

二、各分館相互間ニ於テ事情ノ許ス範圍ニ於テ隣接相互間應援ヲ爲スコト本館ニ於テモ特ニ申出アリタル場合ハ事情ノ許ス限り繩合セ應援スヘシ

三、耕作者各自ニ自作地ノ收穫ヲ行ヒ且現地ニ於テ脱穀作業ヲ行フトキハ多クノ時日ヲ要スルヲ以テ附近住民ハ集團シテ共同收穫ヲ行ヒ且穂付ノ儘速ニ安全地帶ニ運搬スルコト

本信寫付先 各朝鮮人民會長

220 昭和7年10月12日 内田外務大臣より 沢田連盟事務局長、在米國出淵大使、在シンガポール田村(貞治郎)總領事宛(電報)

滿洲里、ハイラル等の居住邦人外部との交通  
遮断の状況について

付記 十一月十八日付在ノヴォシビルスク大谷(一)  
郎副領事より内田外務大臣宛報告要旨  
山崎領事の満州里事件顛末報告転達について  
本省 10月12日発

合第一九九八號

本大臣發露宛電報第三六號ニ關シ

一、其後モ在満洲里山崎領事ヨリ直接ノ電報ナキモ蘇聯政府ニ依頼シ在満洲里蘇聯領事等ヨリ入手セル情報ニ依レハ滿洲里、海拉爾等ハ反滿洲國軍ノ支配下ニ歸シ山崎領事外邦人居留民ハ日本領事館其他ニアリテ同軍ノ嚴重ナル監視ヲ受ケ外部トノ交通ヲ遮断セラレ居ルモ事變突發ノ際ノ數名ノ死者ノ外生命安全ナリトノコトナリ  
二、昂々溪ニハ九月二十七日我部隊入り同地附近ノ李海青匪約二千ハ我軍ノ爲ニ殲滅セラレタル爲同地ノ不安除去セラレタルカ九月末ヨリ富拉爾基ニ張殿九兵匪集結シ我軍ハ七日ヨリ九日ニ亘リ右匪賊ヲ討伐シ富拉爾基ハ我占領ニ歸セリ  
壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使ニ轉電アリタシ

(付記)  
昭和七年十一月十八日附「マチエフスカヤ」出張先副領事大谷一郎發信内田外務大臣宛報告要旨  
呼倫貝爾事變  
在滿洲里山崎領事ノ事變顛末報告(第一回)  
本件ニ關シ飛行機便ヲ以テ在滿武藤大使宛寫送付致置キタル處同大使ヨリ領收ノ旨回電ニ接シタルニ依リ同大使ヨリモ既ニ報告セラレタルコトト存ズルモ幸便ヲ利用シ茲ニ轉報ス

(別紙)  
一 滿洲里事件ノ經過竝ニ發端概況  
蘇炳文ハ滿洲事變發生以來不即不離ノ態度ヲ持シテ動カズ客年十一月齊々哈爾戰ノ際ニハ積極的ニ馬占山軍ヲ援助セザリシ爲馬ノ黑龍江省長復活後ハ兩者ノ關係更ニ阻隔セル感アリ次テ滿洲國成立後ハ蘇トシテハ自己ノ地位ヲ有利ニ展開セント焦リタルモ呼倫貝爾ノ一隅ニ在リテハ張學良一派トノ聯繫モ意ニ委セズ頻リニ使ヲ派シテ滿洲國政府及日本軍部ノ諒解運動ニ奔走シタルガ俄ニ好轉セザル折柄六月

下旬國境警察隊ノ來満ハ蘇及部下兵士ニ多大ノ衝動ヲ與ヘタルモノノ如ク而モ既報ノ如ク日本軍部再三ノ懲罰ニ拘ラズ蘇ハ病氣又ハ軍費不渡ニ依ル部下兵士ノ動搖或ハ治安維持等ニ藉口シテ省城出馬ニ應ゼザリシ爲軍部ノ憤懣ヲ買ヒタルガ一方馬占山ノ省城逃亡後從來哈滿護路副司令トシテ蘇ノ不平不滿ヲ一層高メタル折柄蘇ノ罷免說又ハ轉職問題等モ流布セラレ且七月末程志遠ノ免職ニ基ク若年ノ韓雲楷及趙文鑄ノ省長、警備司令新任及蘇ノ長タル哈滿護路司令部海拉爾市政籌備處呼倫貝爾警備司令及卡倫十九箇所ノ撤廢ハ益々蘇ノ感情ヲ刺戟スル所ナリ更ニ札蘭屯駐屯第一旅長張殿九ノ罷免問題ニ依ル張部下兵士ノ惡化ハ必然的ニ蘇炳文部下ニモ反響シ殊ニ國境警察隊ノ高壓的態度ハ之ニ拍車ヲ加ヘタルモノノ如ク又九月二十日宮崎、林兩少佐ノ海拉爾訪問ハ可ナリ蘇ヲ壓迫ノ態度ニ出デ十日以後ニ省城出馬ノ言質ヲ與ヘ一時ヲ糊塗シタル模様ナリ是ヨリ先本官海拉爾出張ノ際ニモ極度ノ壓迫アル場合ハ反抗スル部下ノ鎮撫不可能ナル旨王參謀長ヨリ漏シタル事實モアリ又九月二十二、三日頃蘇部下全部ノ團長連名ニテ給料ヲ支給セザリ

レバ部下ノ反亂ニ對シ責任ヲ負ハザルニ付至急發給アリ度キ旨打電セルモ省政府ハ前記十日後蘇ノ出省ヲ條件トシタルモノカ何等ノ回電ヲ與ヘズ折柄九月二十四日ノ高木留學生殺害事件發生ノ爲日本軍出動スルヤノ恐怖心モ加ハリ他面其ノ間張學良一派ノ策動ニ由ル李海青等ノ反滿洲國間ノ聯繫モアリ蘇トシテハ既報家族ノ關係等自己「ジレンマ」ノ結果遂ニ本件ノ勃發動因ノ進展ヲ見タルモノノ如ク殊ニ満洲里ニ於テハ對警察隊問題ヲ重大視シ海拉爾ヨリ極秘裡ニ約一營ノ兵ヲ増援シ十分ナル準備ヲ整ヘタル上九月二十七日本官及宇野隊長及小原大尉ノ來訪ヲ求メタルヲ以テ本官ハ福間書記生ヲ帶同シ一行四名前後シテ司令部ヲ訪問スルヤ當地護路軍副司令吳德林ハ先づ數隊ノ武裝兵士ヲ以テ威嚇シ警察隊ノ武裝解除ヲ強要シタルヲ以テ在留邦人保護ノ見地ヨリ萬已ムヲ得ズ之ニ應ジタリ

當日ハ一時警察隊トノ間ニ交戦アリ市内ハ全ク混亂狀態ニ陥リ警察隊關係容疑在留邦人十數名支那側ニ拘禁セラレ邦人家屋全部ハ掠奪ニ遭ヒ不幸邦人四名射殺セラレ二名ノ負傷者ヲ出シタルノ外人命ニ損傷ナカリキ當時本官一行領事館ヲ出デ司令部ニ向フヤ間モナク當館モ計畫的ニ周圍ノ伏

兵ヨリ數十發ノ銃彈ヲ打込マレ次デ保護ニ名ヲ藉リテ多數ノ武裝兵士ヲ以テ包圍監禁セラレタルガ全クノ不意打ニテ夕方迄營館收容邦人漸ク二十四名ヲ數アルニ過ギズ消息全ク不明焦慮中ナリシ處遇々支那兵ヨリ邦人家屋銃器検査ノ案内ヲ依頼セラレタルヲ奇貨トシ當館警察官ノ決死的行爲ニ依リ夜半迄ニ更ニ四十七名ノ邦人ヲ收容スルコトヲ得タリ

尤モ本件勃發後當地國境警備隊員及滿洲國諸機關關係露人ノ殆ド全部支那側ニ拘禁セラルル等其ノ裏面ニ蘇聯ノ策動アリト思惟セラルル點多々アルモ他面支那側ヨリ當地蘇聯領事館ニ對シ拘禁中ノ白系露人引渡方ヲ提起スルヤ同領事館ハ之ヲ拒絶セリトノ情報モアリ蘇聯ノ積極的蘇炳文援助問題ハ現下當方面ノ情勢ニモ照シ俄ニ信ヲ措キ難シ因ニ支那兵ハ九月二十七日當日ヨリ全部青天白日ノ帽章ニ替ヘ本月九日ヨリハ鐵血救國ノ文字ヲ入レタル赤黒兩色ノ腕章ヲ巻キ市内ハ各機關共九月二十九日ヨリ一齊ニ青天白日旗ヲ掲揚シ各所ニ日本帝國主義打倒滿洲爲國家推倒等ノ宣傳物多數貼附セラレタルガ市中極メテ寂寥長期間交通ノ杜絕ニ因ル物資ノ缺乏ハ既ニ九月初旬満洲里市中ニテ購入スペキ白米ナク一般食料品ハ素ヨリ日用嗜好品モ漸次拂底シ十月十日後ニハ酒、煙草皆無トナリ茲許食料品ニ就テ一

般商民ニ多大ノ關心ヲ與ヘツツアリ追テ十月十五日迄略ボ確實ト認メラルル死傷居住邦人及警察員及被拘禁居住邦人(警察隊員ヲ除ク)氏名左ノ如シニ對シ彈壓ノ擧ニ出デ海拉爾ハ邦人質商田上繁雄宅ニ全部收容拘禁セラレ札來諾爾ハ各自宅ニ拘禁セラレ居ル由ナリ

志水語(三十八歳)森ハマノ(三十三歳)森陽子(二歳)上原一被殺邦人

滿洲里以外ノ管内在留邦人ノ動靜ハ外部トノ連絡完全ニ杜絶セラレ電信電話ノ使用不可能ナリシ爲判明セザルガ當館出入士兵ノ情報ニ依レバ二十七日當日呼倫貝爾在留邦人全部ニ對シ彈壓ノ擧ニ出デ海拉爾ハ邦人質商田上繁雄宅ニ全部收容拘禁セラレ札來諾爾ハ各自宅ニ拘禁セラレ居ル由ナリ

恒孝(歐洲ヨリ歸國途中ノ滯在者門司鐵道局副參事三十五歳)

一、負傷邦人(輕傷)

入江辰夫、菊田東順

二、被殺警察隊員

高橋勇(二十四歳)大木俊次(二十六歳)大石菊次郎(二十歳)

一、負傷警察隊員

棚橋四郎(三十二歳)高橋清一(二十四歳)佐藤惣市(二十四歳)

二、被拘禁邦人

近松末廣(小原大尉使用人二十五歳)谷口正夫(十六歳)中川金三郎(四十五歳)森松美(二十歳)三浦龜忠(ツーリストビューロー)主任海關事務員三十六歳)川尻伊七(十八歳)鈴木正(二十歳)荒武藤隆(民政部警務司三十四、五歳)大山毅(黑龍江省警備司令部測量団員三十四、五歳)

一、行方不明邦人

松下義輔(四十六歳)  
警察隊側力高壓的ニ出デタル一例

シタルモノノ如ク小原ハ實行便宜上警察隊ノ援助ヲ得接收後ハ荷物検査ニ警察隊員數名ヲ派シ税關長ノ實務ノミ海關ヨリ「ツーリストビューロー」主任タル三浦龜忠ヲ臨時海關長ニ任命シタルガ外觀ハ警察隊ニテ海關事務ヲ接受セルガ如ク誤解セラル

三、郵便局接受ハ哈爾賓局ヨリ日華人各一名ヲ派シ接收セシメ小原大尉黒幕トシテ指導セシガ郵便物ノ検査其ノ他ニ關シ警察隊員數名ヲ派シ日々信書其ノ他郵便物ノ検査ヲ爲シ外觀ハ是亦警察隊ニテ行フガ如ク誤解セラレタル點多シ

右二、三共支那軍隊側ノ郵便物迄モ検査シタル如ク此間軍側ノ不滿アルモノノ如シ

四、支那警察署警務主任雑ガ收賄一件ヨリ警察隊ノ指圖ニテ拘禁セラレ取調中反國家運動者トシテ吳副司令鈕團長趙市長白護路警察署長及蘇聯領事等關係セルコトヲ自白シ之ガ釋放運動員ニ各要人連名セルコト

五、各處ヨリ各種職業者ヲ俄仕立ニ採用シタル警察隊員ハ充

分統制ニ困難ナリシト兵卒上リノ者ガ一躍百元内外ノ俸給生活ヲ爲シ隊員自身ガ支那兵警ニ對シ優越感ヲ持スル

佛代表「クローデル」獨代表「ジーネル」一行ヲ見送り來リタル滿洲國警務司洪外事課長ハ數日間汽車待合中九月十七日宇野隊長ト共ニ海拉爾ニ到リ王參謀長ト激論シ蘇炳文ノ下野ヲ迫リタルコトアリ其ノ大要ハ曩ニ蘇ノ長タル既報四署ノ復活ハ到底困難ナリ各地ノ軍隊モ早晚改編セラレ當地方モ亦必ズ其ノ運命ニアルモノニシテ之ニ代ルニ警察隊ヲ擴張スベシ若シ反抗セバ日軍ヲ以テ一擊ノ下ニ鎮壓スベケレバ速ニ蘇ハ長春ニ出デ下野ノ決心サヘスレバ家族竝ニ部下ノ生命ヲ全フスルコトニ極力盡力スペク今日要職運動ヲ爲ス如キハ到底成功ノ見込ナシト主張シ王參謀長ハ目下水災ノ爲交通不便ナルコト日軍ハ熱河ニ出デントシ各地ニ散在セルコト萬一ノ場合ニハ蘇聯ガ援助スルコト等ヲ主張シ物別レトナリタルコト確實ナリ

國境警察隊ガ蘇支兩方面ヨリ好感ヲ有セザル件

一、支那軍側ニテ軍費捻出ニ要スペク公許セル賭博場ニ徹宵博徒ノ往來セル關係上市中ニ竊盜事件頻發シテ新任滿洲國警察署長ハ警察隊ト連絡シ夜間十二時以後ノ開張阻止運動ヲ爲シタル結果收入ニ影響ヲ及ボシタルコト

二、海關接收ハ哈爾賓海關ヨリ策助援助方ヲ小原大尉ニ依頼等ニテ證明セラル

六、支那側ニテハ官民ノ別ナク警察隊員即チ日本軍ナル誤解アルコトハ其ノ大部分ガ兵隊上リナルコト、隊ノ組織及被服、生活振りガ總テ兵隊様式ナルコト等ニシテ警察トハ信ジ居ラザル模様ナリ

七、警察隊ガ任務上各種ノ嫌疑者取調ニ際シ相當苛酷ノ取扱ヲ爲シ市民一般ノ反感ヲ買ヒタルコト

八、大毎飛行機ニテ宇野隊長ガ蘇聯國境ヲ視察セルコト(以下省略)

221 昭和7年10月21日 在間島永井總領事より  
在滿州國武藤大使宛

自衛團組織が相當効果的である黃直の事例に  
ついて

昭和七年十月二十一日在間島永井總領事發信武藤滿洲特派大使宛報告要旨

黄直自衛團員ノ匪賊討伐ニ關スル件(十月十二日)

間島地方治安維持ノ補助トシテ各地ニ自衛團ヲ組織シ居レル狀況ハ既報ノ通りニシテ其ノ指導如何ニヨリテハ相當效果ノ見ルベキモノアリ現ニ和龍縣黃直鮮人自衛團ガ十月十

二日同縣上官地附近ニ於テ約四十名ノ武裝匪賊團ト交戦シ之ヲ擊退シタル狀況左記ノ通り

記

十月六日各自長銃又ハ拳銃ヲ携帶セル匪賊十四名和龍縣莊田洞ニ現ハレ同地住民ニ對シ十月十一日夜迄ニ金五百圓ヲ準備シ提供スベキ旨ヲ脅迫シタルニヨリ住民等ハ附近黃直自衛團ニ匪患ノ防衛方ヲ歎願シタルヲ以テ副團長韓昌燮以下十七名ハ十一日莊田洞ニ出動警戒中匪賊四十名ノ一團ガ同地南方約一里上官地附近三潛伏シ居ルヲ探知シ翌十二日同地ニ向ヒ前進途中午後零時頃約四十名ト遭遇交戦約四時間ニシテ賊ハ死體一、龜甲型爆彈一、銃劍一、拳銃彈十六其ノ他裝具類ヲ遺棄シテ南方森林地帶ニ逃走セリ此ノ戰闘ニ於テ自衛團員三名重輕傷ヲ受ケタルモ團員一同元氣旺盛ニシテ同地附近鮮滿人ハ今後ノ治安維持ニ關シ同自衛團ニ相當ノ期待ヲ持チツツアリト

昭和七年十月三十日在滿武藤大使發內田外務大臣宛電報要旨

通化分館再開につき詮議方稟請

付記 十月二十二日發内田外務大臣より在滿州國

武藤大使宛電報要旨

通化分館再開方承認につき回訓

新 京 10月30日

本 省 着

昭和七年十月三十日在滿武藤大使發內田外務大臣宛電報要旨

通化分館再開設ノ件

軍ノ東邊道匪賊討伐行動ニ同行シ通化地方ニ赴キ實情調査ノ上歸來セル興津副領事ノ意見ニ依レバ通化分館ノ再開設ハ各方面ヨリ見テ必要ナルト共ニ之ガ開設ノ爲ニハ少クトモ二個中隊位ノ兵力ヲ常駐セシメ治安ヲ確保スルコト絕對ニ必要ナリトノコトナルガ軍ニ於テモ匪賊再跋扈ヲ防止スルノ見地ヨリ通化ニ相當部隊ヲ半永久的ニ駐屯(外ニ新濱、桓仁、三源浦ニモ夫々若干兵力ヲ置ク)スル方針ナル趣ナル

二付此際早キニ臨ミ同分館ノ再開方御詮議相成度出來得レバ從來ノ關係モアリ興津副領事ヲシテ開設準備ニ當ラシムルコトニ御取計ヲ請フ

(付記)

本省 12月22日發

合第二〇七七號

223 昭和7年11月2日 内田外務大臣より  
在米國出淵大使 沢田連盟事務局長宛(電報)

往電合第一九九八號ニ關シ

満州里に抑留中の日本人婦人および子供百二

十一名ソ連領へ出発について

本省 11月2日發

通化分館開館ノ件左記ニ依リ承認ス

一、成ルベク至急開館スルコトトシ主任及館員ノ任命ハ不日發令スベシ

二、警察官ニ付テハ署長以下署員全部ノ人選ハ貴大使ニ一任スルニ付適任者ヲ選定ノ上命令一下直ニ赴任シ得ル様豫メ準備シ置キ決定ノ上ハ轉勤進認方裏請セラレ度シ

三、館、署員ノ赴任旅費以外開館ノ爲此ノ際經費ノ支出ヲ必要トスルモノアラバ申出アリ度シ

四、開館後ニ要スル諸般ノ經費ニ付テハ主任ノ稟請ヲ俟テ詮議スベシ

宣及援助ヲ與ヘラレ度旨十月二十七日申入レタル處蘇聯

政府ハ之ヲ承諾セルヲ以テ近ク右委員派遣ノ豫定ナリ

巴里ヨリ在歐大使及壽府聯盟ニ轉電アリタシ

~~~~~

224

昭和7年11月8日

在滿州國武藤大使より
内田外務大臣宛

満州各地における収穫保護の状況について

公普通第一一二二號 (11月16日接受)

昭和七年十一月八日

在滿帝國特派全權大使 武藤 信義 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

在滿鮮農民收穫保護三關スル件

本件ニ關シ十月二十日附公普通第八四號拙信ヲ以テ報告シ
置キタル處其ノ後ノ狀況別紙ノ通ニシテ一部地方ヲ除キ故
障ナク收穫及運搬ヲ爲シ居レルニ付御承知相成度此段報告
ス

本信寫送付先 在滿各總領事、領事、分館主任

朝鮮總督 關東長官

關東憲兵隊司令官

(一) 永吉縣第三區荒山屯方面鮮農收穫保護ノ爲派遣シタル
吉林總領事館警察官五十名同方面ノ收穫(八十二壙)ヲ
了シタルニ依リ十月十六日同縣第十區大屯地方鮮
農四十五戶(次ノ如き)人口二百六十名ノ收穫保護ノ爲同地ニ移
動シタルカ目下刈入順調二行ハレ居レリ其ノ他省城附
近松花江東各地鮮農モ各原住地ニ歸還收穫ニ從事中ナ
リ

(二) 額穆縣蛟河地方鮮農現地保護ノ爲哈爾賓警察署關本警
部補以下五十名ハ同地方ニ出動シタルカ小蛟河、南溝
外六ヶ部落鮮農(一一二戸作付面積三七五壙)ハ臨時蛟
河駐在ノ吉林警備副司令王樹棠少將ヲ介シ歸順申出中
ノ匪首陳烈武ト其ノ繩張區内ノ前揭八ヶ部落鮮農收穫
保護報酬トシテ一壙ニ付一石七斗(支石)ヲ交付スル約
成リ居リシ爲收穫順調ニ行ハレタリ其ノ他蛟河附近部
落民(四〇戸作付面積一、一三三二壙)モ老弱以外ノ壯
者ハ夫々原住地ニ歸還シ刈取ヲ了シタリ

(三) 盤石縣煙筒山吉海沿線附近鮮農民ハ九月上旬以來匪賊
ノ跳梁甚キニ依リ盤石縣城へ避難中ナリシ處十月二十
一日盤石縣人民會ニ收容中ノ避難民ノ壯者二百名ヲ選
ヒ之ニ自衛團員ヲ附シ比較的安全ナル地方ニ於ケル約
一百壙ノ稻ノ刈取ヲ了ヘ十月三十一日盤石へ引揚ケタ
リ

任セリ
三、間島管内

(一) 十月二十二日以來間島延吉縣駱駝河子方面ノ鮮農收穫
保護ノ爲中島警部以下警察官十名武裝自衛團二十名公
安隊四名同地ニ出張現地保護ニ當リ無事收穫ヲ了セシ
メタリ

(二) 間島嘎呀河分署ニ於テハ鮮農秋收保護ノ爲十月二十七
日警察官八名ヲ鮮農民五十名牛車二十一臺ト共ニ出動
シ管内速見洞於口ニ於テ秋收妨害ノ爲集合セル共匪六
名ヲ擊退シ刈取ヲ完了セシメタリ

四、新京管内

(一) 新京警察署ヨリ十月十六日萬寶山三道溝方面ニ派遣シ
タル警察隊ハ鮮農收穫保護ノ目的ヲ達シ二十二日鮮農

接地ノ約五晌地ヲ收穫シタルニ遇キス而シテ刈取ヲ了
シタルモノモ運搬ヲ妨害セラレ其儘野積シアルモノ分

署ヲ中心トシ、二邦里附近二十晌地舊陶賴昭ニ二十
四晌地アリ依テ十月十二日ヨリ哈爾賓ヨリ派遣セル山
路警部補以下三十名ヲ同地方ノ收穫保護ニ當ラシメタ
ル處無事收穫ヲ了シタルニ依リ十八日同地ヲ引揚ケ歸

(別紙)

在滿鮮農收穫保護狀況(第二報)

一、吉林管内

(一) 永吉縣第三區荒山屯方面鮮農收穫保護ノ爲派遣シタル
吉林總領事館警察官五十名同方面ノ收穫(八十二壙)ヲ
了シタルニ依リ十月十六日同縣第十區大屯地方鮮
農四十五戶(次ノ如き)人口二百六十名ノ收穫保護ノ爲同地ニ移
動シタルカ目下刈入順調二行ハレ居レリ其ノ他省城附
近松花江東各地鮮農モ各原住地ニ歸還收穫ニ從事中ナ
リ

(二) 額穆縣蛟河地方鮮農現地保護ノ爲哈爾賓警察署關本警
部補以下五十名ハ同地方ニ出動シタルカ小蛟河、南溝
外六ヶ部落鮮農(一一二戸作付面積三七五壙)ハ臨時蛟
河駐在ノ吉林警備副司令王樹棠少將ヲ介シ歸順申出中
ノ匪首陳烈武ト其ノ繩張區内ノ前揭八ヶ部落鮮農收穫
保護報酬トシテ一壙ニ付一石七斗(支石)ヲ交付スル約
成リ居リシ爲收穫順調ニ行ハレタリ其ノ他蛟河附近部
落民(四〇戸作付面積一、一三三二壙)モ老弱以外ノ壯
者ハ夫々原住地ニ歸還シ刈取ヲ了シタリ

(三) 盤石縣煙筒山吉海沿線附近鮮農民ハ九月上旬以來匪賊
ノ跳梁甚キニ依リ盤石縣城へ避難中ナリシ處十月二十
一日盤石縣人民會ニ收容中ノ避難民ノ壯者二百名ヲ選
ヒ之ニ自衛團員ヲ附シ比較的安全ナル地方ニ於ケル約
一百壙ノ稻ノ刈取ヲ了ヘ十月三十一日盤石へ引揚ケタ
リ

任セリ
三、間島管内

(一) 十月二十二日以來間島延吉縣駱駝河子方面ノ鮮農收穫
保護ノ爲中島警部以下警察官十名武裝自衛團二十名公
安隊四名同地ニ出張現地保護ニ當リ無事收穫ヲ了セシ
メタリ

(二) 間島嘎呀河分署ニ於テハ鮮農秋收保護ノ爲十月二十七
日警察官八名ヲ鮮農民五十名牛車二十一臺ト共ニ出動
シ管内速見洞於口ニ於テ秋收妨害ノ爲集合セル共匪六
名ヲ擊退シ刈取ヲ完了セシメタリ

四、新京管内

(一) 新京警察署ヨリ十月十六日萬寶山三道溝方面ニ派遣シ
タル警察隊ハ鮮農收穫保護ノ目的ヲ達シ二十二日鮮農

二 東北治安状況および居留民保護問題

225

昭和7年11月11日

在奉天森島總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

東邊道兵匪討伐後の避難民帰還状況について

奉天 11月11日後発

人側ニ於テモ農繁期ノコトトテ馬車ノ傭入困難ナリシ
爲少數ノ馬車ニテ前後十三回ニ亘リ糲約五百石ヲ公主
嶺ニ運搬シ殘糲一千五百石ハ同地村長ニ保管ヲ托シ鮮
農民三百餘名ハ警察隊ト共ニ十月三十一日公主嶺ニ引
揚ケタリ

(三)伊通縣虹牛哨(收穫豫想高一千四百石)ハ小部隊ノ匪賊
横行スルモ大体收穫シ得ル見込ミナリ

五、鐵嶺管内

(一)開原滿洲國警察當局カ第七區嵩山堡管内及第二區李家
台地方ニ警察隊ヲ派遣シ鮮農刈入ノ保護ニ當リ更ニ我
警察隊ノ刈入現地保護實施ニ因リ避難鮮農民二百九戸
一千九十一名ハ十月中旬原住地ヘ歸還セリ

(二)鐵嶺警察署ヨリ大甸子ニ派遣セル森田警部補以下八十
六名ハ十月十日迄ニ同地附近ニ於ケル收穫保護ノ任務
ヲ了ヘ十四日東亞勸業會社經營水田收穫保護ニ向ヒタ
リ

(三)開原縣沙河溝孟家塞居住鮮農民四戸ハ水田二十三天地
ノ收穫ヲ了シタルモ附近ニ蟠居セル匪賊ノ爲其ノ搬出
困難ナルニ依リ縣警察隊ノ出動ヲ要求シタルニ依リ十
九日頃迄同地滯在ノ豫定ナリ

六、奉天管内

(一)撫順警察署ヨリ十月三日撫順縣東社居住鮮農收穫保護
ノ爲警察隊ヲ派遣シタル處天候其ノ他ノ關係ニ依リ刈
入遲延シタルモ十四日迄ニ全部終了シ糲ハ撫順ニ運搬
ヲ了シタリ

(二)撫順警察署ヨリ鮮農收穫保護ノ爲前甸子方面ニ派遣中
ノ警察官ハ十月二十九日引揚ケ納木渾方面ハ十一月四
日引揚ノ豫定ニシテ孫家營派遣ノ三十七名ハ十一月十
九日頃迄同地滯在ノ豫定ナリ

七、安東管内

(一)鳳城縣大樓房ニ鮮農收穫保護ノ爲安東警察署ヨリ派遣
セル警察官六十五名ハ十月十一日現地ニ到着シタルカ
尙軍討伐後ノ政治工作未タ完成ノ域ニ達セス一方往電第一

匪首李子榮ノ卒ヰル賊團約二千名同地附近ニ蟠居シ現
地保護危險ナルニ依リ十五日一先ツ渾水泡ニ引揚ケ爾
來同地方鮮農ハ刈取不能ノ狀態ニアルニツキ酒井警部
ノ卒ヰル遊擊隊ヲ十一月三日ヨリ一週間ノ豫定ヲ以テ
出動方安東領事ヨリ關東廳警務局長ニ折衝中ナリ

(二)安東縣高麗門附近ニ十月十一日鳳凰城警察署ヨリ警察
官十八名ヲ現地ニ派遣シ收穫保護ニ當ラシメ無事刈入
ヲ了シタリ

八、其他

(一)洮索鐵道沿線王爺廟札薩克圖旗一帶ニハ鮮農合計四十
四戸二百十九名居住シ居レルカ豐作ニテ收穫高約五千
二百石ノ豫測ナリ而シテ此等鮮農ハ一時洮南地方ニ避
難シ居リタルカ最近同地方治安漸次回復シツツアルヲ
以テ原住所ニ歸還スル者多シ

~~~~~

226 昭和7年11月24日 沢田連盟事務局長(宛)電報  
内田外務大臣より  
在米国出淵大使(宛)電報

滿州里、ハイラル等抑留邦人の避難状況について

本省 11月24日後発

月十一日同隊ノ出動ヲ見尙十三日開原警察署ヨリモ署  
員五名ヲ派遣シ自警團員三十三名ヲ指揮シ討伐隊ト協  
力シ十四日右收穫物全部ノ搬出ヲ完了セリ

(四)鐵嶺警察署ヨリ十月二十一日森田警部補以下三十六名  
施家堡子ニ出動シ鮮農收穫保護ニ當リタル爲同地鮮農  
ハ十一月一日迄ニ刈取り脱穀ヲ完了シ糲二千二百石ヲ  
鐵嶺ニ運搬セリ

264

## 往電合第二〇七七號ニ關シ

一、我交渉委員長小松原大佐外二名ノ先發隊ハ十一月十一日

齊々哈爾發飛行機ニテ「ダウリヤ」着「マツエフスカヤ」

ニ到レルカ未タ蘇炳文側ト直接交渉開始ノ運ニ至ラス

三、第一次露領内引揚邦人ハ十八日「マツエフスカヤ」發浦

潮經由十五日敦賀着ノ豫定ナルカ滿洲里以外ノ邦人婦女

子及非戰鬪員引揚ニ付テハ我方ノ依頼ニ基キ在滿洲里

「ソ」聯領事カ蘇炳文軍側ニ督促ノ結果十一月二十一日

滿洲里及「ジャライノール」在留邦人三十八名(内男二十

七名)滿洲里ヨリ「マ」ニ安着セル趣ナリ「ソ」聯領事ノ

言ニ依レハ海拉爾ニ集結中ニシテ海拉爾ノ婦女子及非戰

鬪員ハ一週間後ニ避難ノ運ニ至ルヘント

壽府ヨリ在歐各大使及巴里聯盟ニ轉報アリタシ

227 昭和7年12月5日

内田外務大臣より  
在米國出淵大使

宛(電報)

マツエフスカヤに集中のハイラル等在留邦人

浦塩經由帰国について

~~~~~

内田外務大臣より
在ソ連邦天羽(英)ニ臨時代理大使より

228 昭和7年12月8日

モスクワ

12月8日発

日本軍先頭部隊の滿州里到着について

本省 着

~~~~~

昭和七年十二月八日在莫斯科天羽代理大使發内田外務大臣

## 合第二二六二號

往電合第二一七四號ニ關シ

一、我方交渉委員ト共ニ「マツエフスカヤ」ニ滯在中ナリシ

滿洲國側交渉委員邵麟、王濟衆ノ兩名ハ蘇炳文側ニ照會

ノ結果蘇炳文ニ面會内交渉ヲ遂クル爲十一月三十日「マ」

發浦潮ニ向ヒ歸國ノ途ニ上レリ

二、我方交渉委員ト共ニ「マツエフスカヤ」ニ滯在中ナリシ

滿洲國側交渉委員邵麟、王濟衆ノ兩名ハ蘇炳文側ニ照會

ノ結果蘇炳文ニ面會内交渉ヲ遂クル爲十一月三十日「マ」

發海拉爾ニ赴ケリ

壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及巴里聯盟ニ轉報アリタシ

發海拉爾ニ赴ケリ

壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及巴里聯盟ニ轉報アリタシ

發海拉爾ニ赴ケリ

壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及巴里聯盟ニ轉報アリタシ

在ソ連邦天羽(英)ニ臨時代理大使より

内田外務大臣宛(電報)

~~~~~

昭和七年十二月八日在莫斯科天羽代理大使發内田外務大臣

~~~~~

## 宛電報要旨

満洲里山崎領事發電報

五月未明迄ニ支那軍全部撤退同日午前中縣長ヨリ臨時治安

維持會ヲ組織シ市内平穩ナリ當館員及殘留邦人全部安全監

獄拘禁中ノ警察隊員全部ヲ支那軍ニテ「マツエフスカヤ」

ニ連行セリ縣長ノ言ニ依レバ浦潮領事ニ引渡ス筈ナリト六

日午前零時半日本軍先頭部隊當地ニ到着六日午後二時ヨリ

後續部隊續到ノ見込ナリ

廢止ス

229 昭和7年12月16日 在奉天中野總領事代理より

在滿州國武藤大使宛

三矢協定の廢止について

昭和七年十二月十六日附在奉天中野總領事代理發信在滿武

藤大使宛報告要旨

三矢協定廢止ニ關スル公文別紙ノ通り十二月署名捺印濟ナ

リ

(別紙)

中華民國十四年六月十一日 朝鮮總督府警務局長三矢宮松ト

大正十四年六月十一日 朝鮮總督府警務局長三矢宮松ト

奉天省警務處長干珍トノ間ニ協定シタル「不逞鮮人ノ取締

方ニ關シ双方ノ協定」及「不逞鮮人取締施行細則」ハ之ヲ

廢止ス

昭和七年十二月十二日 大同元年十二月十二日

朝鮮總督府警務局長 池田清代理  
奉天省公署警務廳長 三谷清(印)